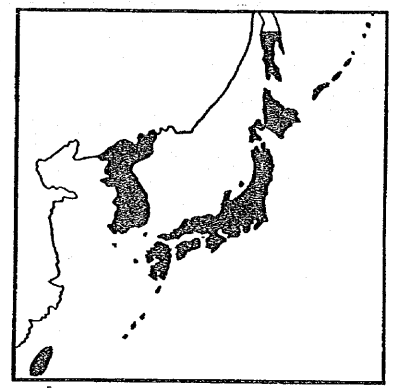


訂 五
書科教理地新子女

篇理地本日

著郎四與田西



京 東
兌發店書黒目

366

447

K230.24

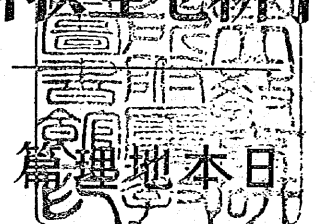
49f

K230.24

49f



女子新地理教科書



東京
目黒書店發兌



山 土 富



島 松



富士山

富士山は我が國で最も高い火山で、又最も形のととのつた山である。高さ三七八米。頂上には舊噴火口がある。神々しい姿は昔から詩や歌などによまれて、國民に大きい感化を與へて居る。この圖は静岡縣大宮町の邊から北東に眺めたところで、廣々とした裾野には村や森が分布し、富士身延鐵道の列車が走つて居る。工場は富士製紙會社である。この會社はもと富士の南麓から山腹一帯の大森林の木材を原料として居つたが、今では原料がここでは得られなくなつたので、遠く北海道・樺太・シベリヤ・北アメリカ等から、木材・パルプを求めて製紙をして居るのである。

松島

日本三景の一として有名な宮城縣の松島は仙臺灣内の松島灣に散ばる大小數百の島々から成つて居る。島は何れも凝灰岩といふ、軟かい灰白色の岩石から成り、波や雨水の侵蝕を受けてさまざまの形をなし、その上には緑色濃い松がとり／＼の姿にはえて、清い海にその蔭をひたしてゐる。この圖は富山から見た景観である。鹽釜と松島との間には定期船が通つてゐる。この外和船・遊覽船を雇つて島巡りをすることも出来る。諸子はこれから此の二圖に示す様に土地自然の有様と、自然と人との關係を調べて行くのである。

緒言

本書は外國地理篇及び地理概説篇と彼此相連絡して、拙著「新地理教科書」の全體系をなし、女子教育上有効適切ならんことを期した。

本書の編纂上特に注意せる點は次の如くである。

- 一 各地方を主とし、日本の總説を簡にしたのは經驗上適切と信じたからである。
- 二 各地方の順序は北より南に及ぼしたが教師の意見により各地方の順序を前後するも使用上不便なき様にした。
- 三 地理區と共に府縣區も實用上大切であるから相當に兩者の調和を計つた。
- 四 教材の選擇については從來のものよりも一層輕重を附し、所謂模式的教授又は學習方法を行ふに便にした。即ち教材の徒らに多くして煩瑣不徹底の學習に終るよりも、寧ろ主要教材を中心として地理的能力を練るに便なる様工夫した。然し他面に於て女子向の教材として衣食住等の家事的事項及び地方風俗については充分注意を拂つた。
- 五 特色あり利用度の高い寫真地圖統計圖を多數に挿入し、之に出来るだけ平易且詳密な説明を附して本文を補足した。従つて本書は生徒學習用の參考書としても相當の材料を提供したことになる。この點は本書の最も努力した點で、生徒の學習興味を惹起し、精密

- 六 な観察力と理解力を得しむると共に教師の教授上にも便益が多いことと信ずる。
生徒の自學自習を促し其の自發的研究を盛ならしめんとする自學主義は近時教授界の趨勢である。この點より見て本書は前項の注意の外更に各章末に學習の中心となるべき問題を掲げた。此の問題は各教材の中心點となるべきもので教師は之を中心として教授を進むるもよく學習法を採る教師にあつては固より生徒をして各種の問題を提出せしむるを可とするも之を以て中心問題として採用することが出来るのである。
- 七 作業主義も近時教授界の一主張であるから作業に適する實習問題を本文や欄外や挿畫の説明文中に適宜按排附加し生徒の地理的能力の涵養に便にした。
- 八 各地方の人文を説くに當りては務めて其の地文との連絡に注意する様記述し又其の文章は出来るだけ平易にした。
- 九 統計は出来るだけ最新のものにより且務めて圖化した。
- 一〇 小學校地理科との連絡に注意し欄外や挿畫の説明中に特に其の參照挿畫の註記を加へた。又外國地理概説及び他教科との連絡にも充分の注意を拂つた。

昭和十年九月

著 者 識

訂五 女子新地理教科書 日本地理篇

目 次

第一章	緒説	………	一
第二章	樺太地方	………	四
第三章	北海道地方	………	三
第四章	奥羽地方	………	六
第五章	關東地方	………	七
第六章	中部地方	………	五
第七章	近畿地方	………	七
第八章	中國地方	………	九
第九章	四國地方	………	九
第十章	九州地方	………	一〇五

第十一章	臺灣地方	………	二二〇
第十二章	朝鮮地方	………	二三五
第十三章	總説	………	二四九
附録	甲、舊道別と國名	………	
	乙、行政區劃面積人口都市	………	

目次終

訂五 女子新地理教科書 日本地理篇

西田與四郎著

第一章 緒説

一、位置 我が大日本帝國はアジア洲の東部(極東)太平洋の北西に位置し、西と北の大部分は縁邊海(オホホリツク海、日本海、東支那海)を隔ててアジア大陸に接し、南は大洋洲の諸島とマレー諸島に近く、東は太平洋を隔てて遙に南北アメリカ洲と相對してゐる。即ち我が國は極東に位置する環太平洋の一國である。

委任統治地の南洋群島を加へると、南端は北緯一度二分、東端は東經一七二度一〇分となる。

位置の調べ方に二つの方法がある。(1)他との關係から見る場合、關係的位置と(2)經緯度による場合、經緯度上の位置とである。我が國の範圍を經緯度で示すと次の如くである。

北端 北緯五〇度五五分

東端 東經一五六度三一分

南端 北緯二〇度二五分 西端 東經一一九度一八分

三頁参照のこと
以下之にならふ
*面積三千五百方
*面積二千一百
*面積二千百
*面積二千百

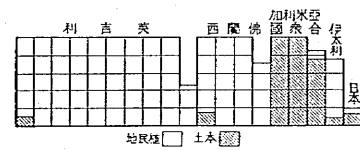
▲この外、關東州
約百萬人、南洋
群島八萬人

二、面積人口 我が國は日本列島と朝鮮半島より成り、全面積凡そ六十八萬方呎である。尙この外に關東州租借地と南洋群島委任統治地がある。その中、本土、九州、北海道、は約六割を占める。之を世界の四大國イギリス、フランス、アメリカ、に比べると我が本土はイギリス、イタリアの本土より稍大で、フランスの本土より稍小であるが、我が全土は他の四國の全土よりも遙に小である。

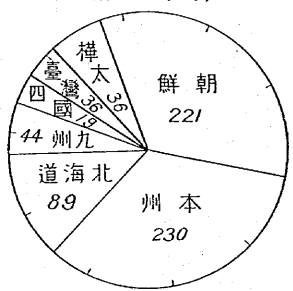
しかし我が國は風土良好で生活に適するから、人口は面積に比べて甚だ多く、總數九千餘萬人を數へ、其の中本土の人口は六千餘萬人である。之を他の四大國に比べると、我が本土の人口はアメリカ合衆國の本土に次ぎ、我が全土はイタリアを除いては最小である。しかし本土の人口密度はイギリス本土に次ぐ。

三、區分 我が本土は一道三府四十三縣に分たれる。本書は地理上から、本土、内地、八地方と植民地、外地の樺太、臺灣、朝鮮に分けた。

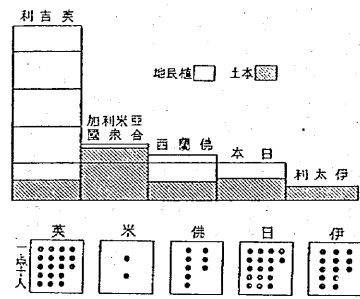
列強國の面積比較



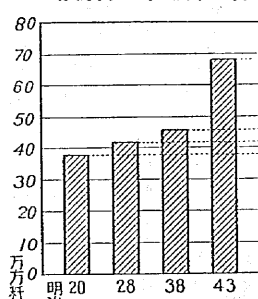
我が國各地の面積比較 (單位：千方呎)



列強國の人口と人口密度比較 (單位：平方呎)



我が國近年の面積増加



我が國各地の人口數

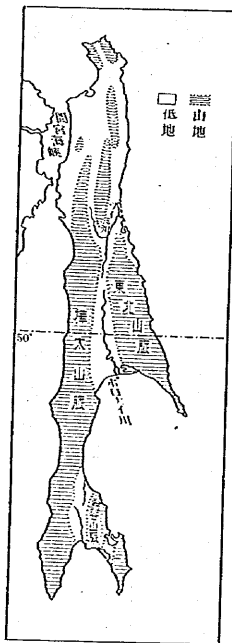
本州	五、一六二萬人
朝鮮	二、〇七九
九州	一、〇〇九
臺灣	五、〇六
四國	三、四二
北海道	三、〇六
樺太	二、九

實習 上の面積比較圖になら
つて人口比較圖を作れ

第二章 樺太地方

樺太は明治八年以來全部ロシア領であつたが、今より約三〇年前日露戦役の結果北緯五〇度以南は我が國の領土となつた寒地・性植民地である。我が國は樺太廳の下に七支廳を置いて之を治めてゐる。

* 卷二、一六頁
(尋常小學地理書
卷二の一六頁節
圖参照の略)



圖略形地の太樺

一、位置地形 樺太は千島を除けば我が國最北の地方で、東はオホーツク海に臨み、西は間宮海峡を隔ててアジア大陸に對し、北は陸境を以てロシア領に接し、南は宗谷海峡を隔てて北海道に隣る。南北に走る樺太山脈は主な分水界をなし、その東に東北鈴谷の兩山脈がある。この東西兩山脈間には北部に幌内川、南部に鈴谷川、内淵川流域の平野が廣がつてゐる。海岸は亞庭灣多來加灣の外、一般に出入が少く

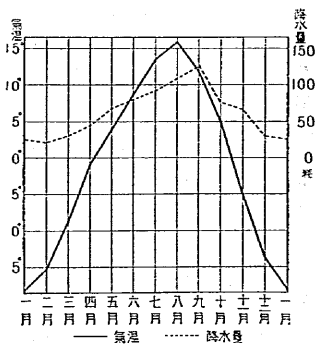
屬島も海
豹島海馬
島だけで
ある。

二、氣候

樺太は我が國の最も冷涼な地方で冬は川も

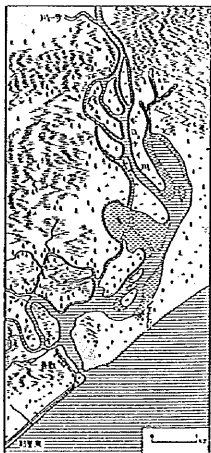
海岸も概ね凍る。

數香の氣候



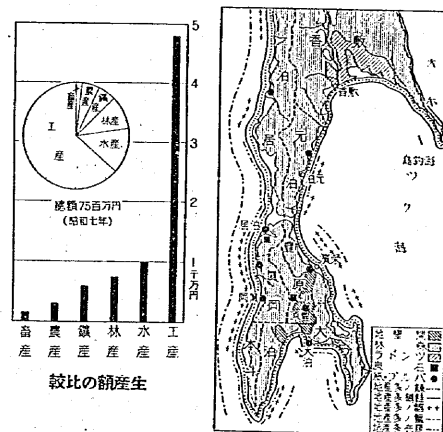
を量水降温氣の主郷に岡上 習實
。よべ比を候氣の地兩てし入記

一五三頁の等温線圖で分るやうに、樺太の氣温は一月には南北の差甚しいが零下一二—二〇度七月には之に反する約一六度。年平均では西岸は東岸よりも暖いのは海流の關係である。之は平均氣温であるが北部の數香では最高三六度、最低零下三九度となつたこともある。上圖の數香の氣温グラフも平均數であるが零度以上の月は半年である。次に降水量は樺太は我が國の最少地方である(二五



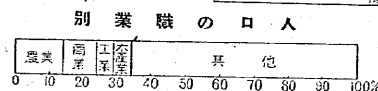
野平内幌
。るあでることゐの鹿馴てえ生々點が松葉落に地苔で
。いなし適に作耕でラドンツは野平の此

六



一五五頁
地二、一九頁
一五九頁
地二、一九二頁
○頁

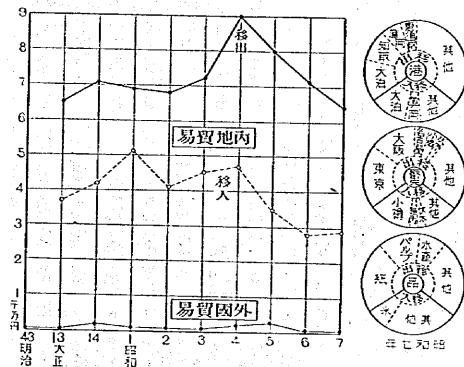
只麥馬鈴薯豆類等を産する。しかし寒地性の原生林が廣く分布するので木材を産し又パルプ工業がおこつてゐる。



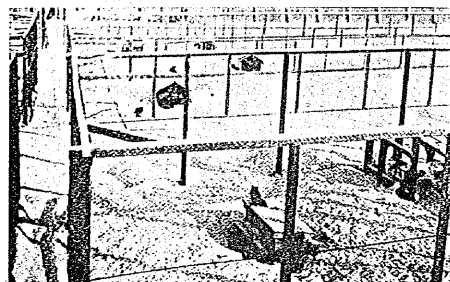
三頁。降雪期間は低地では十月下旬から五月中旬頃までとあり、海氷は十一月下旬からはじまり四月中旬に流氷となる。

三、産業
氣

候の關係で
農業は南部
の低地及び
海岸に少し
く行はれ、米
の產出なく、



(泊大) 場 狐^マ 養



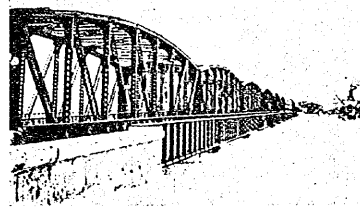
毛皮を賣るために行ふ塞地の産業で、大正四年にはじまり、年々その飼養數増加し、昭和七年には三千頭、子狐の生産數二千餘頭となつた。大泊附近が第一で、眞岡豊原地方之に次ぐ。

權ソウ 犬

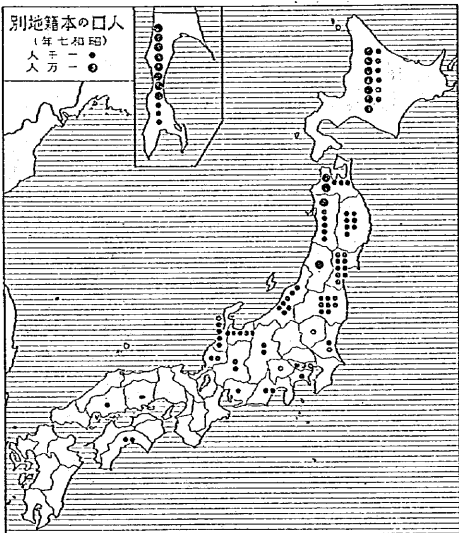
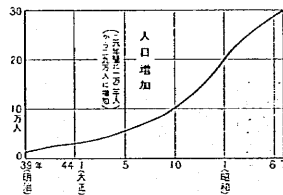


樟太は雪の景は多くはないが十一月下旬頃から四月上旬頃まで根雪があるので、その期間の陸上交通は荷馬車や自動車に橇やスキーが代る。橇は馬の外に犬が用ひられる。又北方では馴鹿にひかせる

大泊の埠頭

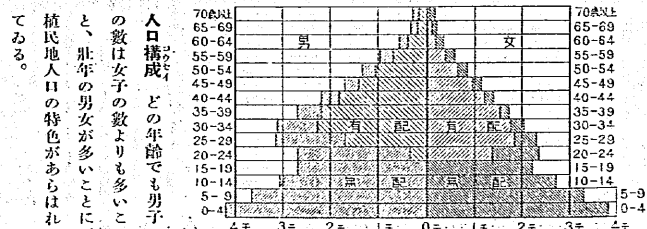


大泊港内の海米は一・二万頭には厚さ二〇センチ以上となり、沖合一キロ位まで水上に人馬の往來が出来る。圖の埠頭は岸から一キロ餘突出されたところにあつて三千トン・二千トンの汽船が各二隻同時に横付け出来る。北海道の樺太との間の連絡船は碎氷設備があるのでも茲に横付けされ、こゝで汽車と連絡してゐる。一〇頁地圖參照（尋地二、一八頁）



石炭の埋蔵は多いが、まだあまり探掘されてゐない。水産には鯨、鮭、鱈、昆布、蟹等がある。夏季には海豹島に臘肉獸が集まる。貿易は主に内地との間に行はれる。

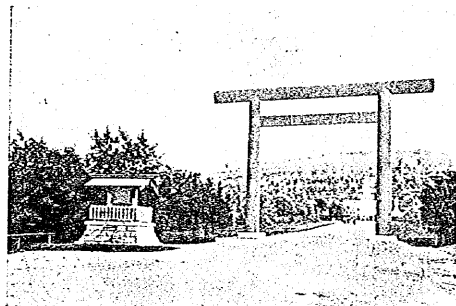
四住民
住民の大部分は内地から移



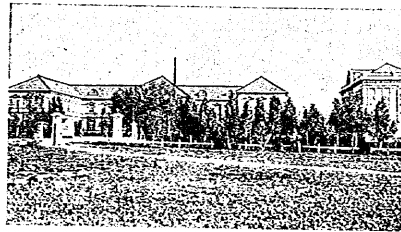
※ 陸地二、二〇頁
※ 陸地三、二二頁

樺太神社

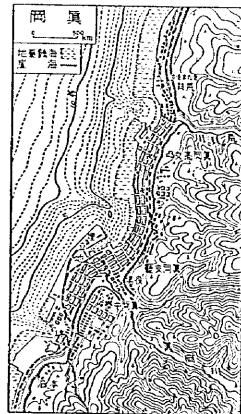
豊原町の東の郊外、スキーで名高い旭ヶ丘の中腹にあつて境内からの眺望がよい。明治四十四年全島鎮護のために建てられた官幣大社で、大國魂命・大己貴命・少彦名命をまつる。



(照参圖地頁一) 歴太樺



眞岡の港は瀬谷を利用したものである。下図には築港と海岸段丘と其下に延びてゐる市街とがよくあらはれてゐる。右の地図と比べてこの寫眞はどの方向からとつたものかを考へよ。



眞岡市街

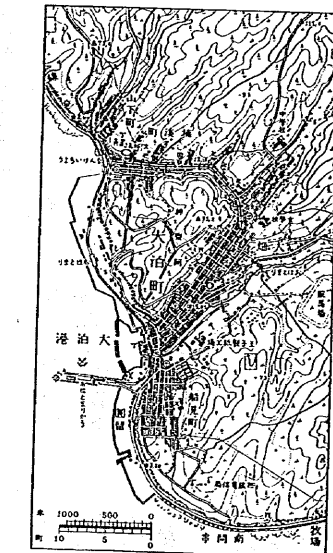


住したものであるが、位置氣候等の關係で其の人口は未だ少い。

土人は約二千人、南部のアイヌ族が主で、幌内川流域にはオロコ・ギリヤーク（ニクブン^{ニクブン}七頁^{七頁}）等が居るが、文化低く、主に漁獵生活を営む。

五交通都市

道路の發達が充分でない上に、冬の交通は殊に不便である。



(圖形地測陸) 泊大

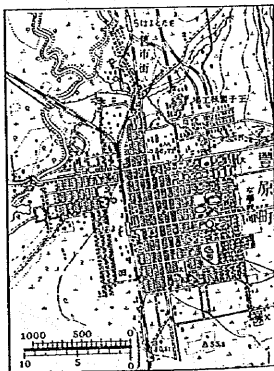
ある。鐵道は南部の低地から東岸を北上し、西岸に沿ふものとも連絡してゐる。航路は内地との間及び沿岸諸港間に通ずるが、結氷・流水・ガス等の障害がある。南



人コッロオ

岸の大泊は本島の門戸に當る。開港場西岸の眞岡は開港場で水産業の中心、本斗は不凍港である。以上の三港は何れも内地と年中貨客の連絡がある。鈴谷川流域の首都豊原は本島開發の中心をなす。

(圖形地測陸) 原豊

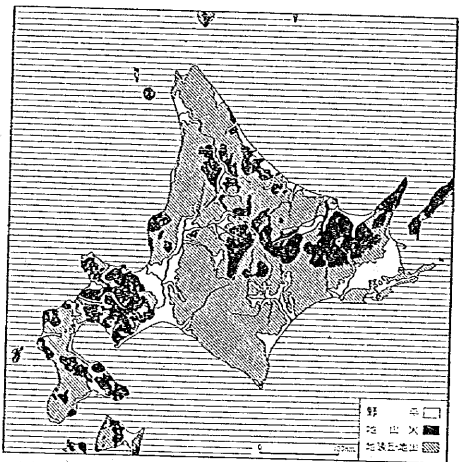


市舊・校學女・場工紙製・廳太樺
ら見がどな街市新の式交直・街
。(頁二二・頁九一・二地球)るれ

問題 我が國の寒地性植民地としての樺太を調べよ。

第三章 北海道地方

北海道はもと蝦夷とよばれ明治二年開拓使が置かれてから急に開發された地方である。現在、北海道廳の下に十四支廳七市があつて之を治める。

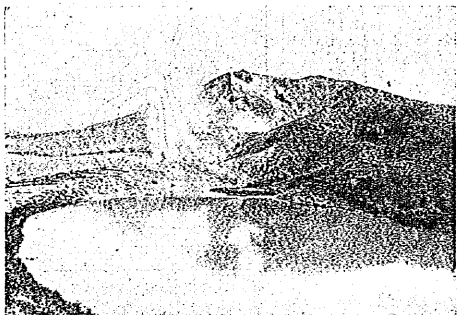


北海道の地形

一、位置 北海道本島は樺太と本州との間に位し、千島列島はその北東に連り、ロシア領カムチャツカ半島に迫つてゐる。

二、地形 本島は石狩平野を界として、胴體部と半島部とに分つことが出来る。(1) 胴體部は菱形をなし、蝦夷山脈(東北に北見山、高雨山脈、西北に天鹽山脈、夕張山脈)南北に走り、千島火山脈は千島列島より本島に入り、之と十字形に交り、その會合點の大雪山、十勝岳附近は土地が高い公園。蝦夷山脈の東にある十勝、釧路、根室、北見の三平

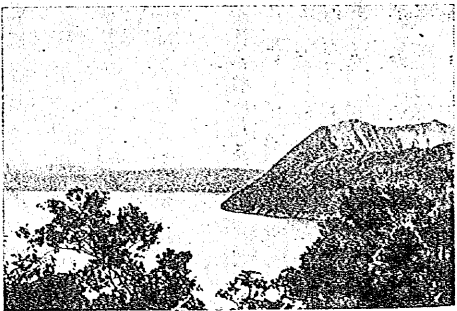
※ 平地二、三頁



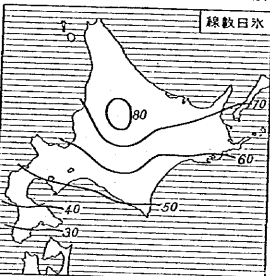
旭岳、大雪山、火山区の最高峰(二九〇米)と見池(口裂)

野は概ね臺地性で、十勝川、釧路川、常呂川等その中を流れ、沿岸は大抵單調な砂濱であるから良港なく、オホーツク海方面にはサロマ湖能取湖、網走湖等の潟が多い。蝦夷

山脈の東西二列の山脈間には天鹽川、石狩川の上流に名寄、上川、富良野の諸盆地、開け、下流には天鹽、石狩の二平野がある。殊に石狩川は水運の利大で、下流には汽船通じ、石狩平野は地味肥沃で開拓が最も進んでゐる。この方面の沿岸も大抵は砂濱で砂丘も多いから良港がない。(2) 半島部は魚尾の如き形をなし、那須火山脈に屬する駒岳、羊蹄山、蝦夷山、珠山、登別



旭岳、大雪山、火山区の最高峰(二九〇米)と見池(口裂)



下以點米が温氣高最の日一は字數
。す示を數日の中年一たつたに

三、氣候　氣候は、内地に比べる
と、一般に冬長く、氣溫¹⁵³が低い。

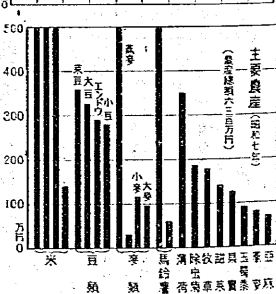
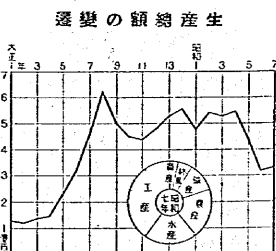
内陸性(大陸性)氣候は一日中又は一年中の寒暑の差が大で、雨量少く、海洋性氣候とは反對の氣候である。

次の數字で、五頁のやうな氣溫降水量比較表を作つて説明を加へよ。

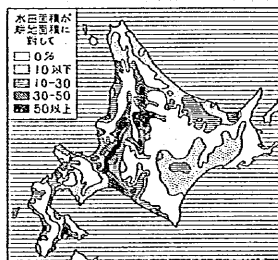
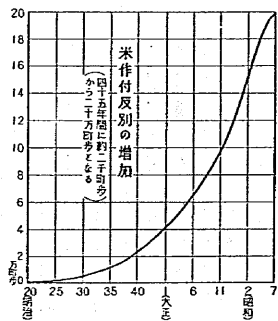
[illegible]

拓の進歩に伴ひ、産業は次第に發達してゐる。農業

は内地各府縣のものより規模大きく氣候の關係で、豆類大豆、小豆、豌豆、蚕豆、豌豆、豌豆、麥類燕麥、小麥、大麥、馬

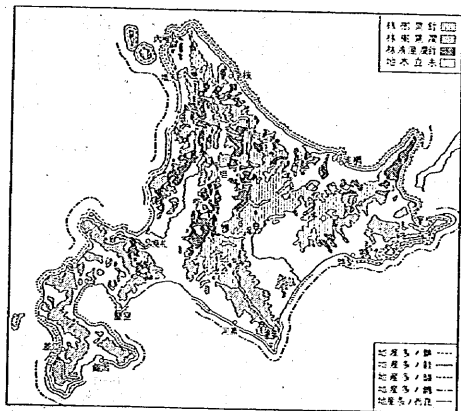


※ 冻地二、七頁



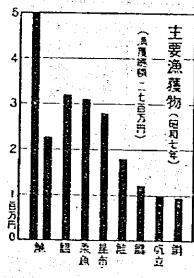
米は我が國の最も大切な農産物であるから、北海道でも次第に研究を重ねて冷地に適する品種を直播の方法によつて殆んど全土に作るやうになつた。しかし一反當りの收穫は全國の平均より遙に低い。上圖は米作反別の發達を示し、中國は南西部より次第に東部に廣つた年代を示し、下圖は米田の密度を示す（一七頁參照）。

鈴薯薄荷亞麻
甜菜等の畑作
は概ね内地第
一であるが、米
の産額も年年
増加して來た。
従つて、是等の
農産物を原料



としてビール、焼酎、片栗粉、小麦粉、薄荷、砂糖、麻布等の製造が行はれる。牧畜は原野廣き故盛に行はれ、馬を主とし、豚、牛、綿羊等之に次ぐ。新冠の牧場を始め、大きな牧場が少くない。牛乳を原料とする煉乳、バター等の製造も起つて來た。森林は本島面積の過半を占め、蝦夷松、榎松、ナラ等は建築用材、製紙等に利用せられる。釧路は石狩炭田の石炭を主とし、鐵、金、硫黄等を産出する。

し、魚介、海藻に富む。その中、鰯を第一とし、鰯、魚、鮭、鱈、蟹、帆立貝、昆布等の産も多い。是等は乾製、燻製、鹽製又は罐詰として本州及び滿洲支那等に送られる。



*一八頁
*一五頁

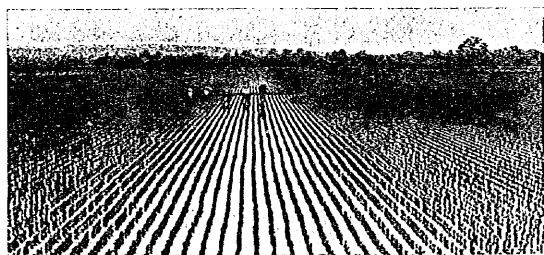
開墾初期の景

これは石狩平野の北邊、深川附近の景で、森林地開墾のはじめの伐木を示す。作物はこの株の間に作り次第に株を取り去る。

(尋地二、四頁)

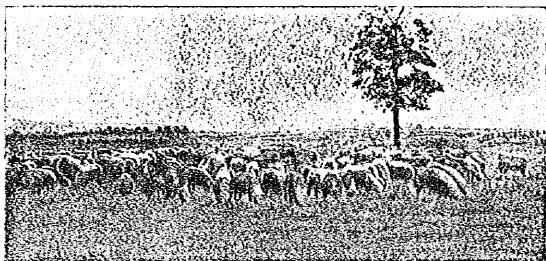


田 米



夏の高温を利用し早生種を植ゑるので、近時米田が多くなつた。耕作に機械力と家畜とを利用し規模が大きい(尋地二、八頁)。

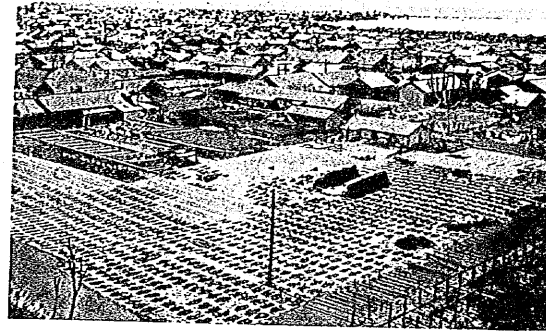
畜 牧



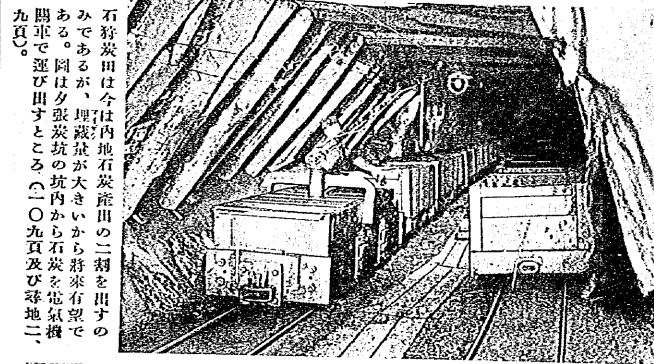
農林省所管の釧路附近の種羊場で、種羊を飼つてゐる。(尋地二、九頁)

岩内漁港

圖の手の前は身缺嶺ムシロには鯨の締拍が干してある。遠景に港内が見える。(坪地一五頁)

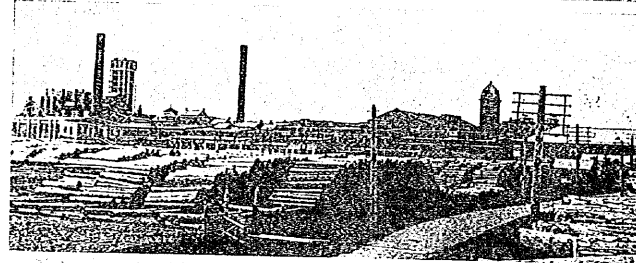


夕張炭坑



石狩炭田は今内地石炭産出の二割を出すのみであるが、埋蔵量が大きいから将来有望である。圖は夕張炭坑の坑内から石炭を電気機関車で運び出すところ。(二〇九頁及び坪地二九頁)

苫小牧の製紙工場



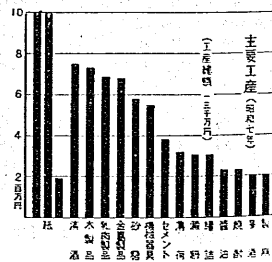
原をツマドトツマゾエ。るあで景全の場工の社合紙製子王
碎し熱を木原れ入に室木調で力械挽らか池木貯を之しと木
。(頁〇一二地坪)るあでのすと紙に達てい

以上の如く製造工業は主に本島産の原料と動力を以てするのである。

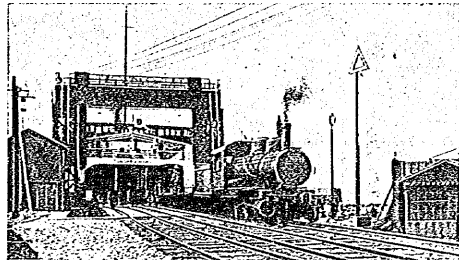
五交通 道路鐵道は次第に敷設せられて開拓を促してゐる。函館線室蘭線宗谷線根室線は本島の鐵道幹線をなし本州及び樺太の鐵道との連絡もよい。其の他西部の留萌線日高線東部の名寄線石北線網走線釧網線等の諸鐵道がある。

海上交通は冬季の風雪とオホツク海方面の早春の流水と太平洋方面の暖季の濃霧のために時々妨げられる。主な航路は函館小樽を起點として、本島の諸港を連れ、又本州樺太とも連絡がある。

六住民 人口は總數凡そ三百萬人、その大部分は内地からの移住民で、年々數萬の移住者はあるが、人口の密度は甚だ



青函連絡船 函館港の状況。船の下部から貨車を機関車で引出すところである。

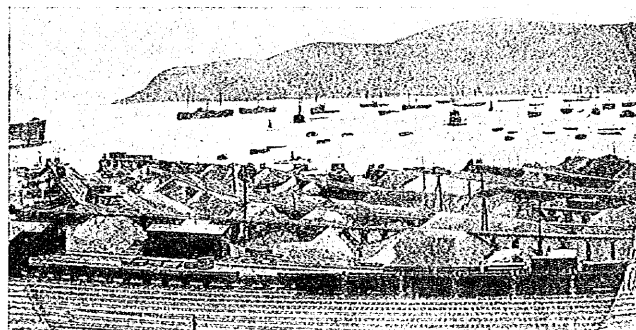


函 館 港



。るあで港良の内灣館函の形巴
。觀景の内港た見てつ向に北は國

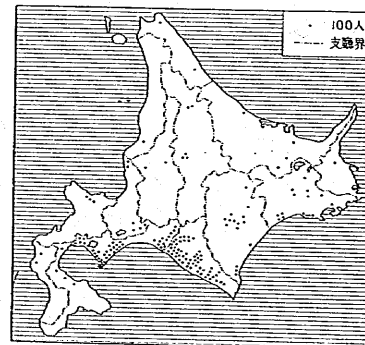
小 樽 港



高はに端左。るあで景の場出積炭石の宮手の端西北の港。
(頁三一・二地券)。るえ見がと堤波防と部一の橋段架

第三章 北海道地方

小である。原住民アイヌ人は日高膽振に多く、その總數約一萬六千、大に内地化したものが、なほ特別の風習をもつてゐる。

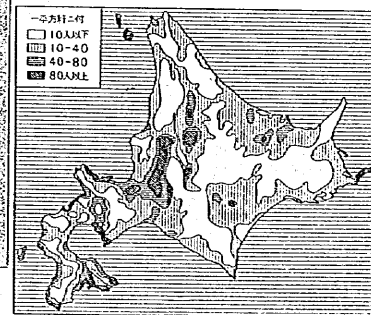
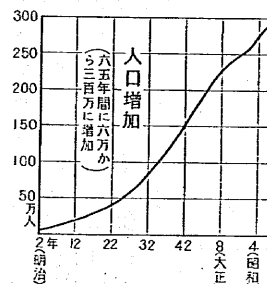


布分の人ヌイア

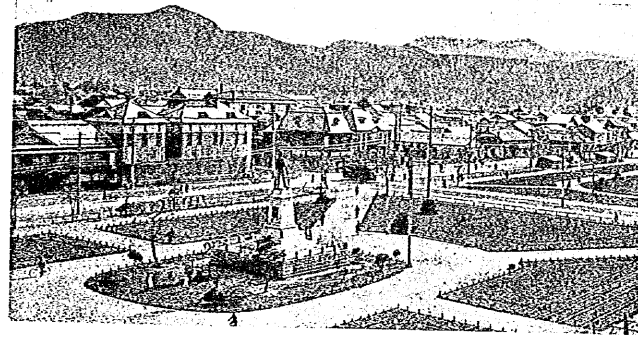


の俗風の子小、兒小と子女のヌイア
。(頁六・一地券)よ見をのたし化地内

人口密度(下圖)



札 幌 市 街



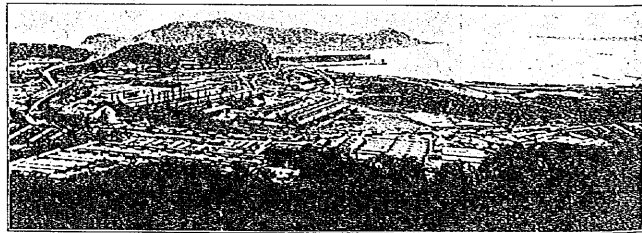
この市街の中心に東西に長く大通り（幅百餘米）をもつての公園のやの
（図二一四頁）。るあてに山の向は市の西南にあてにる。るあてに山の向は市の西南にあてにる。

旭 川 市 街



この市街の中心に東西に長く大通り（幅百餘米）をもつての公園のやの
（図二一四頁）。るあてに山の向は市の西南にあてにる。るあてに山の向は市の西南にあてにる。

七、處誌 半島部 胴體部 千島の三區に分ける
ことが出来る。(1) 半島部 函館市は本島の
南門をなし、早くから開けた開港場で、水産物
の取引が多い。西岸には本島最古の都市福
山^{（舊名）}と、漁港江差^{（サシ）}、岩内^{（イワノウチ）}等がある。小樽市は本
島第一の開港場で、石狩平野をひかへ、本島物
産の積出し多く、市況活潑である。室蘭市は
良港で、石狩炭の積出多く、又大きな製鋼所が
ある。
(2) 胴體部 北見、日高、兩山脈により更に東西
の二部に分つ。(イ) 西部の主要地は石狩平野
である。その中心都市の札幌市は、道廳北海
道帝國大學の所在地で、市街の建設新式に屬
し、街路廣く、市區が井然としてゐる。商工業



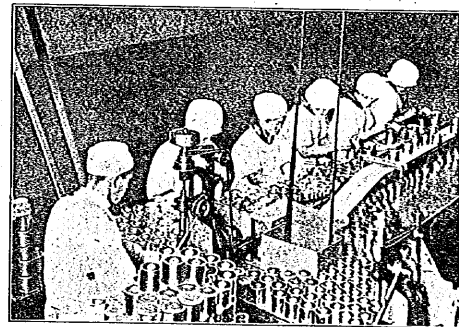
この市街の中心に東西に長く大通り（幅百餘米）をもつての公園のやの
（図二一四頁）。るあてに山の向は市の西南にあてにる。るあてに山の向は市の西南にあてにる。

も盛んで、麥酒・製麻・製材・製粉・煉乳等の諸工場がある。岩見澤は近傍に多くの炭田を控へ、鐵道の會點に發達した商工業都市である。

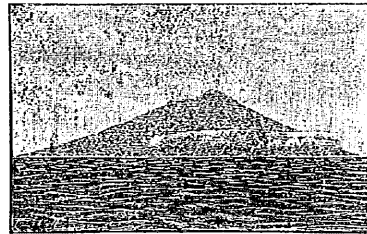
上川盆地は本島のほと中央に位し、その中心は旭川市で第七師團司令部があり、商工業も盛んである。

北端の稚内は樺太に對する連絡港となつてゐる。

(ロ) 東部の十勝平野の中心帯廣市附近には甜・菜・糖の工場がある。釧路根室平野の西方の門戸釧路市は開港場で、木材・水産物の集散多く、東方の厚岸は昆布・牡蠣等を産する。根室は東岸の開港場で、水産物の製造取引が行はれる。然し冬季は氷結するから船は花咲港に着いてこの町と連絡する。北見平野では



煉乳の製造



阿部度山 火山 北海道上 第三九三九米

網走が最も著れる。

(3) 千島列島 三十餘の火山島からなり、その總面積はほぼ四國地方の半分に等しく、長さは一、千軒ほどに互つてゐる。地形險しく、地味やせ、冬の寒さ甚しく、交通も不便なので、國後・擇捉・得撫・幌筈・占守等四五の島の外は住民なく、住民の數も僅に二萬人にすぎない。しかし近海は鮭・鱒等の魚族に富むから、夏だけ

漁業に來るものがある。

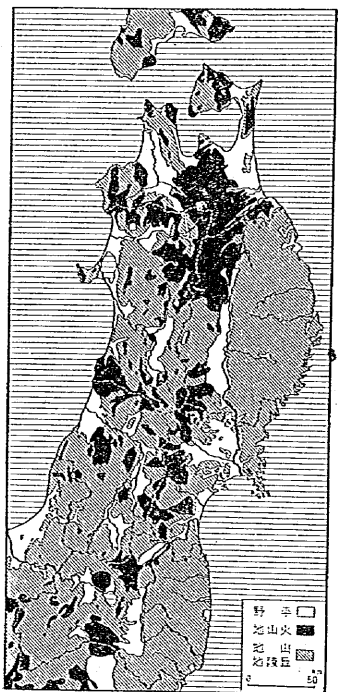
問題 新開地としての北海道を調べ、更に其の將來を考へよ。

第四章 奥羽地方

實習 附録と附圖
を見て行政區劃
圖をかけ。
問題 主な火山に
ついて調べよ。

一、位置・區分 奥羽地方は本州の北東部を占め、東北地方とも呼ばれる。古への陸奥出羽の地で行政上青森岩手宮城福島秋田山形の六縣に分たれ、地理上、東部青森縣宮城縣福島縣と西部山形縣秋田縣の二區に分たれる。

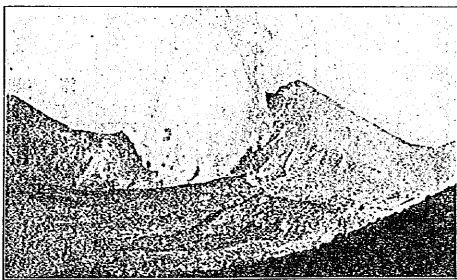
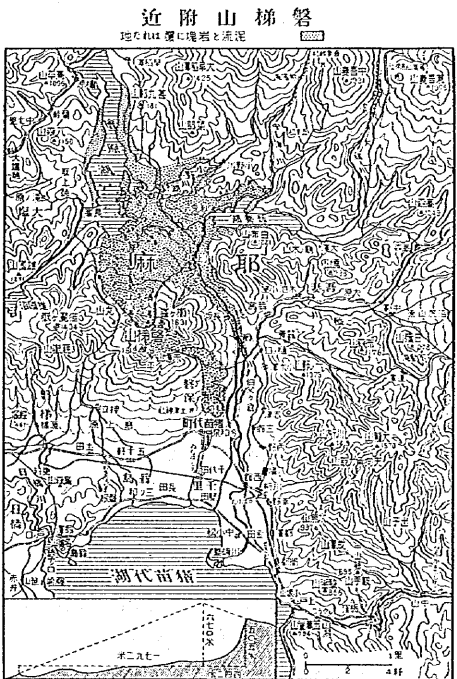
二、地形 この地方には南北に走る三條の山脈がある。中央にある

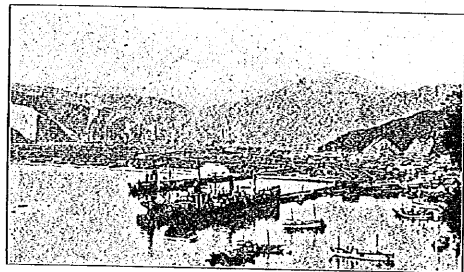


奥羽の地形

奥羽山脈は、太平洋斜面と日本海斜面との分水界をなし、那須火山脈之に沿うて噴起する。太平洋岸には仙臺平野を界として、南北に高原性の北上山脈阿武隈山脈連り、奥羽山脈と

の間の縦谷を北上阿武隈の二川が流れる。西方には出羽丘陵と越後山脈がある。鳥海火山脈これに沿うて迸發し、奥羽山脈との間に



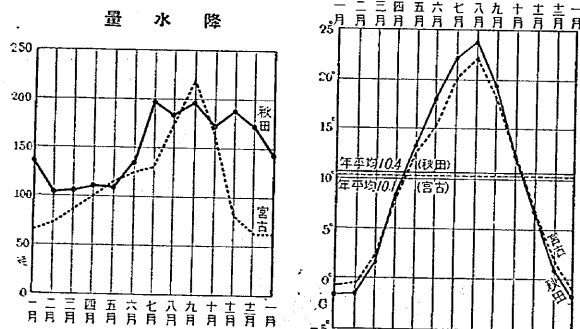


釜石港のメスアリの一つで鍛製所も見える。

※かかる谷を横谷といひ、多くは峡谷になつてゐる。
※人口
※平地、三六頁

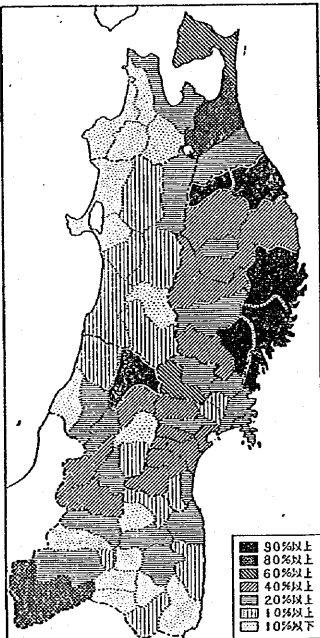
盆地列を作り、阿賀川最上川雄物川米代川が之を横ぎつて西に流れる。北部には津軽下北の二半島があつて陸奥灣を抱き、東岸には牡鹿半島が突出して仙臺灣を擁し、西には男鹿半島があつて八郎潟を包む。太平洋岸の中部にはリアス式の小灣が多いが、北上山脈がすぐ海岸にせまつて後背地の發達が少いから、盛んな商港はない。

三、氣候 位置と親潮とのために本州中氣溫最も低く、夏の低溫は時に農作物に冷害を與へる。冬は寒さはげしく、日本



二、上の図は東西北南の氣候の差を考へよ。

米の收穫が五割以上減つた米田を郡別にしらべて、その郡の米田總面積と比へた割合を示す。例へば九〇%以上の郡は米田の九割以上が平年の半分の以下の收穫しなかつたことを意味する。



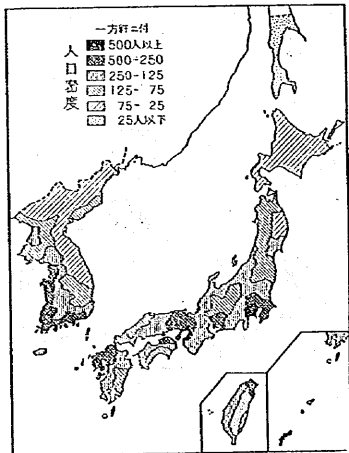
の進歩も著しくない。山地原野多く耕地が割合に少いから農産物は少いが東部諸縣の原野には牧畜よく行はれ、又鑛業林業も各地に盛ん

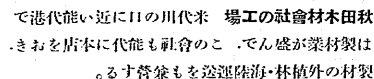
各地方の人口密度は
巻末の附録を見よ。

冷害 (昭和九年)

海斜面は對馬海流と北西風とのために積雪多く、浪も荒いから交通をさまたげる。

四、産業 氣候寒冷交通不便のため、本州中人文の開發最も遅れ、人口密度も少く、産業





A circular diagram is overlaid on the bottom right corner of the image, divided into four quadrants. The quadrants are labeled as follows:

- Top-left quadrant: 九洲
- Top-right quadrant: 美洲
- Bottom-left quadrant: 澳洲
- Bottom-right quadrant: 真他

Below the circular diagram, the text "滿地大" is written.

マゴボナシ
てついと駒部南し産を馬良らか昔は近附岡盛 **市馬の岡盛**
月九らか月六年毎は市馬。るあで景の場市馬は岡 い高名
岡の下右。る懸を價の馬で中の物建のこ れは行々時に中
す示を合割の別方地の（年七和昭）数頭の馬の地内は

I 尋地一、四二頁
II 尋地一、一八頁
III 三二頁
尋地一、四三頁
實習 産業分布圖
をつくれ。

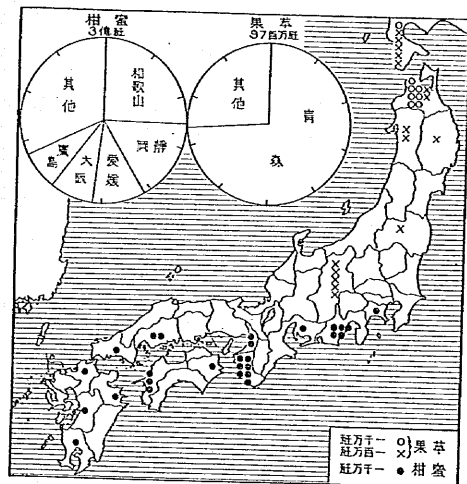
があつて、能代港をはじめ秋田・大館等には製材の業が盛んである。鑛産物には秋田縣の銅、銀、釜石（岩手縣）附近の鐵、常

磐炭田島嶼 縣平の^{III}秋田 附近 油田秋田縣 等 が高

養蠶は
阿武隈川

の流域と米澤附近とによく行はれ郡山・福島^{山形}の製絲、川俣^{福島}の羽二重米澤^{山形}の絲織等がある。

漁業は太平洋方面の方が盛んで、鰯・鯉・鯨等がとれる。但青森市の鮭・鱒工業の原料は主にカム

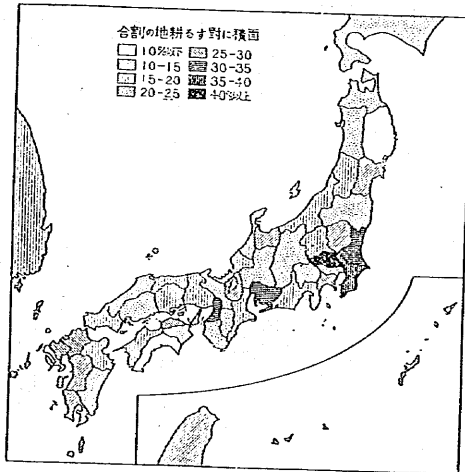


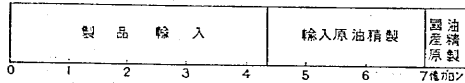
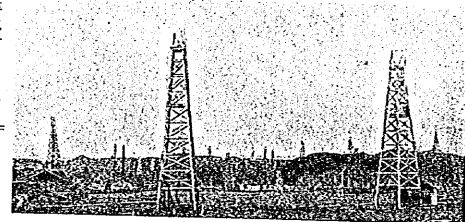
(地内) 布 分 の 柑 蜜 と 果 菜

本大豆馬
縣に多く
地方の産
は酒田
等から
移出せ
られる。
寒地に
適する

苹果は青森縣に産額最も多く、馬鈴薯も各地から産する。牧畜は東部の地方に榮え馬の飼養が盛んで、白河^{福島}盛岡^{岩手}等の馬市が名高い。米代川の流域には杉の大森林

10%以下	25-30
10-15	30-35
15-20	35-40
20-25	40%以上





を田油の近附。るあに方北の市田秋（同上）田油川暨の中間。す田を割三約の高出産油原因が我とるす算合たれらひ用にきとる造を（どみきぬりほ）非雷は構い高るす費消で因が我て於に年九和昭は同下。るあでのも製は上以分半の（油燈・油輕・油機械・油重・油發揮）油石は他の共し入輸らか等度印領附・國衆合カリメアを品。す示をとくるす造製らかと油原産國と入輸

チャカ産である。

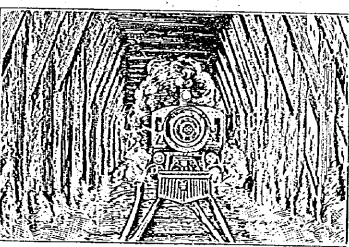
五、交通 鐵道は地形の關係上、南北に通ずるものが早く發達し、東北奥羽の二幹線は縦にこの地方を貫き、東西兩岸の常磐線羽越線に連り、東西兩側の連絡も次第に出來てきた。沿岸は一般に良港に

乏しく、北海道への連絡港としての青

森と仙臺市の門戸鹽釜とを除く外、諸

處に小・錨地があるのみである。

六、處誌 青森縣 (1) 東部平野は牧馬



降はで方地部西の羽奥 ルネントけよ雪らかるげたまきを通交の道鐵てく多が雪作で板や材木をルネントき如の岡に々所。(頁七四、一地球)るあでのく防を之てつ。るあもけ設の林雪防他のそ

谷地へ、四四頁問題、鐵道分布と地形との關係を調べよ。

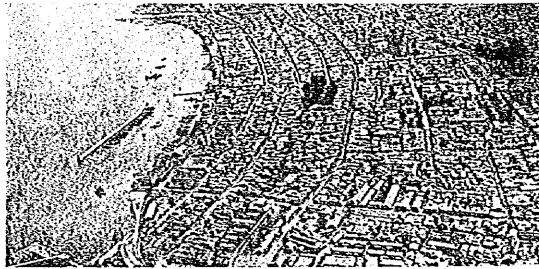
問題、津輕海峡は國防上どんな價値があるか。

二九頁及び附録

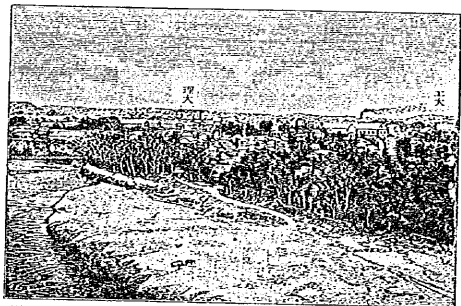
八、戸市の鰹港ハハはこの地方の水産物を集散する。陸奥灣の北東隅には大湊の海軍要港があつて津輕海峡を守る。(2)西部の青森市は縣廳の所在地陸奥灣に臨む開港場で、水陸交通の要地に當り、鮭の罐詰製造及び製材が盛んである。津輕半島の山地からは羅漢柏平野からは米苹果の産多く、其の中心都市の弘前市には第八師團司令部がある。

岩手縣 本縣の面積は全國の府縣中、最も大であるが、山地原野多く、人口の密度は最も小さい。(1)リアス式の東海岸には釜石宮古大船渡等の小錨地があつて水産業の中心をなし、釜石には鐵の製鍊所がある。鐵道は北上山脈を横ぎつて是等の港を連絡する仙八峠は未成の。

(2)中部の北上川の谷はこの縣の主要地



(頁六四、地球)。廳縣は左の森方右 港は方左 市森青



仙台市 廣瀬川に沿ひ伊達二十萬石の城下町であつた。今も政治の中心たるのみならず、奥羽地方の學府である。左の方で廣瀬川で森の中のには東北帝國大學が見える。

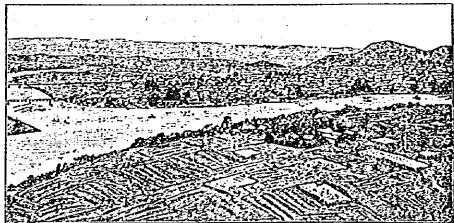
て盛岡花巻、一關水澤等の小都市が並んでゐる。盛岡市は縣廳の所在地で馬市と鐵瓶とに名高い。(3) 西部山地は火山温泉に富み、花輪線横黒線はこの山地を横斷する。

宮城縣 (1) 仙臺平野は米の大産地で、その南部にある仙臺市は奥羽第一の大都市で、東北帝國大學、第二師團司令部縣廳等がある。北東の鹽竈は仙臺の外港で、日本三景の一の松島を控へる。北上川口の石巻市はこの地方の要津である。(2) 西部山地には温泉多く鬼首の間・楡・温泉が最も名高い。金華山附近は漁業盛んである。

(3) 東部山地南端の福島縣 (1) 鐵道東北本線は中部の阿武隈平野に通じ、福島郡山、白河を経て東京に至る。福島市は縣廳の所在地で生絲繭の取引多く、川俣は絹織物を産し、郡山市は交通の要地で工業が盛んである。白河

△附近の平泉は史蹟に富む。

*口給
跡地、三六頁



は奥羽の咽喉に當り、馬市に名高い。(2) 西部會津盆地の中心若松市は漆器陶器を産する。(3) 常磐線の通ずる東部海岸平野には中村・原ノ町平等がある。平附近よりは石炭を出し、主に東京に送られる。

秋田縣 (1) 米代川流域は林産、産に富み、川口に近い能代港は木材を集散する。

小坂・鑛山に近い十和田湖は風景がよい。(2) 雄物川流域の横手盆地



十和田湖 秋田縣・青森縣にまたがる湖で、湖の間に八千七百四十米の山あり、湖の深さが二百四十米に達する。湖の周囲は森林で、湖のほとりには温泉あり。湖のほとりには温泉あり。湖のほとりには温泉あり。



姿いへんゑ

ある。

山形縣 (1) 西部の庄内平野は米産多く、酒田市は商港で、鶴岡市は舊城下町である。(2) 東部の主要地は新庄・山形米澤の諸盆地で米作養蠶がよく行はれる。山形市は縣廳所在地で、櫻桃を産し、米澤市には絹織業が盛んである。

問題 奥羽山脈を界として東西の兩地域を比べよ。

第五章 關東地方

一位置區分 本州島が東西方向から急に南北方向に曲る部分を占め、古への關東八州の地で、一府六縣に分たれる。

但し東京府に屬する南方諸島伊豆諸島小笠原諸島は地理的には特別の地域であるから最後に述べる。

二、地形 西から北にかけては一帯の山地で、其の南東に廣い平野が太平洋まで廣がつてゐる。よくまとまつた地域であるが、之を(1)西部及び北部山地、(2)關東平野、(3)南端の半島部の三に分つことが出来る。

(1) 西部山地は概ね關東山脈に屬し、南端に箱根山がある。北部山地には三國山脈、奥羽山脈、阿武隈山脈及び那須火山脈に屬する。那須高原

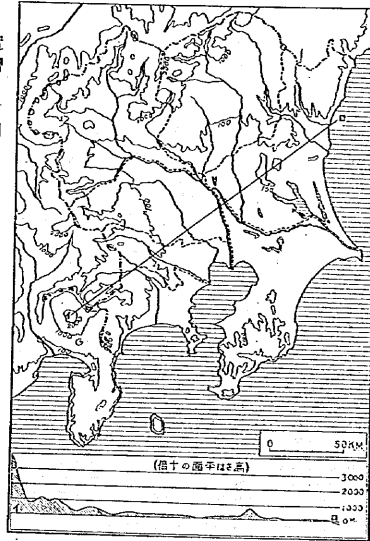
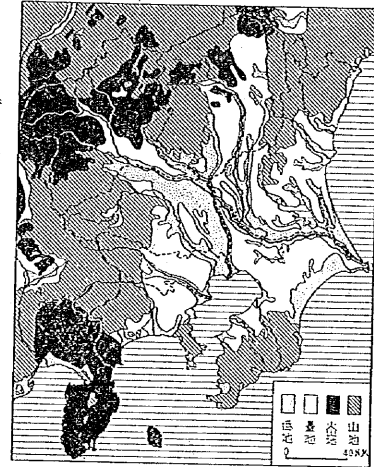


うを蝕侵が岩塊集は景奇の山義妙 勝奇の山義妙
が門石岩寄たじ生に然自中山 一でのもたつなてけ
い多が客光製でのるあに置位な利便の通交。い多



ろことた見らか山金の川太縣馬群

地面断と図形地



實習 附圖にならひ、〇〇米以上を彩色せよ。

男體赤城榛名妙義等の諸火山がある。是等の火山地方は風景に富み温泉多く觀光地帯になつてゐる。

(2) 關東平野は我が國第一の大平野で臺地と低地から成り利根川那珂川荒川下流は多摩川相模川等流れて上流は發電に利用せられ、下流は灌漑水運の便が多い。

多摩川の水は東京市の水道となり、相模川の水は横濱市の水道となる。
* 坪地一、一二頁

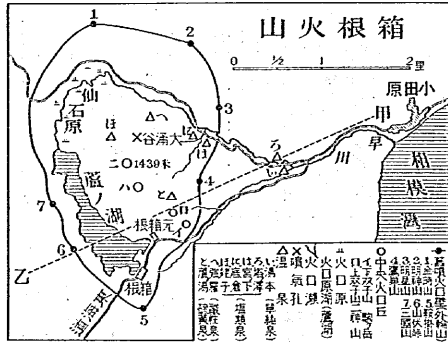
箱根山は二重式火山で噴火口外輪山の中に中央火口丘噴出したその間の火口原の一部には蘆湖をたたふ。その水は外輪山を破つて海に注ぐ早川火口湖。火山活動の餘勢はなほ噴氣孔や温泉で示されてゐる。昔は道路交通の要所であつたが今は風景と温泉とで多くの遊覧客や休養客を集めてゐる。

問題 蘆湖附近の寫眞上から三ツ目には上の地

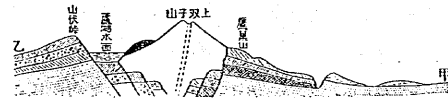
圖のどの部分が見えてゐるか。

(坪地二、〇頁)

大滝谷の噴氣孔



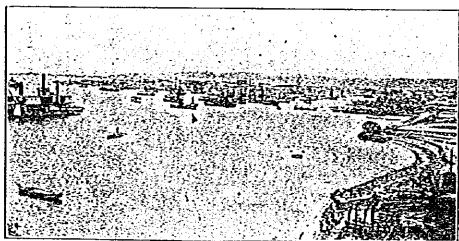
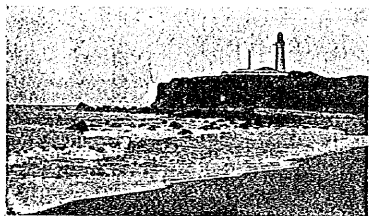
圖面断るけ於に線乙甲の圖上



湖 蘆



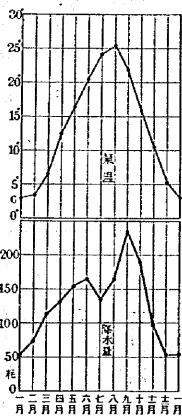
利根川は古くから**阪東太郎**といはれ、**本流**の長さ三二二軒、**支流**は大小二八五を數へ、舟筏を通ずること八百餘軒、流域一萬六千方軒、實に關東地方の半に當る。源を群馬縣の北東部利根岳に發して南流し、**片品川**、**吾妻川**等を合せ、**赤城**、**榛名**の**御合谷**を流れて前橋市の南に至り、更に西方より來る諸流を合す。以上の上流地方には處々に發電所起り、電燈、電車等に利用せられる。これより次第に廣い平野の中を東流し、始めは概ね群馬、埼玉二縣後には茨城、千葉二縣の界をなす。足尾附近から來る**渡良瀬川**を合せて後、まもなく江戸川を南に分ち、次第に南東流して鬼怒川を合せ、江戸川へ運河を通じ、更に小貝川、手賀沼、印旛沼、霞浦(湿地)二三頁、北浦等の諸水を合せ、銚子港附近で太平洋に注ぐ。是等の湖沼地方、水郷風景がよい。汽船は江戸川の分流點以下に通じ、江戸川と運河とによつて東京、銚子間の交通をなす。河水は一般に灌漑に利用せられるから、流域には水田よく開け、米の産出が多い。



銚子港下と大吠岬の燈臺左

東流し、始めは概ね群馬、埼玉二縣後には茨城、千葉二縣の界をなす。足尾附近から來る**渡良瀬川**を合せて後、まもなく江戸川を南に分ち、次第に南東流して鬼怒川を合せ、江戸川へ運河を通じ、更に小貝川、手賀沼、印旛沼、霞浦(湿地)二三頁、北浦等の諸水を合せ、銚子港附近で太平洋に注ぐ。是等の湖沼地方、水郷風景がよい。汽船は江戸川の分流點以下に通じ、江戸川と運河とによつて東京、銚子間の交通をなす。河水は一般に灌漑に利用せられるから、流域には水田よく開け、米の産出が多い。

候氣の京東



利根川の河口には、**大吠岬**突出して、交通、通信上の好目標となり、其の南北には弓形の砂濱、遠く連り、近海は遠淺の上に黒潮の影響をうけて、好漁場をなして居る。

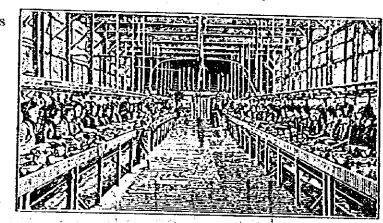
(3) 半島部は房總三浦の二半島で、その間に東京灣を抱く。三浦半島の東岸には良港多く、其の西岸より西方相模灣沿岸一帯は房總半島沿岸と共に氣候溫和、風景佳良で休養地帯をなす。

三、氣候 西と北とは山地をめぐらし、南東の近海には日本海流(黒潮)が流れるから、氣候は概ね溫暖である。北西部地方は稍、内陸性氣候であるが、海岸地方は海洋性氣候である。

四、産業 平野には農業行はれ、低地には米の産多く、臺地には麥、大豆、蔬菜、甘藷、煙草、北部の久慈川流域と南部の利根川流域に産が多い。平野の西と北の山麓は養蠶地帯をなし、従つて製絲、機業が盛んである。生絲産地としては前橋、群馬、機業地と



養蠶



富岡の絹織工場(群馬縣)

しては桐生伊勢崎群馬足利栃木八王子府東京秩父縣が最も名高い。東京横濱附近一帯は我が國屈指の大工業地帯で大工場多く、綿絲綿織物毛織物機械肥料洋紙砂糖麥粉ピルセメ

銅 (昭和八年)
足尾銅山下
内地銅産(左)
足利日小佐重尾
尾子立敷開島澤
足別日小佐重尾

200万円 400 600 800

* 本地一、二八頁

* 本地一、二七頁

* 四〇頁
* 本地一、一四頁

* 寄習 簡單な産業
分布圖をつくれ

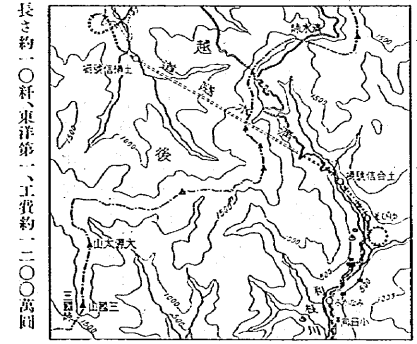
道路が他地方に通ずる處は必ず峠があつて、鐵道はトンネルを穿つ。
問題 この圖にあつた地形と道路、鐵道との關係を考へよ。

近海は水産物に富み、且京濱の大消費地を控へるから漁業が盛んで、千葉縣が第一位を占め、銚子が第一の漁港である。又東京灣は浅い海で海苔の産が多い。

東京は東日本を其の商圏とし、特殊の商品については其の販路全國に及ぶものもある。又横濱は神戸大阪と對立する大貿易港である。

五、交通 地形の關係で、陸上交通がよく便利である。東京はその大中心で、主な道路

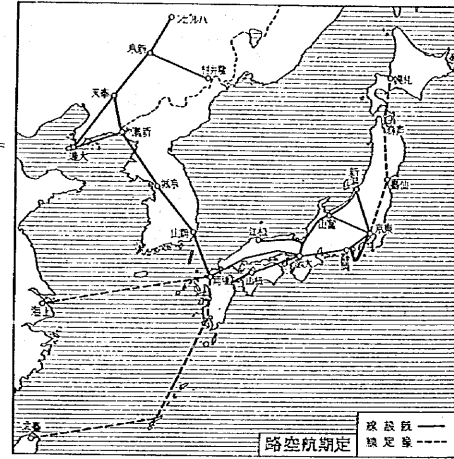
上越の清水ノントル



高きよにつて着色する地形をよ分る



* 確永峠の道路と鐵道 (本地一、二一頁)

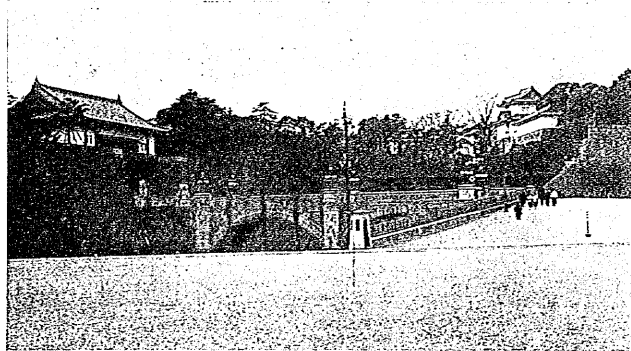


※ 二九頁及び附録

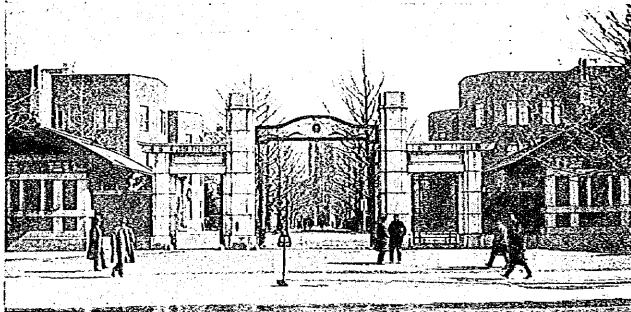
鐵道電線はこゝから四方に通じて、他地方に及び、電車自動車も市内と其の近郊に發達する。又、横濱は海運の中心をなし、東は遠く北米南米に至り、西は神戸を経て支那印度歐洲南米濠洲等に至る。東京には強力な無線電信局受信所は埼玉縣福小があつて、アメリカ等と通信することが出来る。航空路も東京を中心として次第に開けて來た。

六、處誌 關東地方は近畿地方と共に我が國文化の二大中心で、近畿地方よりも其の發達達著しく、人口密度は各地方中第一である。そして東京は我が國文化の中心であるから、關東地方も東京中心に纏まつた一地域をなす。即ち東京の海への門戸として横濱、海の守りとして横須賀があ

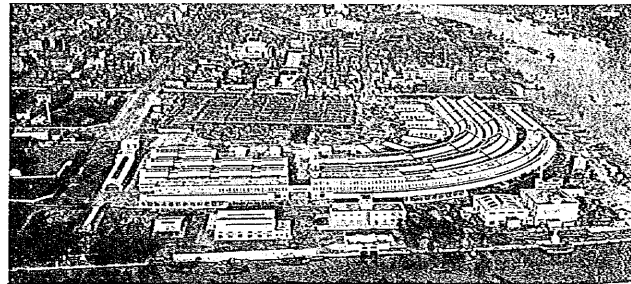
宮城二重橋



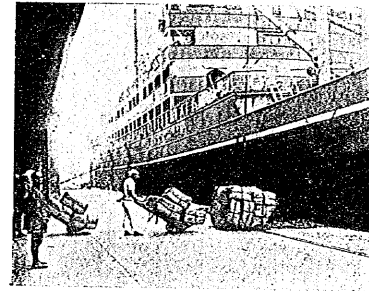
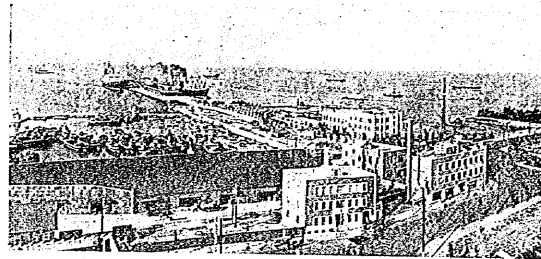
東京帝國大學



築地中央卸賣市場



横濱市

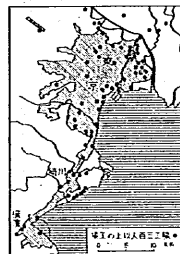


- (上) 税関棧橋
- (中) 生絲の輸出
- (下) 鶴見附近



左図は横濱市の北端の鶴見区の部分で、中央の太い白線は京濱国道から左に分れて海岸の方に走つてゐるのが元の東海道右端の太い方が省線細い方が京濱電車線である。京濱間の交通の變化と發達がうかがはれる。

形地の京東



京濱工業地帯

*南方諸島は五三頁にのべる
*四五頁
*本地図二〇頁・二四頁
問題 左の図を附圖と比べ、1から8までの姿地を調べよ。

り、東京より四通する交通通信網は全地域を其の商圏とし、又海岸及び山地を其の休養地としてゐる。
東京府 (1) 東京市と(2) 其の西につゞく臺地(主に武藏野)と(3) 山地とから成る。(1) 東京市は政治軍事學藝商工業交通の大中心地である。

東京市は約四百八十年前、太田道灌が武藏野臺地の一端に城をつくつたことから起る。徳川氏の居城以後は全國の中心となり、市街は昭和七年擴張前の市域に廣がり、人口五十萬の大都市となつた。明治以後は日本の首府となり、國勢の進歩につれて遂に人口五百餘萬の世界的大都市となつた。市街は低地から臺地にひろがり、面積五六八方軒、三十五區に分た。低地(下町)方面には商店工場臺地(山手)方面には住宅學校が多く設けられた。宮城附近は市の中心都心で、諸官衙集まり、又大きな會社商店や停車場等がある。

(2) 武藏野は東京をひかへて蔬菜の栽培が盛んで

第五章 関東地方

ある。又山麓地帯は養蠶の大中心で、八王子からは多く絹織物を産する。附近の浅川には多摩御陵立川には陸軍の飛行聯隊がある。

神奈川縣 (1) 東京灣沿岸の横濱市は神戸・大阪と共に我が國三大貿易港の一つ、北方の川崎市と共に工業も盛んである。

横濱市は約八十年前貿易港として外國に開かれてから、東京の門戸として急に盛んになった。市街は主に沿岸低地に沿うて延び次第に臺地上にひろがつてゐる(五區面積一三四方呎)

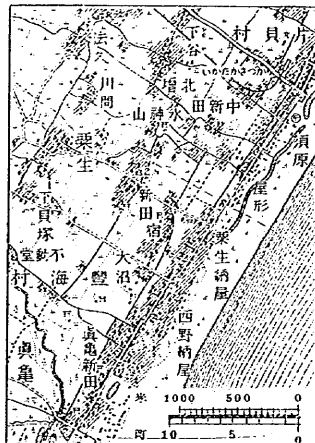


人口約七〇萬。貿易港として必要な設備即ち船舶・汽船・貨物・倉庫・船渠等備はり、内外の大汽船會社はこの地で業を営む。輸出品では生絲が最も多い。尙市内には工業も盛んである。

横須賀市は軍港で、第一海軍鎮守府置かれ、その海軍工



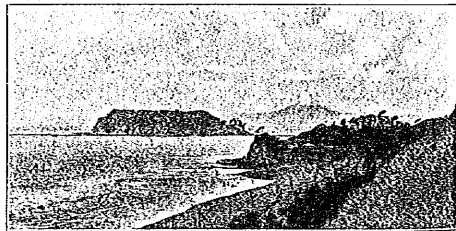
(市 崎 川) 場 工 素 の 味



第五章 関東地方

や 濱 砂 の 状 態 直 部 一 の 濱 里 九 十 九
。 る れ ら 見 が ど な 村 漁 た れ 分 ら か 村 農

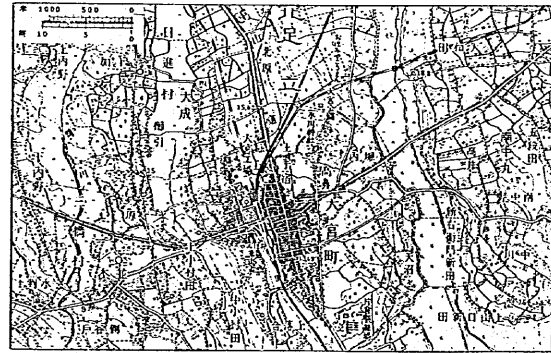
なつてゐる。
千葉縣 (1) 東京灣沿岸は一帶に遠浅で海水浴場が多い。千葉市は縣廳醫科大學の所在地である。(2) 下總臺地の大部分は畑地で、森林や牧場も交つてゐる。西部は陸軍の諸部隊に



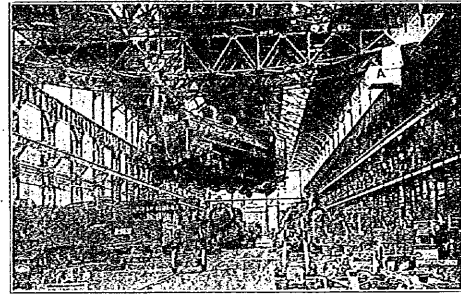
よ に 灘 砂 び 再 が る あ で の も た れ 分 ら か 陸 本 元 島 ノ 江
ケ 里 七 は 方 右 の 岡 。 る ゐ て し と う よ れ が 繁 に 陸 本 て つ
鰯 は に 島 。 る え 見 が 土 富 は に 間 の と 島 ノ 江 で 部 西 の 濱
。 い な え 絶 が 客 光 觀 ら か い よ が 景 風 り 眺 を 天 財

第五章 關東地方

利用せられ茲に市川市がある。北部の成田は宗・教・都・市・門・前・町とし
て榮える。(3)利根川江戸川沿岸低地は米の主産地で野田と銚子市
には醬油の産が多い。(4)九十
九里濱の低地は米作と漁業に
著れてゐる。(5)房總半島は丘
陵がちであるが沿岸の北條・館
山・勝浦等に房總線が通じてか
ら、休養客が年々増加する。館
山には海軍の航空隊がある。
埼玉縣 (1)東部の平野は低地
と臺地とから成り、ここに工業
の盛んな川口市、縣廳所在地の
浦和市、東北高崎二線の會する
大宮・舊城下町の川越市、商工業

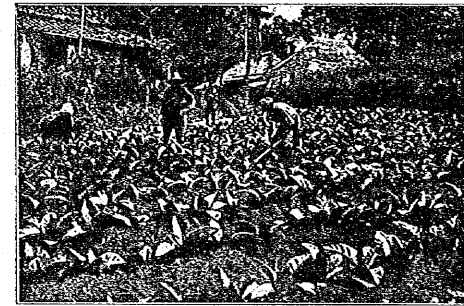


つはが別區のと地臺とる塗に色緑を(地低)田(湖陸)近附町宮大
道鐵武總・線崎高・線本北東てつあに上の地臺は宮大。るすりき
道鐵又。るみてつ集が路道の等道山中や(車電)道鐵武西・(車電)
るえ見に中國も園公宮大・場絲賀・場工



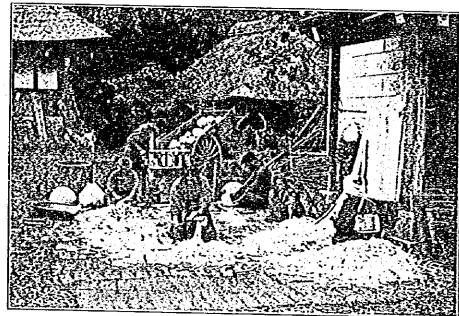
場工宮大の省道鐵

の一中心、熊谷市がある。(2)西部山地中の秩父盆地に
は養蠶行はれ、秩父は機業の一中心である。
群馬縣 (1)南東部の平野には米作と養蠶が行はれる。
前橋市は利根川の上流に沿ひ、縣廳の所在地で蘭生絲
の市場をなす。高崎市は商
業交通上の中心で、その南西
の富岡も生絲を産する。桐
生市には絹織業が盛んであ
る。(2)北西部山地は名山と
温泉で觀光・休養客をよぶ。

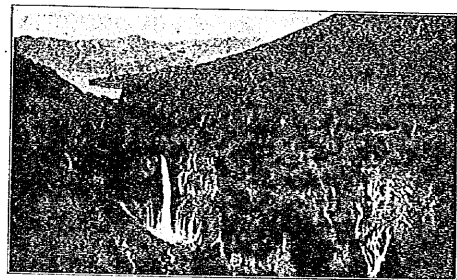


培栽の草煙

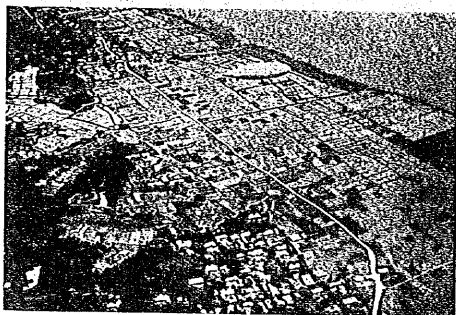
栃木縣 (1)平野南部の山麓地帯は養蠶機
業に名高く、足利市・佐野・栃木等は之が中心
都市である。鬼怒川以東には煙草以西に
は干瓢・麻を産する。宇都宮市には縣廳第



きむ瓢干



下右し少のそで湖寺禪中はのるえ見に上の左 瀧ノ巖華
部中の麓で部一の山麓男は山の方右。るあが瀧ノ巖華に
噴ちか山麓男でまこそはのるち落の瀧の條数いさ小らか
造を(湖止堰)湖寺禪中でめ止堰を谷し積堆が着塔たし出
るみてつなと園公立園は帯一近附。す示をとこたつ



十四師團司令部がある。
(2)山地では日光附近と
鹽原温泉と足尾銅山と
土浦附近 飛行船と役ヶ浦の一部と
村と田畑などが見える。

* 坪地一、二頁

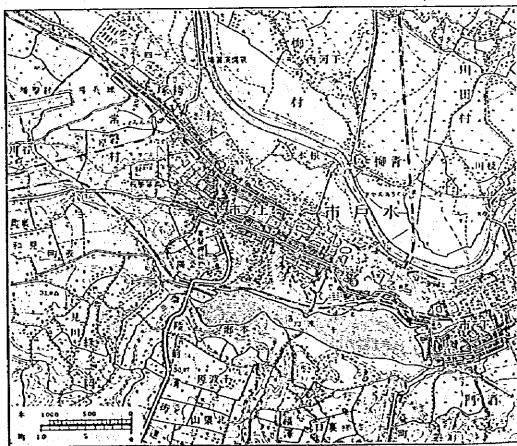
が最も著れる。

茨城縣 (1) 關東平野北部の那珂川にのぞむ
水戸市は舊城下町で縣廳の所在地北方久慈
川流域の太田は煙草の集散地である。平野

* 坪地一、二頁

△東京府に屬する

南部の土浦附近には海軍の
航空隊と高層氣象臺がある。
(2) 山地では筑波山と銅石炭
石材の鑛産とが名高い。
南方諸島 相模灣の南方太
平洋中に伊豆諸島小笠原諸
島などがある。富士火山脈
に屬する火山島で伊豆諸島
の大島には三原山の活火山
がある。八丈島からは椿油
絹織物を出す。



に端の地桑の間の沼波干と川珂那 市戸水
るめ占が市下を地低の東の城舊りあが市上

小笠原諸島は遙かに南方にある上に暖流の影響を受けるから氣
溫高く熱帯性の生物ナ甘鹽バナナ海魚等が多い。

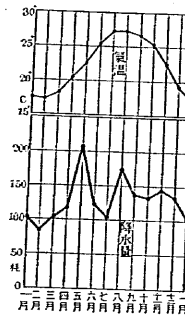
父島の二見港は唯一の良港で、日米海底電線の中繼所であり内地

父島の歸化人



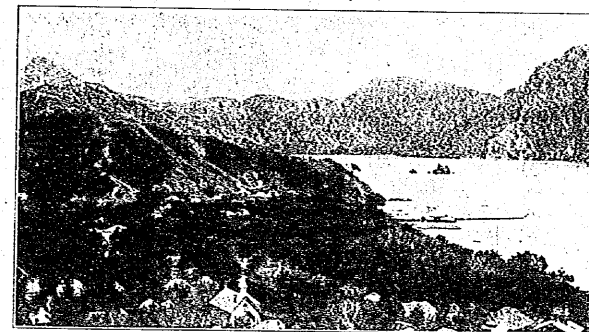
上の圖は小笠原父島のヨーロッパ人種の歸化人の状態である。衣服は和服を用ひ、又は簡単な洋服を用うる。家の屋根は蒲葵の葉でふき、木造ベンキ塗とし、室内は木の床で、椅子、寝臺、テーブル等を置く。圖の右の大きい植物はバナナ、左方のものは椰子の若木である。バナナ等をつくり、又漁業を營んで生活して居る。

父島の氣候



これらの人々の祖先は太平洋上の漁業者であつて、今から百年ほど前からこの島に移住したものである。現今は百人位居る。

下の圖は火山島には珍らしい灣入をもつ二見港で、經濟上交通上、軍事上大切なところである。熱帯性植物の茂るを見よ。又、上の圖で熱帯海洋性氣候を調べよ。



二見港

南洋群島間の連絡地點である。

問題 東京と關東地方の各地との關係を述べよ。



水邊の女(大島)

館ヶ岳



日本北アルプスの最高峰で高さ三八〇〇米に達する雪の空に
そのまじりなく深く鋭く谷をなす見よ

白馬の御花畑



盛夏の頃山頂の近くに所々高山植物が咲く時
咲き揃った花畑を眺めると見事な景色が広がる

第六章 中部地方

*口絵、六四頁
本州一、五五頁



中部地方の地形図

一 位置区分 中部地方は關東地方・奥羽地方と近畿地方とに挟まれ、本州の中部を占め、行政上、静岡・愛知・岐阜・山梨・長野・新潟・富山・石川・福井の九縣に分たれ、地理上、東海地方・静岡縣・愛知縣・岐阜縣・山梨縣・長野縣・新潟縣・富山縣・石川縣・福井縣の三區に分たれる。

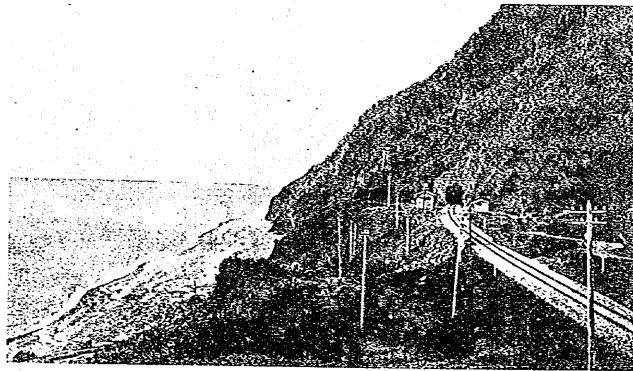
二 地形 この地方は南・北・西・東の四山系に會する處で、本州中で幅最も廣く、土地最も高い。關東・奥羽兩地方の界には關東山脈・那須火山脈・三國山脈・越後山脈がある。その西兩彎の間には富士火山脈があつて、内地第一の高峰富士山（國立公園）を始め、八ヶ岳・戸隠・妙高等の諸火山が聳え

火 噴 大 の 山 間 淺



百四徑直れば呼と釜御は丘口火央中。るす動活に頻年近で山火活い高名は山間淺し其の動活でることた見らか澤井頼は同。るす煙噴に盛し有を口火い半十五様有のきとい

知 不 親



おが波。たじ通道に下の崖は背。るあに處る迫に岸海本日が脈山驛飛は知不親。るあが名のこでのふいといなら知を親は子くな暇ふ教に互子親とるくてせよし。いなら通をこでのたれか間が路道や道鐵なうやる見に央中の同は今しかし

* 日本アルプス、中部山岳國立公園

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

※ 五七頁

寛習 略図を描いて山脈、火山脈、川及び太平洋、日本海兩側の分水界を記入せよ。

てゐる。更にその西には南北に近い方向をとる赤石木曾飛驒の諸

山脈がある。中にも、飛驒山脈は最も高峻で、鎗ヶ岳、白馬岳等の高峰

がある。又茲には御岳火山脈通じ、御岳、乗鞍岳、立山等がある。

飛驒高地の北西には、白山を主峰とする白山火山脈があつて、西の

方、山陰地方に延びてゐる。

川は中央高地に源を發し、富士大井天龍等の諸川は南流し、木曾川

は濃尾平野を流れて伊勢海に注ぐ。千曲川、犀川は合して信濃川と

なつて越後平野を流れ、黒部川、神通川、庄川は富山平野を流れ、共に日

本海に入る。これ等の諸川は何れも急流で、峡谷に富み、水運の便は

少いが、次第に發電に利用される。これらの電氣は主に京濱名古屋

阪神の工業地帯に供給される。

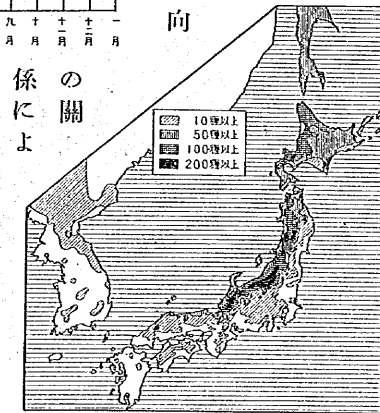
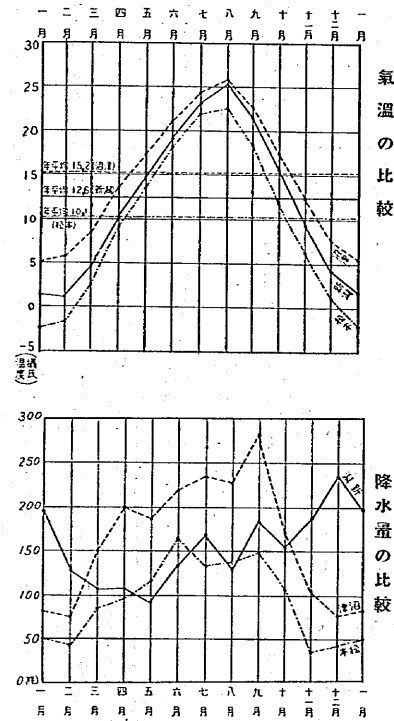
峡谷の中では、黒部、富山縣、神戶、御嶽、仙臺、山梨縣、大龍、木曾、谷、長野縣、六

八、恵那、岐阜縣が殊に名高い風景をもつ。

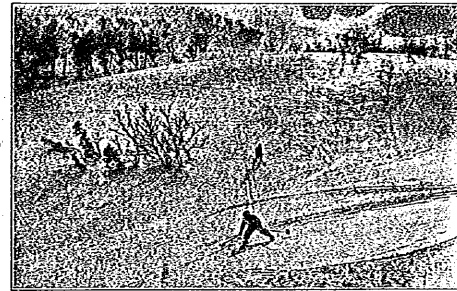
南の支那、渥美灣をもつ伊勢海と、北の小出入に富む若狭灣とは相

迫つて本州の地・峽・部をなしてゐる。
日本海には能登半島突出して富山
灣を抱き、太平洋には東に伊豆半島
があつて、駿河相模の兩灣を分つて
ゐる。

三、氣候 東海地方は位置・地形・海流・風向



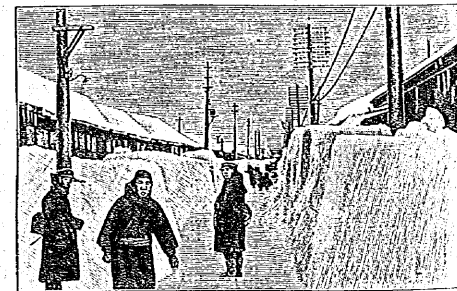
の關係によ
り氣候一般に溫和で、暖季
に雨多く、冬は晴天が多い。
中央高地は、内陸性・高地・氣
候で、氣温低く、雨量も少い。
北陸地方は地形・海流・風向



近附屋小泉冷岳ヶ嶽乗一キス

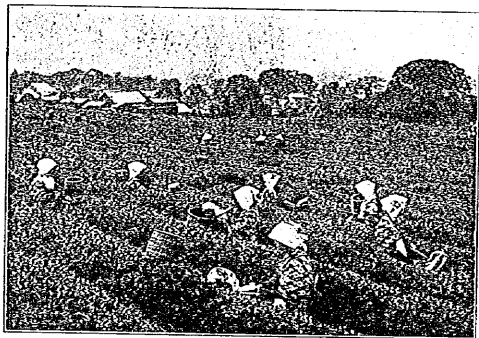


約さ厚てし結氷面湖季冬は湖 トーケスの湖訪蹟
と場トーケス好に故。ぶ及にルトーメチンセ十二
い多がのもるす遊來は頃の月二・月一りな



れさ下らか根屋は雪のめ埋を路道 雪深の市田高
し等に根屋の建階二どん殆さ高の共てへ加をのた
六)るよにギンガの下軒び及央中の路道は路通。い
(頁三六・頁二六・一・地誌及び頁九

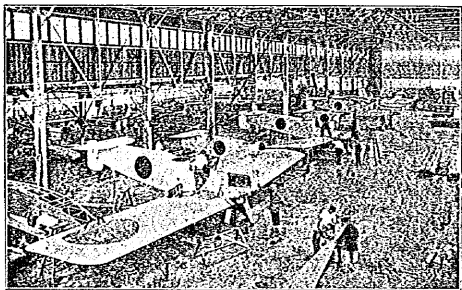
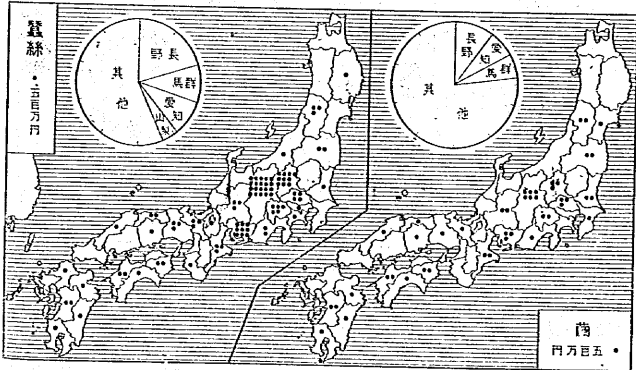
の關係で冬季に降雪多く、風波が高い。
四産業 この地方は土地割合に開け、各種の産業がよく發達する。
農産では米穀が特に著はれ、越後・富山・濃尾の平野から多く産出する。
又南方の暖地には茶果樹の栽培が盛んである。養蠶業は中央高地



※ 平地一、六六頁
※ 平地一、六八頁
△ 三三頁、六九頁
※ 平地一、六九頁

るす適に地斜緩るあ状雨の當相で暖温候気は樹茶 畑茶
るあで地産要重の茶田餘 で盛培養はに縣岡靜 らか
。す示を況狀の(刈機械)摘茶の近附岡靜は岡

ある。水産も多く、駿河富山の兩灣は著名な漁場である。
製造工業は名古屋附近一帯が最も盛



(屋古名) 造製の機行飛



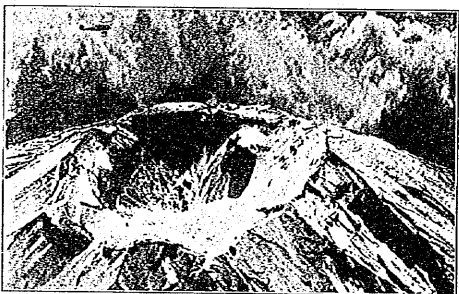
(屋古名) 造製の皿器

※ 平地一、六八頁
※ 平地一、六九頁
△ 三三頁、六九頁
※ 平地一、六九頁

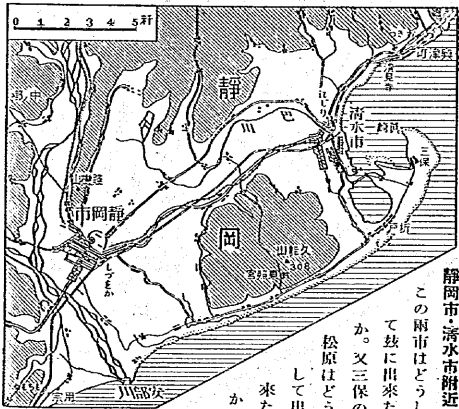
交通系はほぼ三部に分れる。東海道線は南部に、信越線中央線は中部に、北陸線羽越線は北部にあつて、東西の交通は便利であるが、南北の交通はまだ不充分である。鐵道網は名古屋附近が最も發達する。名古屋無線電信局受信所は愛知縣依佐美市、三重縣四日市市では主として對歐通信を行ふ。

開港場は名古屋清水敦賀の三港が最も大切である。日本海方面の諸港は冬季風浪高く船舶の碇泊には不便である。

六處誌 静岡縣 (1)伊豆半島は火山温泉に富み、熱海修善寺最も著はる。南端に近く、下田港があり、附近に金産地をひかへる。(2)駿河



富士山頂 噴火口(直徑約八百米深さ約二
百(米)く見え口(の明説參照)。



静岡市・清水市附近
この兩市はどうして共に出来たか。又三保の松原はどうして出来たか。

沼津市は交通上の中心、大宮附近は洋紙を産し清水市からは茶を輸出する。静岡市は縣廳の所在地で、茶の再製及び取引が

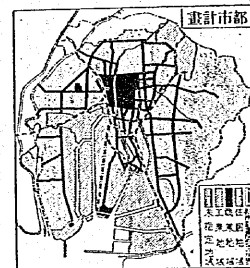
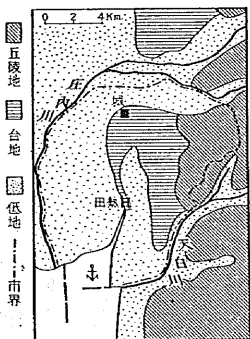
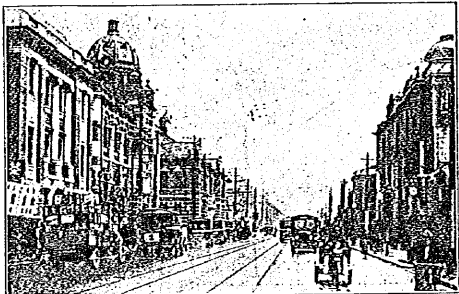
* 本地、六四頁

* 豊橋市と其の市の高師原には陸軍の高射砲隊其の他の諸隊がある。

名古屋市は三百餘年前城下町として起り、江戸時代には城から熱田神宮の邊までほぼ三角形に市街が出来てゐた(中國の地形圖參照)。今もこの大部分が商業地域(下圖)である。現在は市域が大に廣がつた四區面積一四八方

盛んである。(3)遠州灘沿岸の臺地には茶低地には米等を産する、濱名湖に近い濱松市附近は工業盛んで、綿織物樂器等を出す。又三方ヶ原には陸軍の飛行隊がある。

村人口約百萬。陶器紡績機械等の大工場は舊市街の北東と南西に多い(六三頁)。外國貿易も築港によつて次第に行はれてゐる。従つて水陸の交通も便利である。なほ市には縣廳第三師團司令部附科大學等がある。上圖は名古屋驛前的大道である。



愛知縣 (1)三河地方の豊川流域には豊橋市、矢作川流域には岡崎市がある。共に附近に養蠶地をひかへ

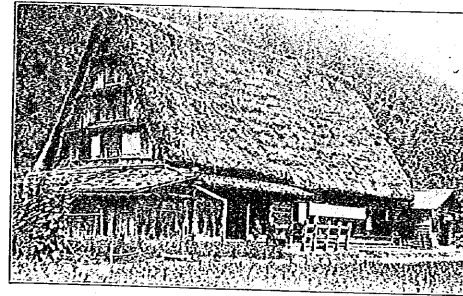
* 日本デนมーグ
** 本地、一七五頁
▲ 大垣市の附近に
赤坂(大理石の産
地)関ヶ原古戦場・
養老の滝がある。
△ 本地一、五七頁

て製絲が盛んである。又岡崎附近は養鶏
等も盛んに行はれる。(2)尾張地方の知多
半島には醸造に名ある半田貿易港武豊が
ある。名古屋市は米野菜の大産地濃尾平

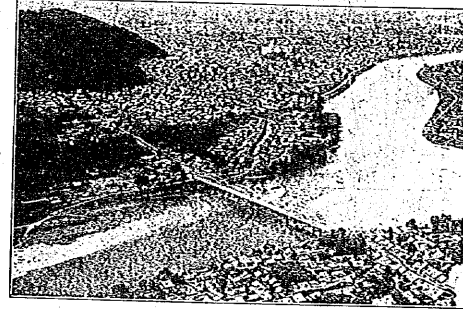
野の中心をなし中部地方第一
の商工業都市である。近傍に
は有松瀬戸市・宮市等の工業
地がある。

飛騨白川民家

岐阜縣 (1)美濃地方の主要地
は濃尾平野の部分である。大
垣市は織物を産し縣廳の所在地岐阜市は鶯飼に名高い
長良川に臨み織物紙製品等を出す。岐阜の東方各務原
には陸軍の飛行隊北東方には美濃紙の集散地美濃町が
ある。鐵道中央線に沿ふ多治見附近からは陶器の産が



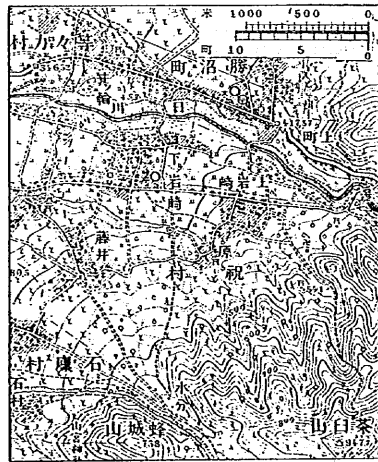
岐阜市市長と長良川をへて見たことろ



多い。(2)飛騨地方は中央高地に属し、一帯に土地高く、山深く、交通不
便であるが、高山線の開通によつて開發が次第に進むであらう。高
山はその中心都市で、附近には養蠶及び林業が行はれる。
山梨縣 (1)桂川流域の郡内地方は養蠶行はれ、生絲絹織物(甲斐)の産が
ある。(2)富士川流域の甲府盆地は米作、養蠶、葡萄栽培にあらはれる。
縣廳所在地の甲府市はその中心都市である。

桂川の發源する山中湖及びその
西方の四湖富士五湖附近は景色が
よす。

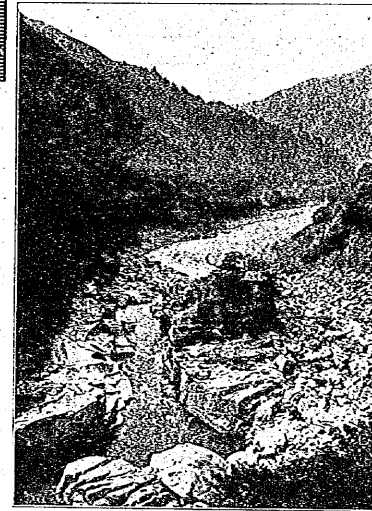
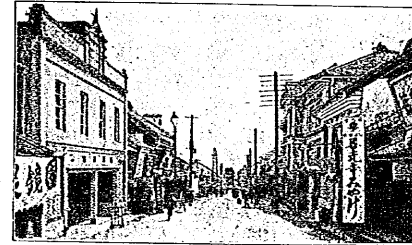
長野縣 一般に養蠶が盛んで、
各地に製絲工場が多い。(1)木
曾川流域(木曾谷)は風景と美林
に名高い。(2)天龍川流域は伊
那谷と諏訪盆地とに分れ、諏訪



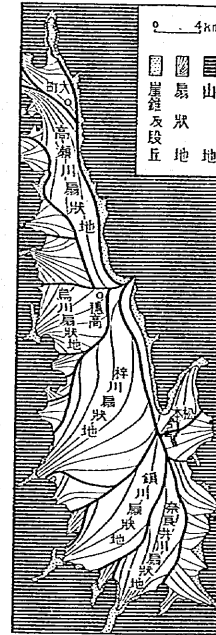
近沼沼(地形地圖) (地形地圖) (頁七七)



善光寺平石と長野市(下)
下岡は停車場から善光寺に通ずる道路で道の突當りが善光寺である。宿屋名産屋等の多いのを見よ。宗教都市の特徴が表はれてゐる。右岡で長野市の位置を見よ。



花崗岩の節理われめの一部を木竹川が侵蝕して峽流をつくつてゐる。



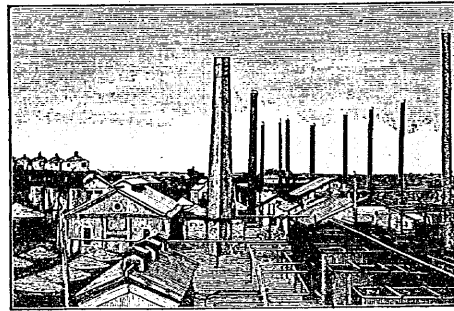
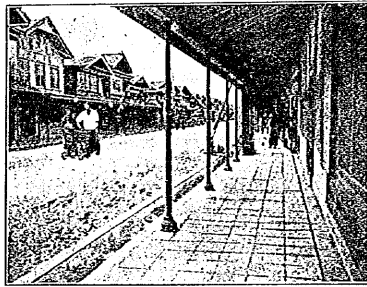
松本平

湖畔の岡谷六甲は製絲業の大中心である。(3)信濃川上流の犀川千曲川流域には所々に平とよぶ盆地がある。

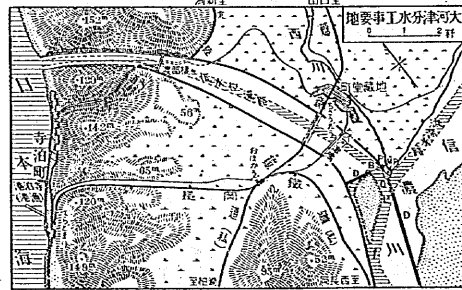
松本市・上田市・長野市は夫々の平の中心都市をなす。長野市は縣廳の所在地で宗教都市・佛都である。
新潟縣 (1)北東部の越後平野は米の主産地で、東山・西山には石油の産出が多い。信濃川河口の新潟市は縣廳・醫科大學等の所在地で、日

長岡市街

家は街路に後風をむけ、軒にはガングリといふ廊下のやうなものが造られてゐる。冬に雪が多いからである。



新潟縣新潟市近郊の石油井からポンプで上げられ、管で運ばれて、此處の製油所に送られて、軽油・灯油・重油等に分別される。

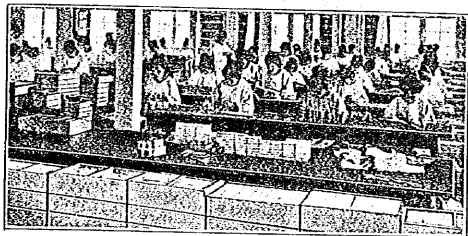


大河津分水工事 信濃川の平野は地味人の米は野平流下の川に浸る。あで地味人の米は野平流下の川に浸る。あで地味人の米は野平流下の川に浸る。

六九頁
七六頁

本海岸中の古い開港場で、工業も興つて來たが貿易は振はない。近時北朝鮮との間に定期航路が開かれた。信越本線に沿ふ長岡市と三條市とは商工業の二中心である。(2)西部の高田平野は荒川流域を占め、こゝに高田市がある。(3)佐渡島には中央に小平野を挟んで、

五九頁
五九頁



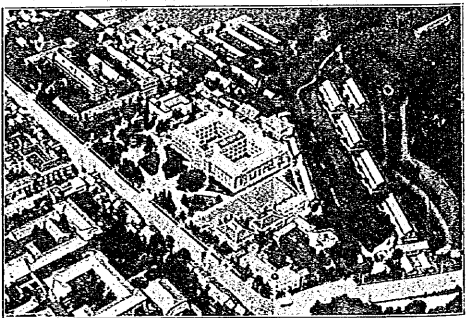
富山の製鐵所 女工が丸薬を包むところ



庄川發電所の堰

二列の山脈がある。兩津(ニハタ)は貿易港で、川の附近からは金を産する。富山縣 (1)富山平野は米の産地で、吳羽丘陵以東の平野の中心は神通川に臨む縣廳所在地の富山市で、賣藥の産に名高い。富

山平野西部の中心は高岡市で、商工業が盛んである。北方の伏木は開港場で、米の積出が多い。富山灣には漁利多く、魚津は漁港である。(2)山地では立山と黒部峽とが名高く、近時發電事業も次第におこつてゐる。

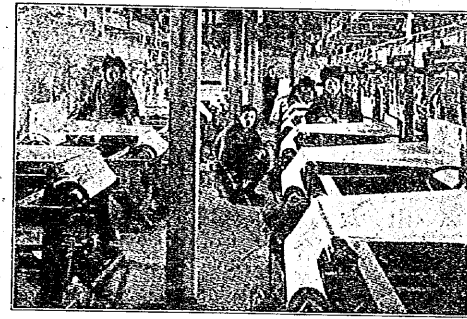


金澤市中央の洋館。その上方が高等學校。右は舊城址の一部。又左端は女子師範學校。高等學校と女子師範學校は分る。

石川縣 (1)丘陵性の能登半島には、狛咋(ワカサ)の東端に開港場七尾と、北岸に漆器の産地輪島とがある。(2)加賀地方の金澤市は日本海岸第一の都會で、縣廳師團司令部醫科大學等があり、絹織物漆器陶器等を産する。南西の小松大聖寺は絹織業の中心で、小松附近は又九谷燒産地の中心をなす。山代山中は何れも名高い溫泉場である。

福井縣 (1) 北部の福井平野・大野盆地には羽二重・富士絹人絹等の絹織業が盛んで、縣廳所在地の福井市はその中心をなす。南方の武生は紙蚊帳を出す。(2) 若狭灣沿岸は小出入に富んで風景はよいが後背地が狭いため、敦賀の外は大きな港は發達してゐない。その中で小濱がやゝ著れてゐる。敦賀は貿易港で、對岸ウラヂボストク及び北朝鮮諸港との間に定期航路がある。

問題 東海地方・中央高地・北陸地方を對比せよ。

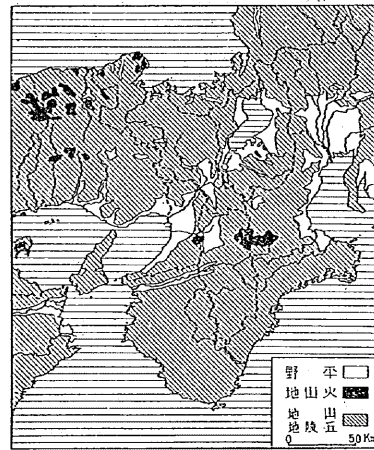


(市井福)場工重二羽

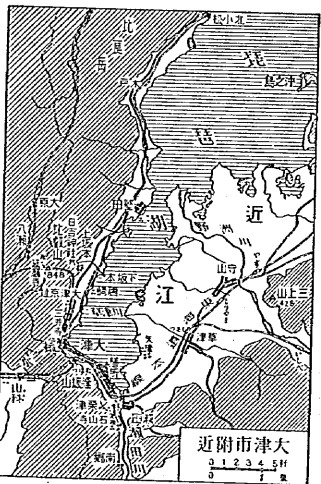
第七章 近畿地方

一、位置區分 近畿地方は古への畿内地方で、本州の東西南方向部の中央を占め、行政上、京都・大阪の二府と、滋賀・兵庫・奈良と、和歌山・三重の五縣に分たれ地理上、北西部・中央部・南部の三區に分たれる。

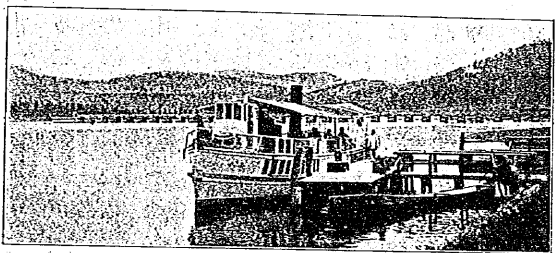
二、地形 (1) 北西部は中國山脈の東部で、高原性山地をなし、海岸平野は南方の播磨平野が主である。若狭灣沿岸は小出入に富むが、播磨灘沿岸は概ね砂濱である。(2) 中央部には伊吹・鈴鹿・笠置・生駒・金剛・和泉等の低い地、山脈多くは南北に走り、其の間に陥没して出來た近江・伊賀・京都・奈良の盆地及び伊勢平野・大阪平野がある。琵琶湖は我が國最大の湖で、その水は淀川となり、京都盆地・大阪平野を流れて大



圖形地の方地畿近



琵琶湖 面積六七五方軒湖面は海拔八六米、最深九五米、竹生島の南西方。近江盆地の諸水はこゝに集まり、瀬田川となつて流れ出る。下阿の如く南郷に洗堰を設けて、水量を調節し、又こゝから宇治川水力電気會社の宇治川發電所へ水を分つ。湖上の交通は大阪市を中心とし、大津京都間には疎水がある、浮地一八二頁。又湖口附近には人造組絲等の工場もある。漁利も多い。沿岸ことに南東岸は土地よく開け、人口多く、産業が盛んである。又風景のよいので名高い。



小出入多く、平野は少い。
三、氣候 日本海岸の氣候は北陸地方に似

阪湾に入る。大阪湾と伊勢海の沿岸は何れも概ね砂浜である。大阪湾口の淡路島も地壘である。(3)南部には外帯山脈の一部をなす紀伊山脈東西に走り、大臺原山、上岳、彌山等その中に聳え、紀川は山脈と並行して西流し、熊野川は山脈を横ぎつて南流し、峽谷美に富む。沿岸には



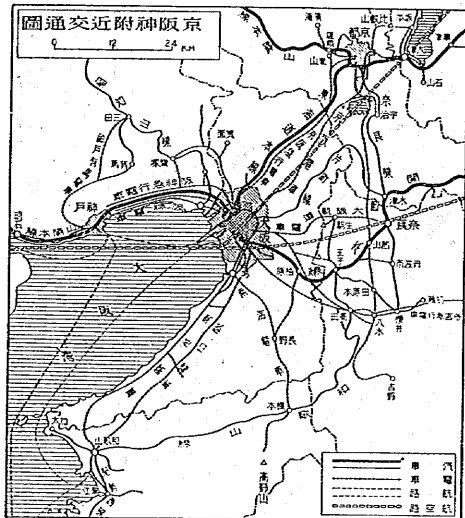
丁八瀬 北山川が峽谷を所すにある。数町間の勢水が緩やかで水たへいた。雨の日に影に石岩の樹の影が映る。

中央の盆地はやゝ内陸性であるが、伊勢海大阪湾播磨灘の沿岸は溫和である。紀伊半島は本州の最南端に當る故、氣溫高く、降水量多く、植物も亞熱帶性のものがある。

實習 左の數字で六〇頁のやうな氣溫降水量比較表をつくつて説明を加へよ。

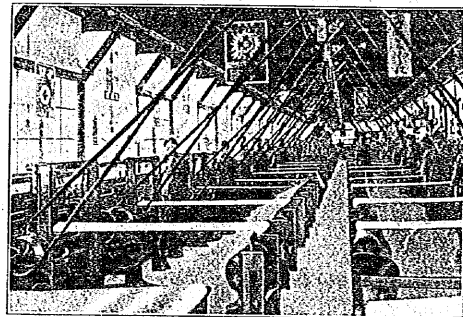
氣溫	一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月											
	宮津	大阪	湖岸	宮津	大阪	湖岸	宮津	大阪	湖岸	宮津	大阪	湖岸
氣溫	五・五	四・五	七・五	一〇・五	一三・五	一六・五	一八・五	二〇・五	二二・五	二四・五	二六・五	二八・五
降水量	七・五	五・五	二・五	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五

四、産業 この地方は我が國で最も早く開けた處であるから、人口稠密で、産業もまたよく發達する。諸平野は米麥蔬菜等を産する。京



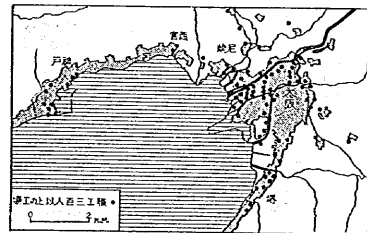
習實 大阪が主なる地点に於て同時の
を上に記入せよ。

六、處誌 滋賀縣 琵琶湖の東部は、
内外航路の重要な起點をなす。
琵琶湖淀川の水運及び
近海航路は共に發達し神戸大阪は
陰の諸幹
線はその
主なるも
のである。
琵琶湖淀川の水運及び
近海航路は共に發達し神戸大阪は
内外航路の重要な起點をなす。



(都京) 場工織陳西

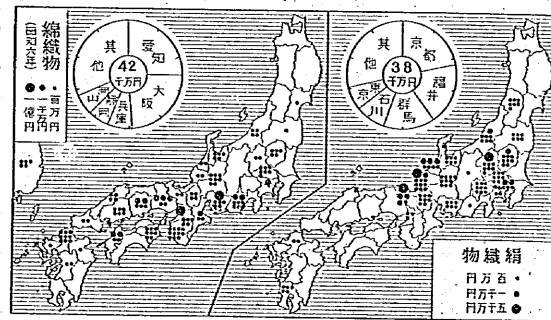
横濱と共に外國貿易の大中心である。
五、交通 北西部と南部とを除けば、水陸の
交通が至つて便利で、殊に大阪を中心とし
て汽車電車は鐵道網を作り、東海道山陽の



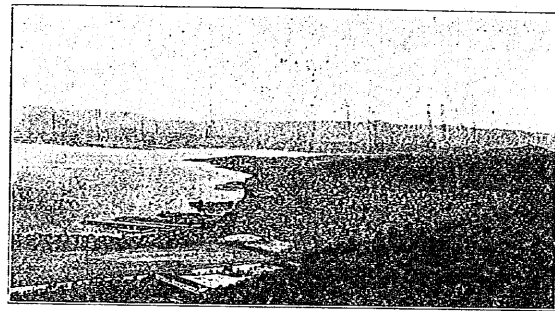
阪神工業地帯

※ 茶地一、九七頁
※ 三〇頁、八七頁
※ 茶地一、九〇頁
△ 茶地一、八八頁
▲ 茶地一、八九頁

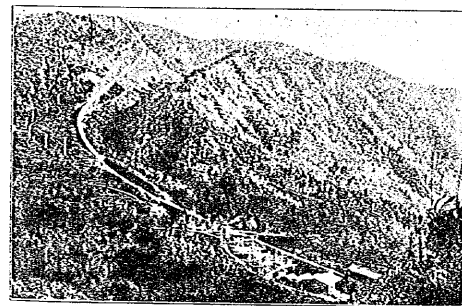
都附近の茶竹翁松茸大阪和歌山附近の蜜
柑葡萄等は共に栽培盛んである。南部の
山地は氣候が溫暖多雨であるから樹木よ
く繁り杉の良材を出す。鑛産は少く、生野
と明延^{アサ}が稍著はれるだけである。沿
岸は水産に富み、殊に熊野灘志摩半
島の沿岸には漁獲物^{魚類}が多い。
大阪を中心とする大阪灣沿岸地方
は我が國の大工業地帯で、綿絲綿布
をはじめ、メリヤス毛織物マッチ肥料
藥品機械雜貨等の製造が盛んであ
る。其の他、京都の絹織物染物陶器
等の工藝品和歌山の綿糸、滋賀縣の麻織物人造絹絲等が著
しい。大阪は東京と相並んで内國商業の一大中心で、又神戸



* 東方の八日市附
近には陸軍の飛
行隊がある。
* 寺地一、八一頁



大津市附近 左方は琵琶湖の狭い川田川と右に流れることゝ出突に中湖で後のそ替兵は前手。るゐて左の方後。るゐてつがろひに東もか邊のこは街市。口入の水疏るえ見が山石に端右。山上三に端

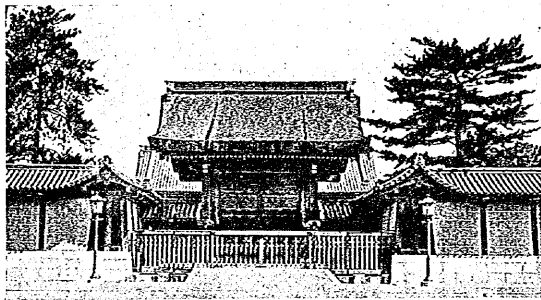


比叡山 上には寺屏延はに上山。山麓比叡の西の山麓比は岡。るあて山本總の宗古天で利古。す示を線ルブーケの(面方都京)口

平野稍廣く、米麥の産多く、茲に長濱の産縮絹、八幡永口等がある。南部には人造絹絲、麻布蚊帳を産する。東海道線は米原で北陸線と合し、草津で草津線を合せて京都に向ふ。大津市は縣廳の所在地湖上運輸の起點で、京都との關係深く、其の北西の比叡山には延暦寺がある。京都府 (1) 京都盆地の京都市は歴史的美術的學術的都市である。京都市は盆地の北東隅山河襟帶の地に桓武天皇都を

京都御所

正面は南の正門で建禮門。その後の承明門。



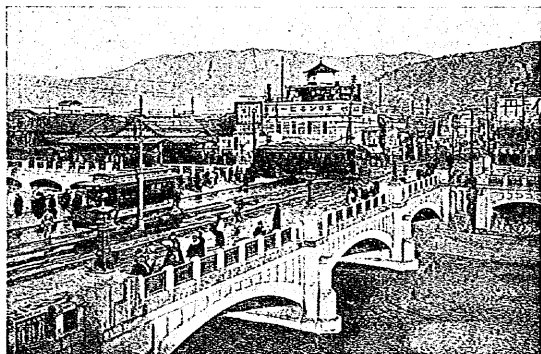
桃山御陵

明治天皇を祭り奉る。

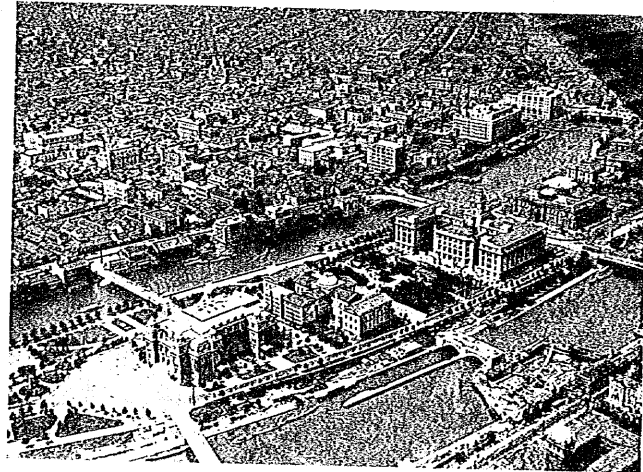


京都市街

四條大橋を示す。川は賀茂川。

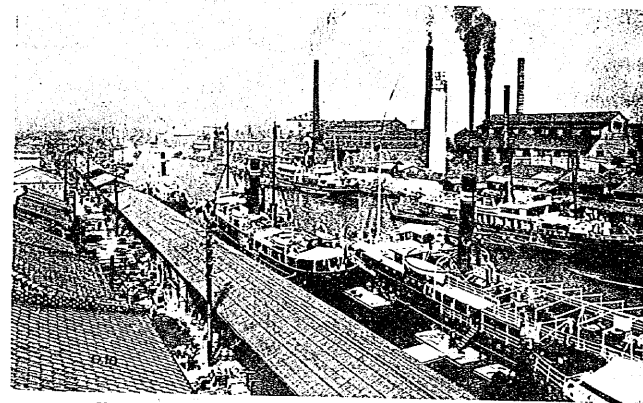


大 阪 市 の 都 心



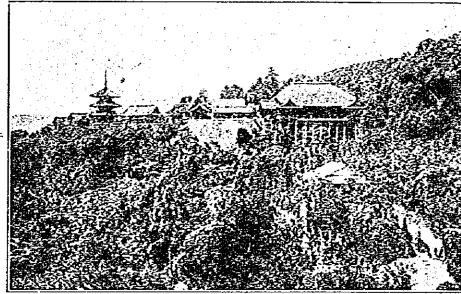
中央の島は島の中、右の方で大きな建物は市庁舎である。左の方の島は島の中、右の方で大きな建物は市庁舎である。

安 治 川 口



左の方で大きな建物は工場である。右の方で大きな建物は倉庫である。中央の島は島の中、右の方で大きな建物は市庁舎である。

* 勝地、八三頁



清水寺の京都の山の中腹にあつては、眺めがよい。

奠めたまひて以後明治に至るまで一千餘年間帝都の地であつた。市街は東に移り古の左京が今の中心となつてゐるが條割よくとのひ交通の發達にともなひ今や市域大に擴がり面積二八八方軒七區、人口約百萬となつた。市の内外は風景よく、且史蹟社寺が多いから觀光客は四時絶えない。美術工藝は古來榮え西陣織(七三頁)友禪染、清水焼等の産がある。市は關西の學府をなし大學をはじめ各種専門學校博物館等がある。なほ市には京都府廳第十六師團司令部も置かれてゐる。

(2) 丹波丹後の高原には養蠶行はれ、福知山はその中心で、峯山附近は縮緬を産出する。(3) 若狹灣沿岸の舞鶴は海軍の要港で、宮津は開港場、その近くに天橋立の

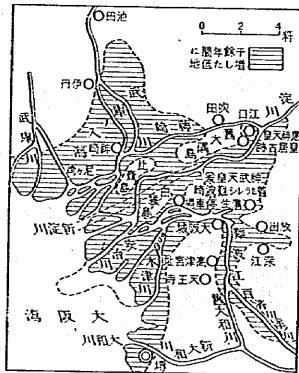
勝地がある。

大阪府 大阪府は各種の工業が盛んで、商業もその繁榮東京を凌いで、帝國の首位にある。従つて交通も盛んである。その南につゞく堺市も工業地で、足袋綿絲セルロイド、織布清酒等の産多く、岸和田附

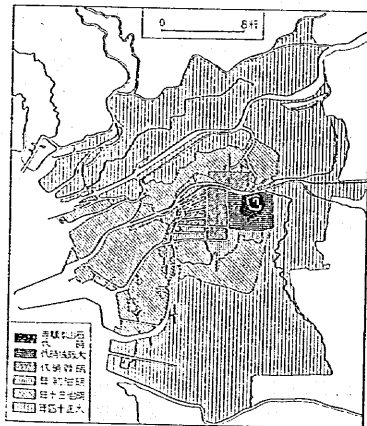
近には紡織が行はれる。

大阪市は瀬戸内海の東端、淀川の三角洲平野にある。市街は約四百年前當時の淀川河口南方の低い丘陵の端に本願寺の門前町として起り、ついで豊臣氏ときは城下町として榮え、江戸時代には純粹の商業都市として約四十萬の人口があつた。明治以後水陸交通の發達につれ、商業は益々榮え、市域も次第に擴がり、今や約三百萬の人口を有する世界的の大商業都市となつた(十五區面積一七一平方里、中ノ島から南へつゞく邊は都心で、大きな會社商店等が多い(八〇頁)。

造幣局陸軍工廠紡織藥品肥料硝子セロイド其の他の大工場は北部から西部に多く(七六頁)挿圖東部から南部方面は住宅地が多い。市内は運河縱横に通じて水運の便よく、築港も出來て外國貿易は神戸に次ぎ(四八頁)主に内地沿岸航路の起點になつてゐる。



大阪市の發達(下)
大阪市の地形(左)



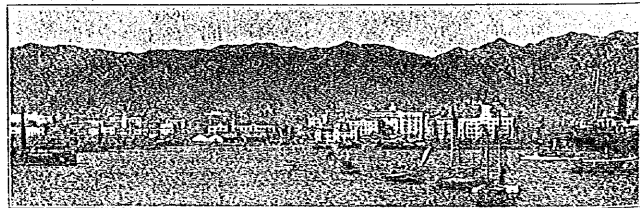
*七六頁、八〇頁
本地図、八六頁
八七頁、九六頁
一〇〇頁、一〇一頁

*四八頁
本地図、九四頁

る。陸上交通も鐵道電車の發達によつて頗る便利である(七頁挿圖)。なほ市には府廳第四師團司令部大學無線電信局等がある。

兵庫縣 (1)大阪灣沿岸の神戸市は我が國第一の貿易港で、工業も盛んである。市と大阪との間は氣候風景共によく交通も便利であるから、住宅地として發達し又工業も所々に起つて居る。ことに良酒の產出が多い。この中に尼崎市西宮市がある。

神戸市は六甲山脈の南側の細長い海岸平野を占める。港は和田岬と舊湊川三角洲舊生田川三角洲によつて、兵庫神戸の二灣に分れる。兵庫の方は古く開けたが今は内國航路に用ひられる。神戸の方は横濱と同じく約八十年前に外國に開かれてから急に盛んになつて全市の中心をなし港の諸設備よくととのふ。造船所紡織マツチ其の他の工場も多い。



神戸港

市街は海岸から山麓へ、商業居住宅区と移つて行くが山が急なので海岸に沿うて東西にのびてゆく。之を八區に分ける。西端の須磨區は風景氣候のよい住宅地で、その東の林田區は工業區である。市の人口約八五萬、面積六一方町。縣廳商業大學市外等もある。

※ 本地一、九八頁

(2) 播磨灘沿岸には東端に明石市中心に姫路市第十師團司令部所在地、西部に龍

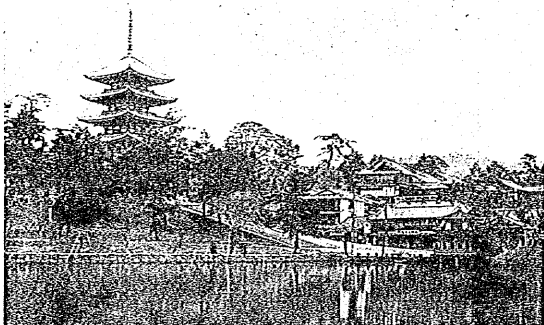


吉野川の筏を等しに流して伐りよる地山の上り伐りよる事である

野養油の産地・赤穂鹽の産地がある。(3) 日本海斜面の但馬は養蠶と牧牛に著はれ、生野・明延の鑛山、豊岡の杞柳、細工・城崎の温泉等が名高い。(4) 淡路島は農耕よく開け、洲本・山良等の小都市がある。

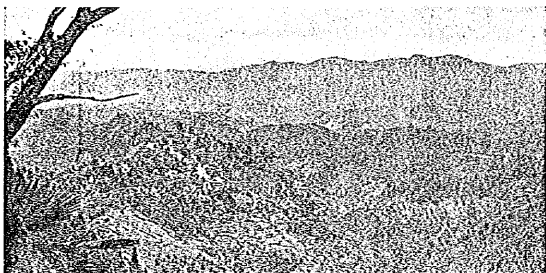
奈良縣 (1) 北部の奈良盆地は米・麥・西瓜等を産し、南部には製薬業が行はれる。盆地内には京都盆地と同じく歴史上の遺蹟が多い。奈良市は盆地の北東隅に位置し、縣廳春日神社・東大寺・正倉院・帝室博物館・女子高等師範學校等がある。盆地の西方には郡山金魚産地・法隆寺・南方には神武天皇の御陵・橿原神宮・談山神社等がある。

奈良市



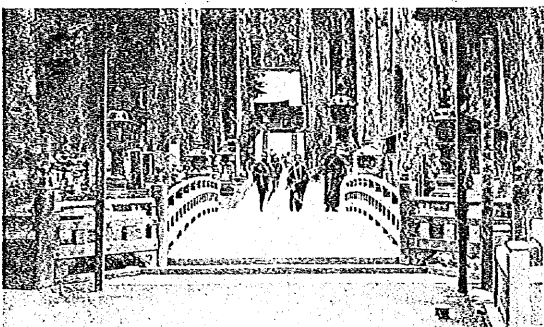
奈良公園の入口で、左に見えるは興福寺の五重の塔、右の方の家は宿屋。猿澤池には鯉や魚が多くて、遊覧客の興へる所に集つてくる。春秋の祭は繪のやうである。

吉野山

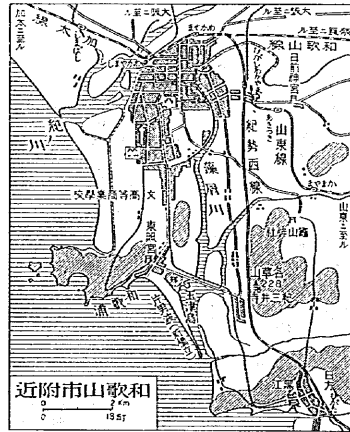


「みよしの山の曙」を上る千木より西に見たところ、尾根にある町の中の大きい建物は藏王堂、右端に見えるは如意輪堂。

高野山

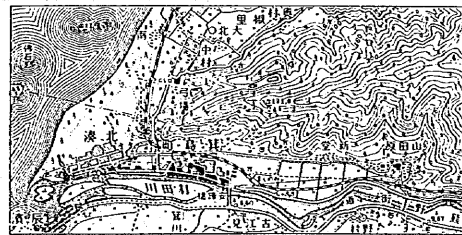
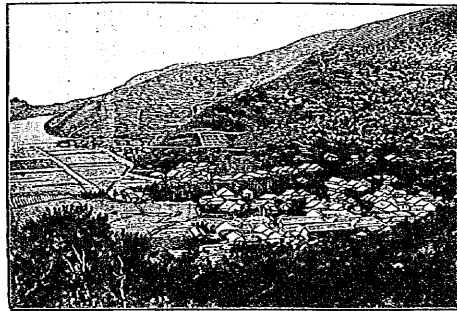


高野山は約八百米の高原上にある宗教都市で、金剛峯寺を中心に多くの増坊と民家とがある。この山の橋は弘法大師廟の前の玉川に架する。是より以内は木立深く最も清淨の區域である。



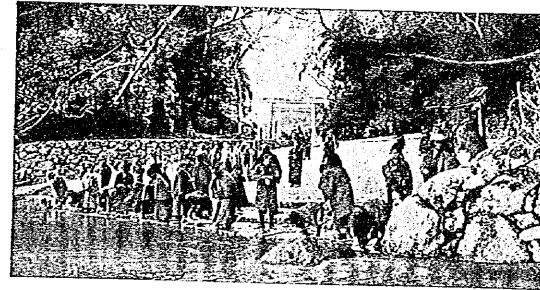
※ 地形一、八九頁

(2) 南部山地は吉野杉の産地で、その入口の吉野は吉野朝廷の舊蹟と櫻花とで名高い。
和歌山縣 (1) 紀伊川流域の門戸和歌山市は縣廳所在地で綿ネルの機業が盛んである。



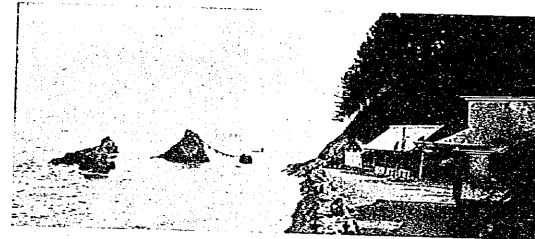
紀伊蜜柑 左上图は有田川沿岸の蜜柑畑を示したものである。この附近は紀伊川沿岸と共に紀州中その栽培最も盛んである。山に階段のやうになつてゐるのは皆蜜柑畑である。河岸平野は米田となり、桑落は山麓帯にある。下の地形圖と比べよ。

伊勢神宮の神苑



伊勢大神宮の境内。い原にめ極敬崇の民國は廟大神伊勢。五で部一の苑神の宮内は國。るあで城の淨清てつ。す示を場洗手御の川鈴計。

二見ヶ浦



宇治山田から約六軒方東にそつて電車通が。るあで岩婦夫い高名は國。るず。いよかなかな。

海女



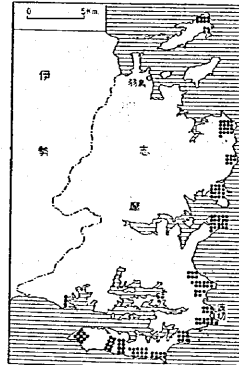
附近には名勝地和歌浦漆器傘の産地海南市、東にはるか離れて高野山がある。(2)それより南は大部分山地で、有田川流域は紀州蜜柑の本場として名高く、熊野川は木材運搬の路をなし、河口の新宮市はその集散地である。沿岸は一般に漁利に富むが、出移民も多い。

三重縣 (1)伊勢平野はこの縣の主要地で、主な都市は南北に並ぶ。

桑名は掛斐川の口にあつて、米穀の市場、四日市市は開港場で綿絲布、紙陶器等を出し、津市は縣廳の所在地、松坂市は商業の中心で、綿織物を産する。宇治山田市は神都で、参拜人四時絶えない。近傍に二見ヶ浦の勝地がある。(2)志摩半島の鳥羽は自然の良港、波切は漁港である。(3)熊野灘沿岸は小出入多く、漁業盛んで、真珠の養殖も行はれる。

(4)伊賀地方の上野は伊賀盆地の中心都市で傘の産が多い。

問題 近畿地方の北西部中央部南部を比べよ。



▲(八十二點一)布分の女海

※ 附近の明野原には陸軍の飛行学校がある。

▲ 八六頁 津地一、九二頁

第八章 中國地方

一、位置區分 本州の西部に位し、瀬戸内海を隔てて四國九州と相對し、行政上、岡山、広島、山口、島根、鳥取の五縣に分たれ、地理上、山陰、山陽の二區に大別される。

二、地形 高原性の中國山脈、廣く東西に連なる故、平野一般に少く、分水界は概ね北に偏し、山陰、山陽の兩地方を分つ。なほ山陰地方には白山、火山脈に屬する大山

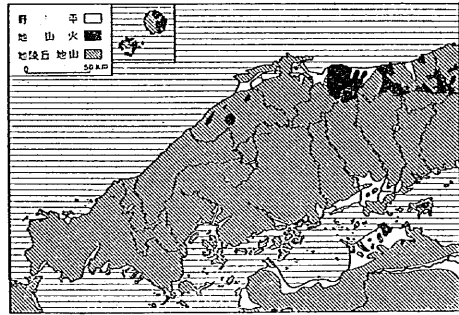
を分つ。なほ山陰地方には白山、火山脈に屬する大山、三瓶山等がある。川は自ら南北に分流し、日野、斐伊江の諸川は日本海に、吉井、旭川、邊太田の諸川は瀬戸内海に注ぐ。日本海岸は中部の島根半島附近の外

は出入少く、隱岐の外は島も少いが、瀬戸内海は屈曲に

富み、島も多く、碇泊地が少くない。又波穏かて古來交

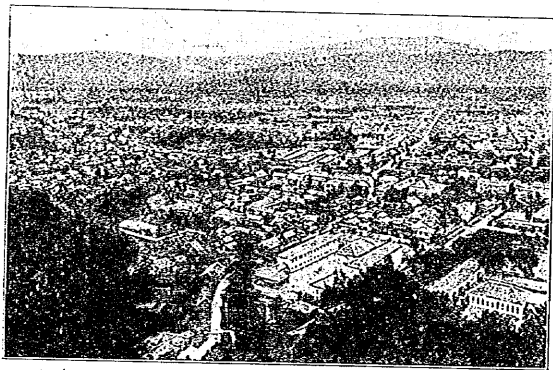
通上の要路をなし、船舶の往來が多い。

通上の要路をなし、船舶の往來が多い。



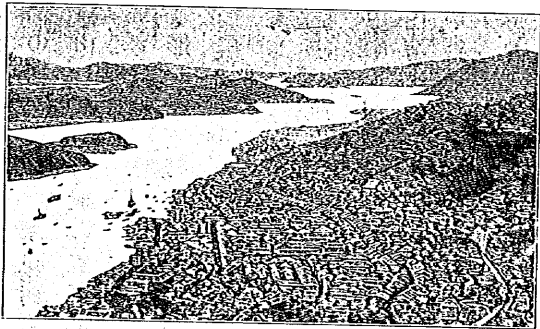
(てべ比と岡附)よせ入記を界水分に岡のこ 習實

鳥取市と中國山脈



鳥取市の舊城址から南西方を望んだところ。高原狀の中國山地を見よ。

尾道市



向島前面に横たはり港内は波靜かで風景がよい。山陽街道(左)と山陽線(右)と海岸の出入や島の多いのを見よ。

瀬戸内海

瀬戸内海は土地が落込んで出来たもので數多の島はその残りである。所々に火山岩も噴出してゐて風景がよいので、その中部は國立公園となつてゐる。内海は半島や群島に界せられて大阪灣、播磨灘、備後灘、瀬安藝灘、廣島灣、伊豫灘、周防灘に分れる。沿岸は氣候溫暖で、交通の便がよいから、各種の産業發達し、殊に製鹽は内地總額の九割を占める。海は靜かで交通や漁業も盛んである。附近の人々は海に親しみ海外に移住し、又、遠洋漁業航海業に従ふものが少くない。

三、氣候

山陰地方は冬季北西風多く吹き、雪を伴ひ、寒暑の差は少いが、一年を通じて雨がが多い。山陽地方は氣候一般に溫和で、割合に雨少く、製鹽に適するが、米作のための溜池が多い。

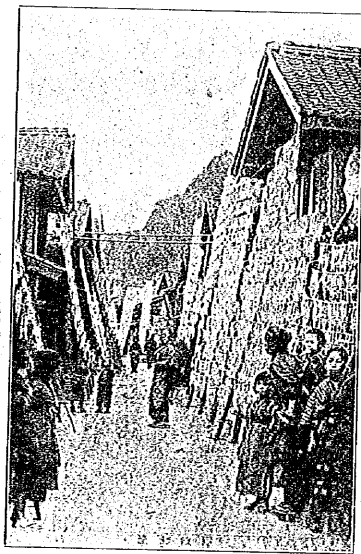
實習 左の數字で、二八頁のやうな氣溫降水量比較表を作つて説明を加へよ。

氣溫	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
廣島	四・五	五・五	六・五	七・五	八・五	九・五	一〇・五	一〇・五	九・五	八・五	七・五	六・五
山陽	四・五	五・五	六・五	七・五	八・五	九・五	一〇・五	一〇・五	九・五	八・五	七・五	六・五
降水量	廣島	山陽	山陰	山陽	山陰	山陽	山陰	山陽	山陰	山陽	山陰	山陽
廣島	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五
山陽	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五
山陰	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五	五五

四、産業

山陰地方は交通不便で、中央の文化に遠ざかつてゐたため、山陽地方に比べて、人口密度、産業の進歩が劣つてゐる。農業は概ね二毛作・行はれ、米・麥・果實等の農産多く、又山陽の中部地方からは蕎麦を産する。養蠶も次第に行はれ、牧牛も高原に盛んである。鑛産は山口縣の石炭や各地の花崗岩が主なるものである。内海沿岸の各地には製鹽行はれ、水産は日本海・内海共に多く、山口縣の鯛・鰯、廣

鳥の牡蠣^{カキ}〇八頁、二名高く、朝鮮近海に出漁するものも少くない。工業は次第に發達し、農業・工藝は全國の首位を占め、又綿織業を始め、大規模の工場が各地に設けられてゐる。

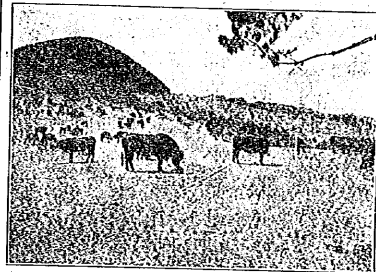


徳城の鰯 家の間に見えるのは柔魚^{イカ}を干したところである。柔魚は鮮魚のままでも賣るが、多くは腹をさいて内臓を去り、細い竹で中央を貫き、これを天日に乾かして鰯に製する。柔魚の漁期は全年にわたるが、最も盛んなのは冬で、夜間海外二軒から十二軒の沖に出て釣るのである。

五、交通 本州の幹線、山陽線は山陽を縦貫し、山陰線は山陰を貫いて連絡する。又、下

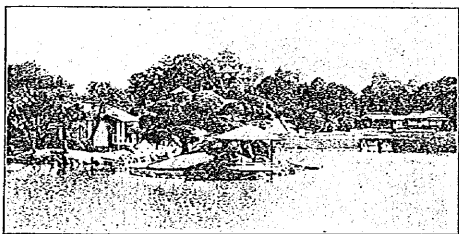


刈草圖



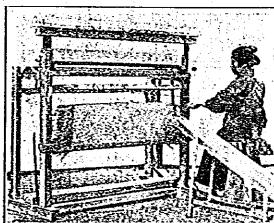
(近附の山高縣山岡)牧放

* 本地、一〇九頁、二一〇頁

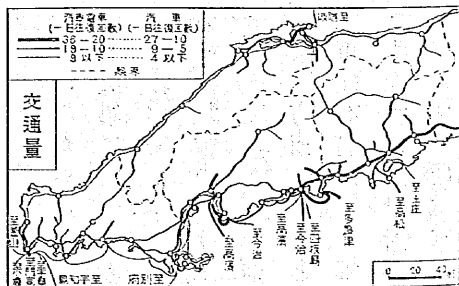


高名て以を美の工人。るあに都東北の市山岡 園樂後主は街市。るえ見が櫓の城舊はにふ向。るあで園公い。るあでのたし達發てしと町下城に方西の城のこに

關から鐵道連絡船で九州朝鮮の鐵道との連絡もよい。高原を南北に横ざるものには、東に因



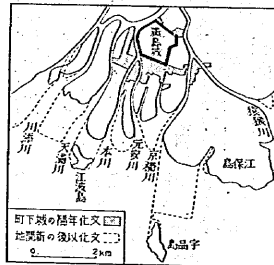
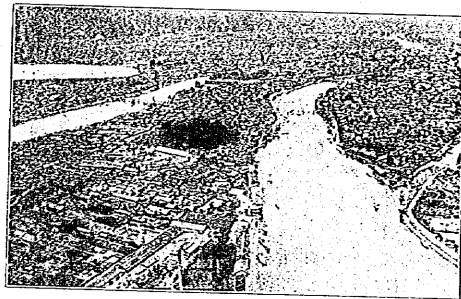
り器表盤



交通圖

備線中國鐵道伯備線、西に山口線、美禰線があり、高原内の盆地を東西に連ねる鐵道も次第に延び、之と相まつて自動車交通も發達してゐる。海上交通は山陽に盛んであるが、山陰は之に反する。六、處誌 岡山縣 (1) 諸川の下流には平野開けて米麥、蘋果實等の栽培が行はれる。岡山市は旭川に跨り、商工業交通の中心をなし、縣廳、醫科大學等がある。倉敷市も商

工業交通の中心をなす。その西の玉島笠岡には紡績業が起つてゐる。兒島半島の宇野は四國への連絡港である。(2)高原内では主として牧牛と麥作とが行はれ、津山盆地勝山盆地の中心都市は津山市と勝山である。



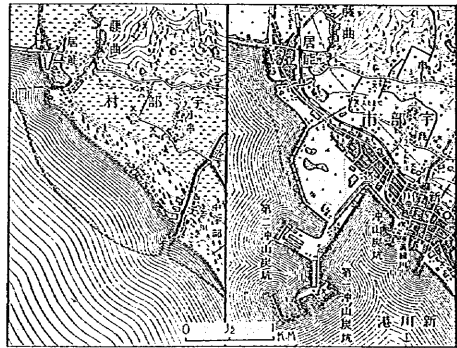
広島市 上図の右に元安川、左に本川が見える。左図は百三十年前の市街と、その後の土地の發達を示す。今の市街はほぼこの三角洲上にひろがつてゐる。

広島縣 高原山地廣く耕地の少い割に人口密度が大であるから農業は多角的になり、工業も次第に起つてゐるが、一方に海外への移出民もかなり多い。(1)海岸地方の備後方面には工業都市の福山市と、その西にある商港の尾道市がある。安藝方面には呉と広島とがある。呉市は有名な軍港で、第二海軍鎮守府と大規模な造船所、製鋼所があり、西方の江田島には海軍兵學

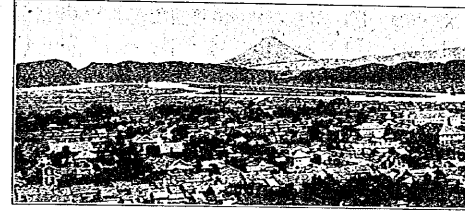
※ 地形二、一二頁

山口の西方に秋吉臺といふ石灰岩臺地がある。

校がある。広島市は太田川の三角洲を占め、中國第一の都市で、縣廳第五師團司令部文理科大學があり、商工業も盛んである。その外港の宇品は、日清日露等の戦役に軍隊輸送の重要地點となつた處である。その南西方に日本三景の一の嚴島がある。(2)高原では牧牛行はれ、三次盆地の中心に三次がある。山口縣 (1)山陽方面では錦帯橋で名高い岩國附近には人絹工業起り、徳山には海軍燃料廠や曹達工場がある。防府附近は製鹽の中心、宇部市は石炭の産多く、山口市には縣廳がある。下關市は瀬戸内海西方の門戸をなし、水陸交通の中心で、水産物の集散も多い。彦島には工場多く設けられ、北九州工業地帯の延長



市部宇 同圖の年一十正大は同右、年十三治明は同左。るあで 盛に急近最てつな伴に發開の田炭部宇は市本。るあで るれら知が事たつたにん

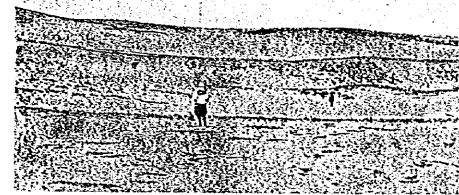


市江松 市城古から街市の東の分をことであ
る。橋川の流がえ見えに國中最高大の山火
山。(見四一)び及頁四〇(一)地(注)るえ見

をなす。(2)山陰方面の萩市は明治維新の功臣を輩出した舊城下町で、夏橙の産が多い。島根縣(1)出雲地方の松江市は縣廳の所在地で、宍道湖を控へて風景がよい。湖西には平野ひらけその北西隅の大きな社には有名な



山大(大山驛から見たことろ)



濱坂砂丘(島取の北方)

出雲大社がある。(2)石見地方の濱田は開港場で、この方面第一の都市である。(3)隠岐島は島前島後に分れ近海には島賊

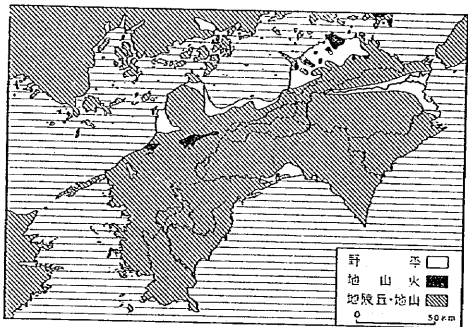
の漁獲多く、島後には西郷港がある。

鳥取縣(1)東部千代川流域の鳥取市は縣廳の所在地(2)中部天神川流域の倉吉はその中心都市である。(3)西部日野川流域の米子市は商工業交通の中心、夜見濱の先の境は貿易港である。

問題 山陽地方と山陰地方とを比べよ。

第九章 四國地方

一、位置區分 四國地方は近畿地方と九州地方との間にあつて、中國地方と瀬戸内海を隔てて相對し、行政上、徳島香川愛媛高知の四縣に分たれ地理上、北四國海濱内と南四國山脈とに分たれる。

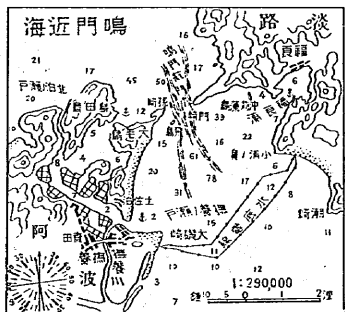


二、地形 域内は一般に山多く、四國山脈ほゞ東西に走り、剣山石鎚山が其の中にそびえてゐる。四國第一の長流吉野川は横谷又は縦谷をなして東に流れ、下流に三角洲を作る。

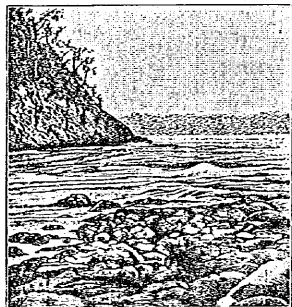
其の他、土佐灣に入る川には



奥の其で(危歩小)坂崩小 流峽の川野吉
路道ふ向に知高は(岸左)方右、坂崩大が



鳴門海峡 其の幅僅に三軒餘(門)から少し東に中瀬が分れてゐる(右)阿波(左)は凡そ六時間ごとに南流又は北流し、大音を發し、渦巻をつくつて、速度最も大なる時は一時間十二軒以上に達する。



稍大なるものもあるが、内海に注ぐものは何れも長さが短い。北四國には讃岐・高瀬の二半島が出て居るし、島も多く、諸海峡は潮流が急である。南四國には室戸、足摺の二岬が土佐灣を抱いてゐる外は出入少いが、西方の豊後水道沿岸は屈曲極めて多く、最も變化に富んで居る。

三、氣候 北四國は山陽と同じく氣候溫和で、降水量少く、從つて沿岸は製鹽に適する。南四國は紀伊の海岸に類し、位置地形海流季節風の關係で氣溫は一般に高く、降水量は暖季に多い。從つて此の方面は森林に富む。

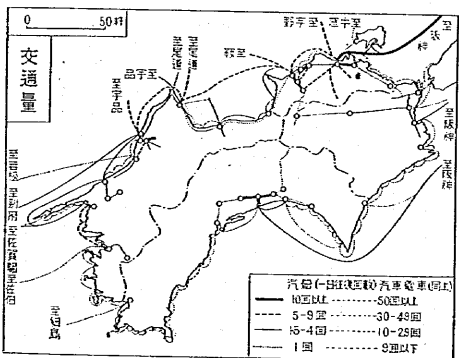
實習 左の數字で二八頁のやうな氣溫降水量比較表をつくつて説明を加へよ。

卷一
尋地二、二七

卷二
尋地二、一一

九頁

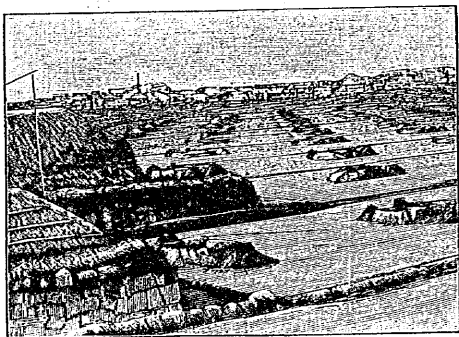
降水	氣
量	溫
多	多
度	度
津	津
知	知



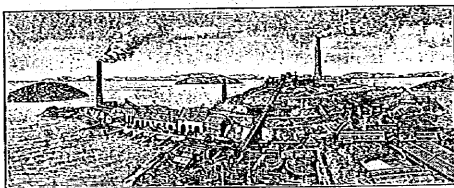
よへ考を係關のと形地と道鐵 題問

四、産業 北四國には、農業及び製鹽業が盛んで、南四國には林業、漁業が著しい。鑛業は別子に行はれ、高知、愛媛二縣では和紙の製出がある。綿機業（愛媛縣、徳島縣）も亦重要な産業である。漁業は沿岸各地一般に行はれ、殊に南四國は鯉、鮎の漁獲多く、土佐節の名が高い。

五、交通 鐵道は位置地形の關係上、發達は遅れてゐるが、北部の豫讃線は徳島線・高徳線に連絡し、近く高知線とも連絡する。なほ鐵道交通の不足は自動車交通によつて補つてゐる。海上交通は他



(尋地二、二七頁)。

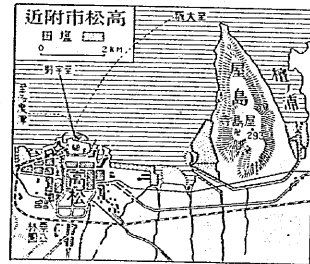


(尋地二、二八頁)

九九頁
本地方、八五頁

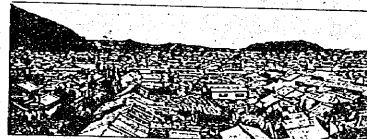
地方との交通に必要なので、よく發達し、殊に北四國の方に盛んである。
六、處誌 德島縣 (1) 吉野川地溝が

高松市の港のすぐ南に舊城址がある。市も舊城下町である。港に近く停車場があつて、西へ豫讃線、南から東へ高德線が通じてゐる。電車も栗林公園や屋島・琴平等に通ずる。屋島峯は古戦場と眺望とで名高い。(本地方一、二〇頁)。



主要地で、米・麥・烟草・蔬菜等の産が多い。その門戸の德島市は縣廳の所在地で、大阪との取引行はれ、綿織物を産する。小松島は市の外港をなす。市の北方鳴門海峡に臨む撫養附近には鹽の産が多い。吉野川中流には脇町・池田の小都市が並んで居る。(2) 南部の海岸附近は米・蜜柑・苺等を産し、水産業も盛んである。

香川縣 本縣は面積は小さいが、農業よく發達し、農業工藝も盛んで人口の密度が大きい。(1) 讃岐半島の中部海岸の高松市は内海航路の要津で、縣の中心都市である。その西

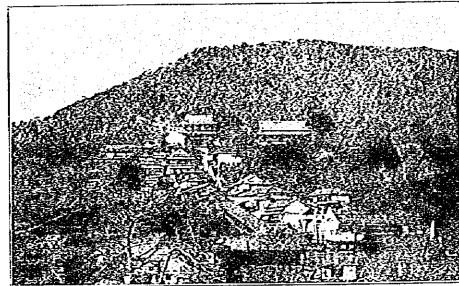


。たし達發てしに心中を山城の方右 市島德



姿路通

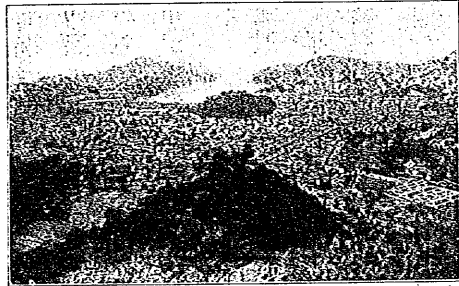
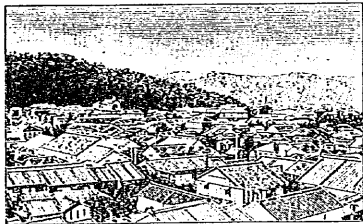
琴平町 金刀比羅宮は大物主命・崇徳天皇を祀る。本殿は山の中腹にあつて岡には見えない。岡の家は社務所・門等と、門前町の一部である。



門戸に高濱三津濱
東には道後温泉を

の製鹽地坂出及び丸龜市・多度津港第十一師團司令部の所在地善通寺・金刀比羅宮のある琴平は、何れも鐵道豫讃線に沿うてゐるし、電車の連絡もある。(2) 屋島中の小豆島は風景に富み、醬油を産し、直島には銅の製鍊所がある。

愛媛縣
(1) 伊豫灘
斜面中豫
の松山市
は縣廳の
所在地で、
伊豫紉を
産し、その



で山城はのる居てつ茂の木と々黒に左の岡 市島和宇
やつに後の山城。たし達發は町の此てしと心中をれこ
てついは汽蒸小・船輒で港内はのるえ見に様沼てい
よ見をのるみでん入り入く深の灣。る得し港入も

控へてゐる。(2) 燧灘斜面(東豫)には工業市で開港場の今治市と別子銅山とがある。(3) 豊後水道斜面(南豫)は海岸の出入は多いが、山がちで、水産物・蘭果實等を産し、宇和島市・八幡濱市が主な都市である。

高知縣 高知平野が主要地である。氣溫が高いので年二回来を作ることが出来るし、早生の蔬菜を阪神地方等に出す。高知市は縣廳の所在地で、阪神との航通が便利である。又、西方、仁淀川流域の伊野と共に和紙を産する。沿岸一帯には漁利多く、山地には林業が行はれてゐる。

問題 各自一縣づつ調べて發表せよ(全生徒四團に分れて)。

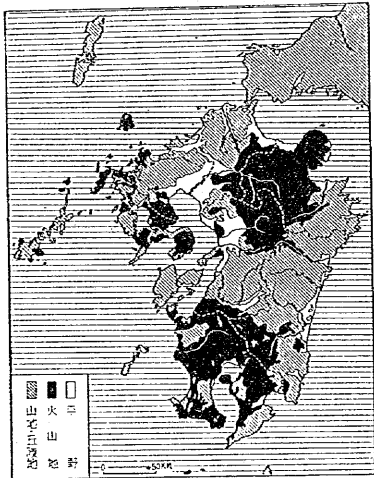


高知市街をへて南へ 高知市街をへて南へ 高知市街をへて南へ

第十章 九州地方

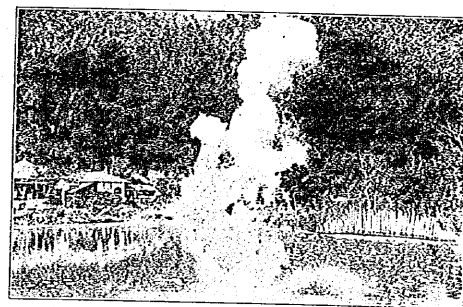
一、位置區分 九州地方は本土西端の九州島と、その附近の島嶼とから成り、行政上、福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄の八縣に分たれ、地理上、北九州(佐賀・福岡・大分)を南九州(熊本・鹿児島・沖縄)の三大別せられる。

※一四頁
※二六二頁



九州地方の地形

二、地形 北部には中國山脈の續きの筑紫山脈ほゞ東西に走り、數多の小山塊に分れ、石炭を埋藏すること多く、南部には四國山脈の續きの九州山脈、北東より南西に走り、高峻の山地をなす。兩山脈の間には阿蘇火山脈があつて、阿蘇山(阿蘇山)を始め、兩子鶴見山、布九重雲仙(阿蘇山)の諸峯之に屬し、勝景温泉に富み、南部に



るかに越東の岳見鶴は市府別 獄地海の府別
 多も草の湯。りあが泉温にろことる判近附で港
 え絶が客浴入時問でのいよも候氣も景風 い
 ることの秬六約西北の市は獄地海の國 いな
 湯熱の色なうやの北海に日火いき小てつあに
 (頁五二—一) 尋るゐてへいたを



は霧島火山脈があつて霧島
山國立公園・櫻島開闢岳を噴起し
更に薩南諸島の内帯に數多
の火山島を造つてゐる。主

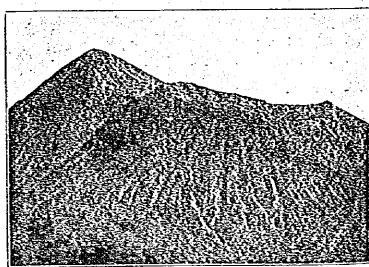
阿蘇山 舊火口は南北凡そ二四軒東西凡そ一八
軒面積三百餘方軒世界最大の火口である。中央
火口丘の主なもの五つあつて、その中岳は今も
盛んに活動してゐる。火口原は阿蘇谷、南郷谷に
分れ、農業牧畜行はれ都邑も多い。鐵道豐肥線も
火口を横きつてゐる。一四頁及び落地方地二六
頁落地方地二六一頁。

市島兒鹿と島櫻
(時當火噴年三正大)



(頁九二・一地球)

な川は阿蘇火山脈と九州山脈を分水界として諸方に流れ、球磨川は峽流をなし、筑後川の下流一帯には九州第一の筑紫平野がある。海岸は屈曲甚だ多く、殊に北西部には、肥前半島突出し、島嶼岬灣入りまじつて最も複雑な一區を形づくり、中に軍港佐世保及び商港長崎がある。南部には大隅薩摩の二半島が出て、鹿児島灣を抱き、北東には國東半島出て



鈴御と(左)峯穂千高の中郡山火島霧

その南方豊後水道に面する所は小出入が多い。ただ日向灘に面するところは單調である。近海には海嶼多く、北西に壹岐對馬平戸、五島、西に天草嶺の諸



(縣崎宮) 林葵蒲の島青

島、南西には薩南諸島、琉球列島、琉球者を含せてが長く連なつてゐる。

三、氣候 九州地方は一般に溫暖で、北九州も冬季降雪極めて少く、南九州は氣溫高く、降水量が多くて、蒲葵の如き熱帶植物が自生する。更に琉球弧では亞熱帶氣候になつてゐる。

實習 左の數字で六〇頁のやうな氣溫降水量比較表を作つて説明を加へよ。

降水量	氣溫				一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
	長崎	大分	福岡	鹿兒島													
鹿兒島	三〇	二五	二五	二五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
長崎	三〇	二五	二五	二五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
大分	三〇	二五	二五	二五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
福岡	三〇	二五	二五	二五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五

※ 各地、一四三



るゐてい働も子女 部内の坑炭 (頁三三...地特)

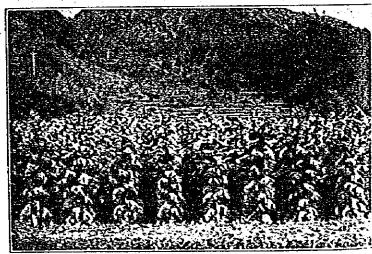
(年七和昭) 類産の炭石

北九州	長崎	同 類
山口	山口	山口
山口	山口	山口
山口	山口	山口
山口	山口	山口

(年七和昭) 類産の金

北九州	長崎	同 類
山口	山口	山口
山口	山口	山口
山口	山口	山口
山口	山口	山口
山口	山口	山口

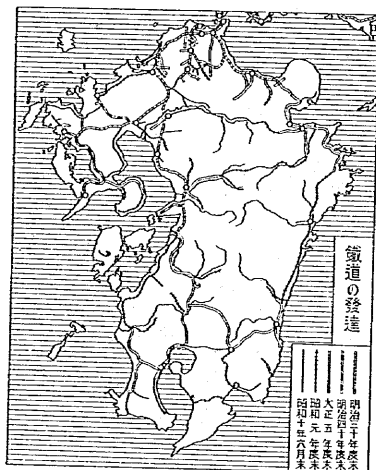
四産業 北九州は土地概ね低く、且、海岸の出入が多いから水陸の交通が便利な上に、アジア大陸に近くて古くから文化輸入の門戸となつたから、人文の進歩著しく、人口稠密、都邑よく發達し、産業も我が國の主要地域の一である。南九州は北九州に比べると、土地概ね山がちで、中央に遠いため、北九州の如く産業が發達しない。農業は二毛作行はれ、北九州の筑紫平野と熊本平野には農産多く、良質の米を産する。又南九州及び琉球弧には甘藷、甘蔗、煙草、早生蔬菜等の畑作多く、熊本、鹿兒島、宮崎の三縣には牧畜が盛んで、琉球には養豚が行はれる。林業は南九州の山地に發達



(分國縣島兒鹿) 類草煙

※ 疎地一、二八
頁
※ 疎地一、二三
○ 頁
▲ 疎地一、二三六
頁

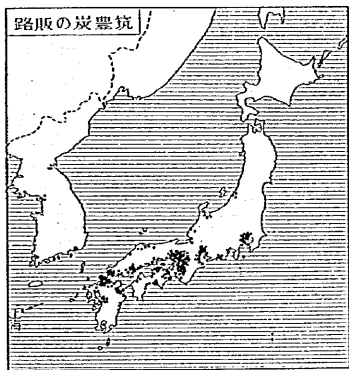
實習 産業分布圖
をつくれ。



し木材炭椎茸等を出す。鑛産は北九州の石炭及び大分縣の金銅、¹⁰⁰鹿兒島縣の金が名高い。殊に石炭は我が國產出額の半ば以上を占め門司若松三池等から積出され、又北九州にある八幡製鐵所を始め各種の工場に使用せられる。工業は北九州工業地帯の外有田^{佐賀縣}の製陶、長崎の造船、久留米^{福岡縣}の機業、熊本縣の肥料、大分縣の鹽表等がある。商業も亦北九州に盛んである。水産業は一般に盛んであるが、長崎縣が第一位である。

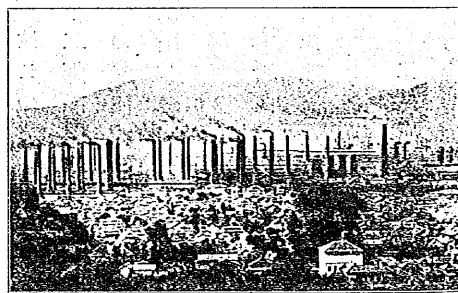
五交通 鐵道鹿兒島本線日豐本線長崎本線は幹線をなし、前二者は相連つて九州を一周する。北九州には鐵道よく發達し、殊に工業地帯附近は鐵道網をつくつてゐる。東西横斷には北九州に九大線豐肥線があり、南九州には日豐本線と連絡する肥薩線吉都線がある。海上交通も北九州に盛んで、門司長崎が

※ 疎地一、二八
頁



主な港である。

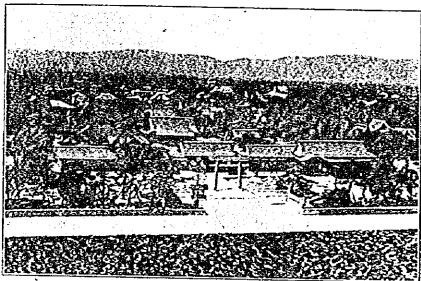
六、處誌 福岡縣 本縣は位置地形の良いこと、石炭の多産等のため九州中産業最も進歩し、農産多く、又各種の工業が盛んで、北東部は一大工業地帯となり、都市の發達も著しい。(1)北東部の門司市は下關と相對する開港場で、石炭の積出多く、鹿兒島線の起點である。それより南西には小倉戸畑八幡若松の諸工業市並列し、八幡にある製鐵所は規模が殊に大きい。遠賀川流域の筑豊炭田の石炭は主に開港場若松市と門司市とから送りだす。直方市飯塚市は炭田地域の中心



八幡製鐵所 明治三十三年の出来だんだん張る
て今東洋第一。たつと製鐵額が我國の出産の半過を占める。原料は鐵礦、焦炭、及炭酸の道海黃鮮朝は鐵鐵の料原。るめ古を
友那大・イレ半島等からくる(地本三頁五)

福岡市の南東に太宰府神社がある。

久留米市北東方の太刀洗には陸軍の飛行隊がある。
* 平地一、一三三

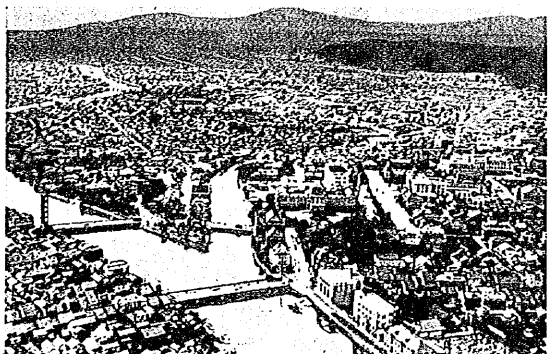


佐賀市 城址から北に望む。前市賀佐 社神嘉佐の祀を公斐園島銅は景

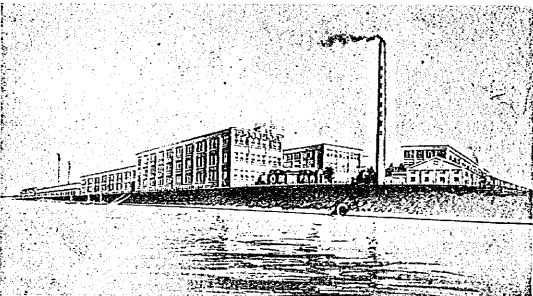
都市である。(2)北西部の福岡市は九州第一の大都市で縣廳の所在地、博多を開港場とし、商工業が盛んで、又學藝の一中心をなし、九州帝國大學^外市がある。(3)南部の主要地は筑紫平野である。この平野は筑後川、矢部川等の流域で、佐賀縣南部に互り、九州第一の大平野をなし、米、麥、桑種等の農産が多い。久留米市はこの方面第一の都市で、足袋、緋タイヤ等を産し、第十二師團司令部がある。南端の三池炭田は我が國第一の炭田で、大牟田市はその門戸をなし、工業榮え、石炭積出しの盛んな三池開港場を控へてゐる。

佐賀縣 (1)南東部は有明海斜面に屬する。筑紫平野西部の中心には縣廳の所在地佐賀市がある。有明海の北岸では牡蠣等を養殖し、開港場佐賀からは石炭を積出す。(2)北西部海峽斜面には唐津、伊萬里の灣入があつて、灣頭には夫々同名の港市をもつ。唐津市は唐

福岡市 北方より見たところである。川は那珂川、中央に縣廳が見え、其の左方東は西中洲で、左端の橋が西大橋。

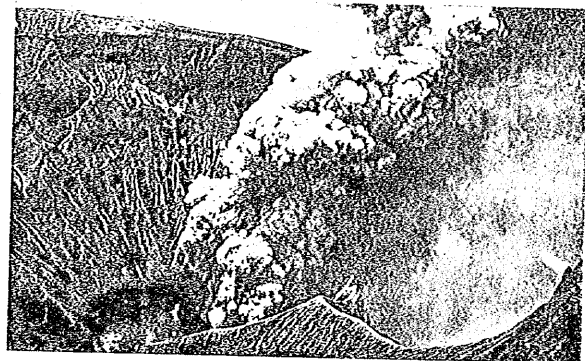


久留米市 筑後川に臨む。岡は筑後川と足袋工場とを示す。工場には原料の布を機械で織る機械工場とミシンで縫ふ裁縫工場とがある。此の労働に従ふものは主に女子である。

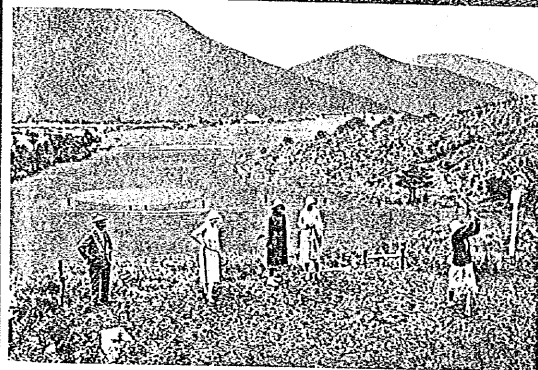


唐津灣 唐津城址から松浦川口を隔てて東唐津の諸島の町とそれから左東につづく虹の松原と、背後の鏡山(鎮中)振山とをのぞむ。

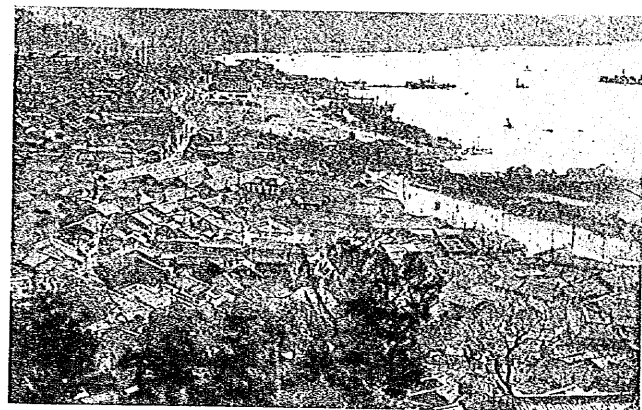




阿蘇の中岳（左）



雲仙ゴルフリンク（左）



長崎港の一部（下）

※ 陸地一、一三六
頁
※ 陸地一、一三
七頁
△ 陸地二、六二頁
▲ 八代には洋紙・
セメント製造も
行はれる。

津線終點の開港場で石炭の積出が多い。有田は有名な陶器産地である。



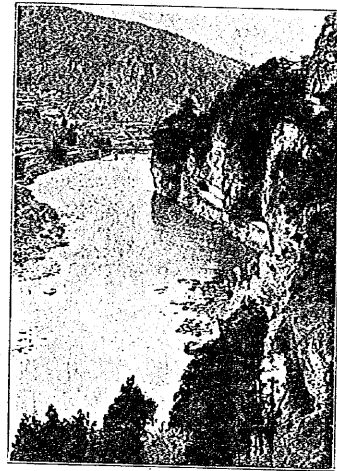
熊本縣 市本熊
城は岡。るあで市都心中の野平本熊は市本熊
るあで山岡花の西南の市は山の面前で街市新の方南の

長崎縣 (1) 半島部は丘陵がちで、海岸線の出入著しく、近海は漁利が甚だ多い。長崎市は縣廳所在地で、開港場中最も古く、醫科大學や三菱造船所がある。島原半島には温泉岳、釜ヶ崎、東岸には島原がある。佐世保市は軍港で、第三海軍鎮守府がある。(2) 屬島のうち五島列島の近海は水産物に富み、江富江は漁業の中心をなす。壱岐對馬は日本海の口を扼し、對馬は特に水産に著はれ、嚴原の開港場がある。熊本縣 (1) 熊本平野は縣の主要地で、肥後米や粟の産が多い。熊本市は白川に臨む舊城下町で、第六師團司令部、縣廳、醫科大學がある。宇土半島には開港場三角、球磨川の河口には木材の集散地、八代がある。(2) 東部から南部にかけては一帯に山地で、北に阿蘇火山、南に

第十章 九州地方

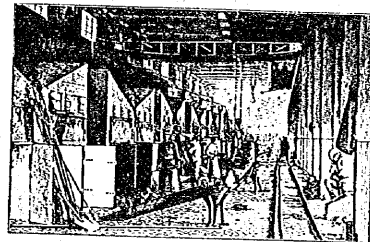
人吉盆地がある。鐵道肥薩線はこの南方の山地で一部ループ式線路となつて、鹿兒島縣に入る。(3)天草島は二島から成り、無煙炭陶土を産する。牛深が第一の港である。

大分縣 (1)別府灣沿岸の別府市は溫泉に富む休養都市である。その東方の大分市は縣廳の所在地で交通上の一中心をなす。東端に近い佐賀關



耶馬溪の青洞(右)附近を示す。此の地では、岩塊が水を受けて、あつたものである。

には壯大な製鍊所があつて銅金の産出が多い。(2)國東半島には鹽表の産多く、(3)周防灘沿岸には平野開け、中津市の南方には耶馬

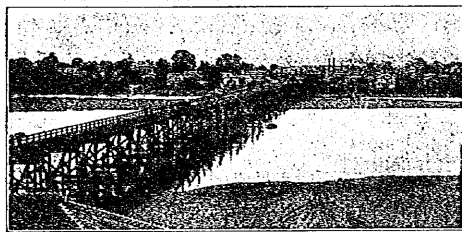


佐賀關製鍊所。我が國西部の諸鐵山の鐵石を處理するために設けられたものである。佐賀關港は數千噸級の汽船の出入自在で、鐵石の運搬に便利なため、此の地が製鍊所に選ばれた。圖は工場内部で粗銅を作る爐である。(本地、一三三頁)

溪の勝地、東方には宇佐八幡宮がある。(4)豊後水道沿岸はリアス式の小灣に富み、水産物セメント蜜柑を産し、臼杵佐伯等の港市がある。(5)西部は一帯に火山岩の山地で、所々に小盆地開く。その中、日田盆地が最も著はれる。

宮崎縣 本縣は皇祖發祥の地であるが、海岸は單調で、山地多く、交通不便であるから、開發が遅れてゐる。宮崎市は大淀川の下流にまたがり、縣廳の所在地で、その上流に都城市、北方には延岡市がある。

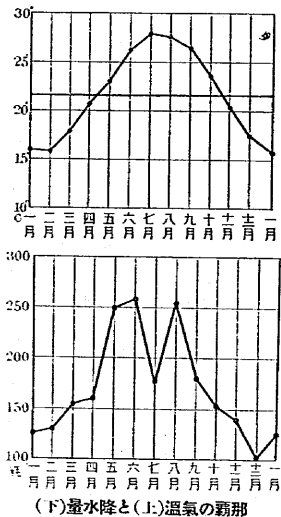
鹿兒島縣 (1)鹿兒島灣斜面の鹿兒島市は明治維新の功臣を輩出した舊城下町で、縣廳があり、開港場になつてゐる。北方の國分附近等には煙草を産し、霧島火山の裾野では牧馬が盛んである。南方の指宿附近は火山溫泉に富む。(2)東支那海斜



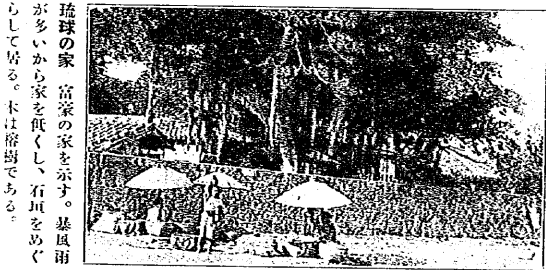
宮崎市の大淀川にかけてある橋(長さ凡そ四百米)を距てて宮崎の市街を望んだところである。(本地、一四一頁)

面には鹿兒島本線通じ、川内出水等の都邑をつらねる。本縣には金山多く中にも串本野が著はれる。(3)太平洋斜面の有明灣頭には平野開け、志布志が其の中心都市である。(4)屬島のうち薩南諸島の種子島は砂糖を産し、屋久島は屋久杉の産を以て名高く、大島からは黒砂糖大島紬を出す。

沖繩縣 (1) 北部に沖繩諸島 (2) 南部に先島諸島 (3) 東部に大東諸島がある。氣候亞熱帶性で、生



物は木土と大に趣を異にし、植物には榕樹



琉球の家 富豪の家を示す。暴風雨が多いから家を低くし、石垣をめぐらして居る。木は榕樹である。

芭蕉等よく茂り、動物には飯匙倩沿岸には礁・珊瑚がある。農産は甘諸甘蔗蔬菜を第一とし、養豚も行はれる。産業が振はない割合に人口密度が大であるから、移出民が多い。

この地はもと琉球王の統治した所であるから、言語風習が内地と異なるものもあるが、今は概ね内地風に改まつた。那覇市は縣廳の所在地で開港場をなし、王城のあつた首里市と共に泡盛・漆器等を産する。琉球海溝を隔てて琉球弧の東方にある北大東島からは燐礦を産する。

問 一、南北九州を比べよ。
題 二、琉球弧について調べよ。

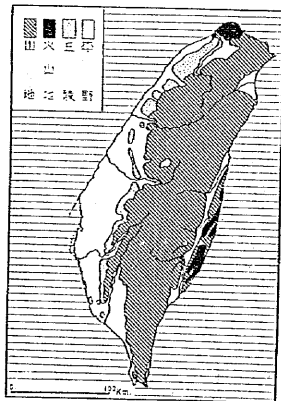
第十一章 臺灣地方

臺灣は今より約四十年前、日清戦役の結果我が國の領有となつた熱帯植民地で、臺北に總督府を置き、地方を五州三廳に分けて之を治める。又臺北には臺灣軍司令部を置き基隆澎湖島には要塞を設け澎湖島には海軍の要港を置く。

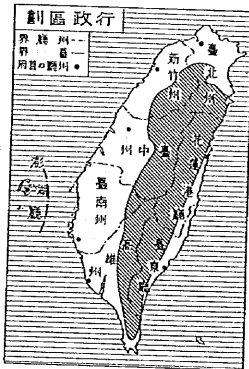
一位置 臺灣は日本列島の南西端に位置し、西は臺灣海峡を隔て、支那と相對し、其の間に澎湖諸島がある。

南はバシー海峡を隔て、フィリピンに隣り、東は太平洋に北は東支那海にのぞむ。

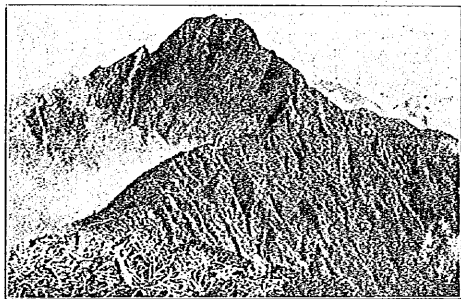
二地形 高峻な臺灣山脈が中央から東に偏して、南北に走り、我が國第一の高峯新高山を始め三千米を超える高峯が少くない。その東側には海岸に低い臺東山脈並走し、又北端には



臺灣の地形



行政區劃



新高山第一高で三九五〇米。我國が第一の高山である。新高山は、熱帯に於ける高山である。新高山は、熱帯に於ける高山である。新高山は、熱帯に於ける高山である。

※貯水池と水路のことである。

用する。海岸は極めて單調で、東海岸は概ね絶壁をなし、西海岸は遠浅で、砂濱多く共に船を寄するに不便である。ただ基隆は自

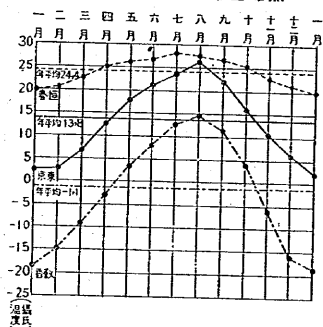


大屯火山群がある。臺灣山脈の東側は急斜して宜蘭平野、臺東平野の小平野を見るのみであるが、西側は緩斜して廣い臺灣平野に移り、淡水河、濁水溪、淡水溪の諸川この中を流れて浅い臺灣海峡に注ぐ。是等の諸川は、山地では深い谷をつくるが、平野に出ると急に河幅廣がり、砂泥を堆積し、多くは分流する。水運の便少いが灌漑用の堰・圳を設けて利用する。河流は季節により著しく増減し

然の良港であるが、高雄は潟を利用し築港によつて良港となつた。
 三氣候生物 北回歸線に跨つて熱帶・性氣候である。季節風によつて乾季雨季の別生じ、北部と南部とは反對になつてゐる。

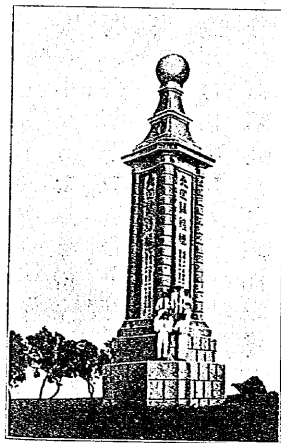
實習 左の數字で二八頁のやうな氣溫降水量比較表を作つて説明を加へよ。

較比溫氣の候氣帶寒・帶溫・帶熱



近附中央と端兩北南國が我てつよに同上の其と度溫均平年(1)の(京東・青龍・秦頓)知を差の度溫の冬・夏(2)。化變の間年一國が我(1)てつよに之。る來出がとこる冬が方の夏は差の度溫の方地端兩北南のに般一は太極(2)。り知をとこい少りよ化變の度溫の間年一もかし。くく度溫。し示をとこるあて候氣帶寒てき大が。もかしで溫高に般一し反に之は潯寒(2)をとこるあて候氣帶熱で小化變度溫の年を線曲の間中の者二前は京東(4)又。す示。す示をとこるあて候氣帶溫しは現

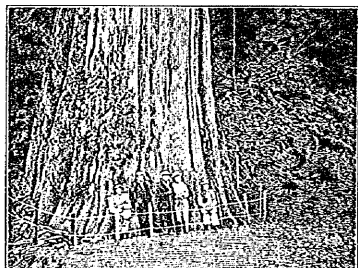
北回歸線標



植物は熱帶性を示し、山地には樟樹等茂り平地には榕樹・檳榔・椰子・龍眼・芭蕉等、水邊にはマングローブがある。動物には家畜に水牛等がある。

人口の職業別

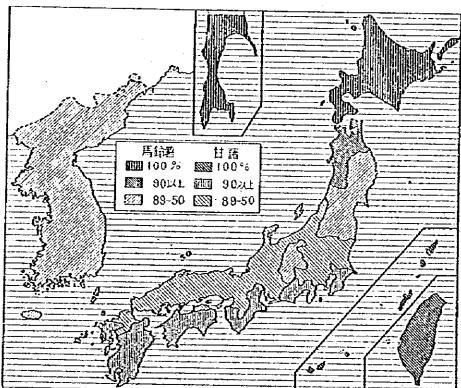
職業	公務員	自由業	工業	商業	農業	其他
人口	10	20	30	40	50	60
人口	10	20	30	40	50	60



阿里山の巨樹 阿里山は新高山の西側に連なり、一帯の大森林をなし、東西八村、南北二十村に互る。扁柏・紅檜・榿等を總督府の官營で代探する(平地二、三頁)。



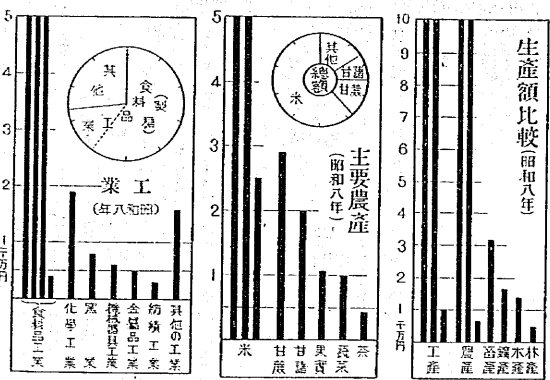
らせ栽培に南以部中に主は(つ二の端右)豆文 實果の潯臺州中寮は(つ二左のそ、梨似)ルブナイバ。いまが味風れ二、二地及上左)ナナバ。す出積てしに詰罐で主が州華高雄高しと地産主を州中寮で一第が額産中實果島本は(頁六二の下左)柑手佛。す出積く多へ地内き次に之州南寮・州中)眼龍。いまうとるすと漬糖砂は皮で種一の柑蜜は(つるへ加に中の子葉又しと用食を肉。い多に方地部南は(央



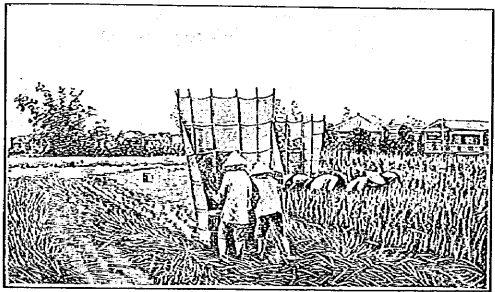
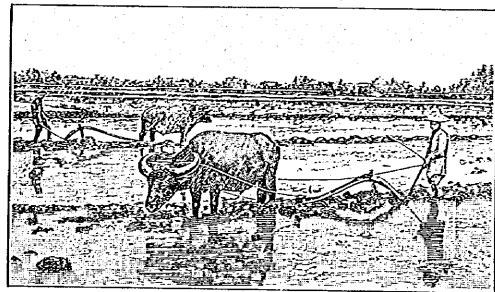
馬鈴薯と甘蔗の生産割合を各々二の要を考へて示す

雷習 洋菜分布圖

四、産業 農業は主産業で主として西部平野に行はれ、米、甘蔗、甘藷を三大農産とし、この外、果實、茶の産多く、豚の飼育が盛んで、水牛、家禽の飼養も行はれる。山地は森林に富み、阿里山等から良材を出す。樟より樟腦、樟腦油を製し、その産額世界第一である。鑛産は北部の石炭、金、銅等名高く、中部の油田も有望である。西海岸は雨量少く、日射強く、風が多いから、天日製鹽に適する。水産業は北東部と南西



米作



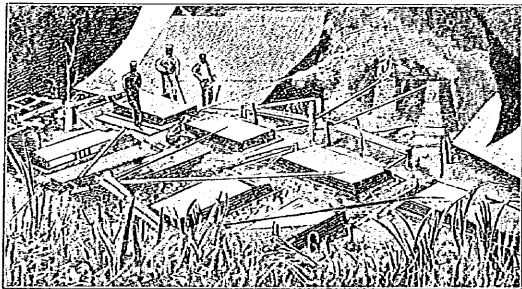
上圖は水田を耕すところ、使役する動物は水牛、下圖は收穫の状況である。米作は本島第一の作物であるから灌漑の便ある所は大抵水田にする。多くは一年に二回の收穫がある。産出額八百萬石ほどで移出は三百萬石餘六千餘萬圓である。

(緑地二二八頁)

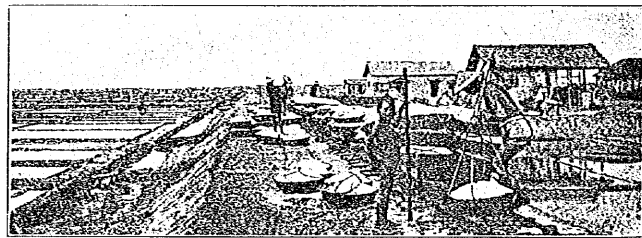
茶



茶の栽培區域は比較的濕氣に富む中部以北の地方で、臺北新竹の二州を主とし、年數回葉をつみ、烏龍茶、包種茶、紅茶等に製造する。



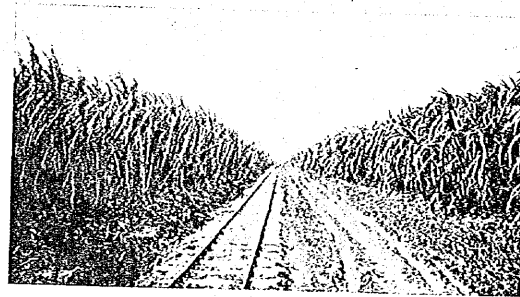
で庄特の島本に殊洋東は糖樟 場工製粗の糖樟
防や用藥とも。るす出製で近附地山の部北部中
ロルセがたつか少が要需は頃たみてつなと用蟲
皆總は糖樟。たし増が要需に急來以明發のドイ
人を片木の樟に釜の方右の岡。るあで賣專の府
にめだ木の方左で管は糖樟たし發蒸とすむてれ
(頁一三二地郊)るあでのるま岡てつ入



は法製。るあで南以部中岸海西は地産の糖樟。製日天
つ待をのるなくこの分繼れ入に池糖蒸を水海づ先で製日天
るあでのるめしせ品結てし移に池品糖を之て

部に行はれる。工業も次第に發達し、砂
糖を第一とし、その他茶鳳梨罐詰・アルコ
ール樟腦及び樟腦油の製造が行はれる。

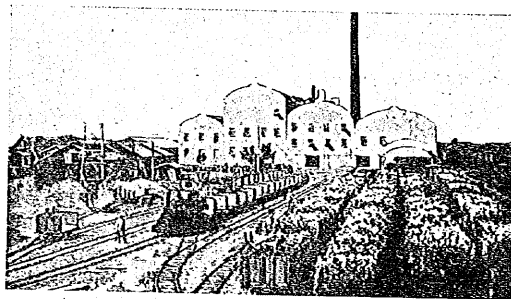
甘蔗は米につぐ農作物で南西部が主産地である。日本領となつてから政府の指導によつて發達したものである。昔は主にジャワ種を改良したものである。灌漑や排水の設備もよく、このつた。上岡は甘蔗の畑で、成熟すると刈りとつて貨車や、中國のやうにして工場に運び、工場でこれをしぼつて粗糖(赤砂糖)・精糖をつくり、主に内地に出す。内地の製糖會社はこの粗糖とジャワの粗糖とから精糖(白砂糖)をつくるのである。製糖業は臺灣第一の工業で總生産額の六割を占めてゐる。(本地二、二九頁、三〇頁)。



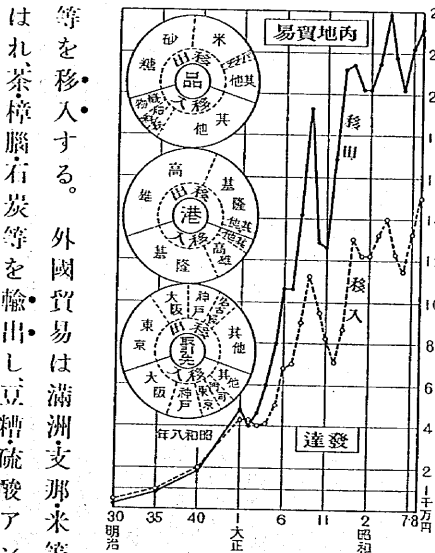
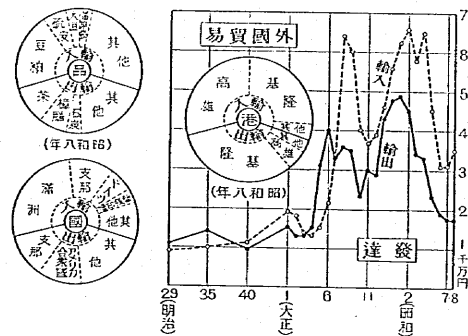
甘蔗園



甘蔗運搬(水牛使用)

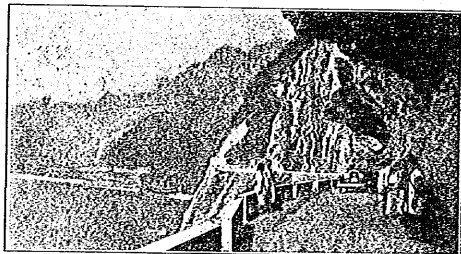


製糖工場

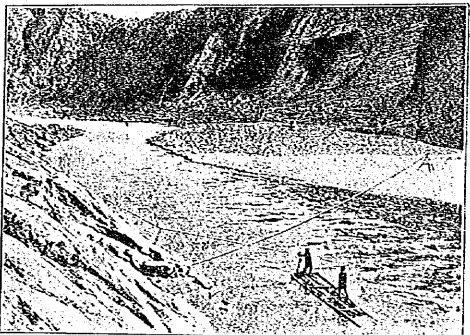
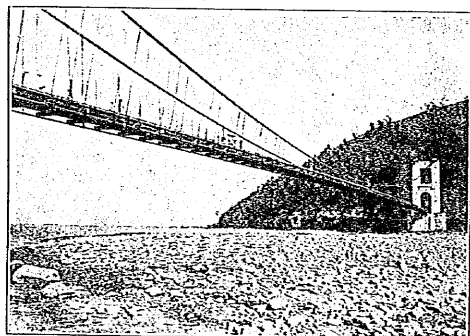


等を移入する。外國貿易は滿洲支那米等との間に行はれ茶樟腦石炭等を輸出し豆糟硫酸アンモニウム大豆黃麻袋等を輸入する。開港場のうち盛んなのは基隆高雄である。五交通 在來の交通機關には内地と異なるものが多い。鐵道は西部の平野に發達し基隆から高雄にいたる南北の縦貫線と數多の支線とがある。南西部の製糖盛んな地方には甘蔗運搬専用の私設鐵道

商業は内地との取引が最も盛て砂糖米バナナ鳳梨罐詰等を移出し、織物肥料鐵木材乾鹽魚



道路と鐵線橋 東岸の花蓮港・蘇澳間の斷崖下に二〇軒の良道が通じた。上圖はその一部である。下圖は其の道路のほと中央臺北州と花蓮港廳の界を流れる大濁水溪の急流に架せる吊橋(長さ五五〇米)である。



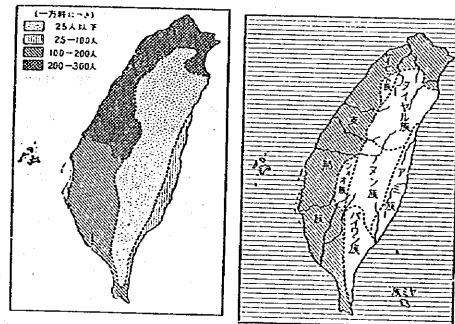
竹筏 本島特有のもので全部竹で作る。動きが少く安値であるから各地で利用せられる。

が多い。臺東平野には臺東線があつて自動車で花蓮港・蘇澳間を結んでゐるが、全島一周及び横斷鐵道はまだ出来ないのて、東西の交通

は不便である。

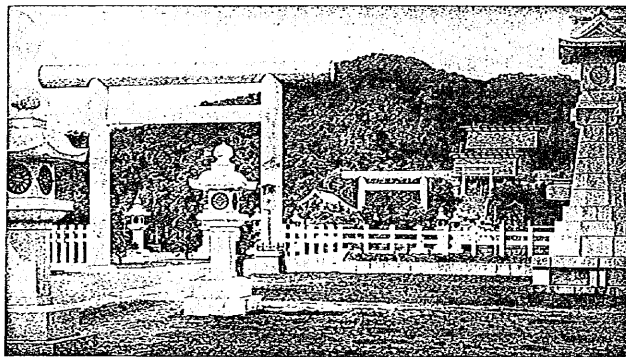
無線電話も内地との間に通じた。

支那族は西部の平野に密集するので、人口の密度が大きい(上左図)。生蕃は主に山地に散在してゐるので人口の密度は非常に小さい。生蕃は七種ほどに分たれるが(上右図)、最北部に住むタイヤル族は最も内蕃で(食、言がりの)風がある。下図はタイヤル婦人の機織りの状況である。(本誌一、五頁)。



往來する。海底電線は淡水から長崎琉球福州(支那)に通じ、無線電信局は臺北等にある。六住民 住民は總數五百餘萬、その中内地人は二十餘萬、蕃人は約二十萬、其の他は支那族で概ね西部の平野に住む。蕃人はその文化の程度によつて生蕃と熟蕃とに分ける。熟蕃約五萬人は山麓の地に土着し、支那族に同化して良民となつたが生蕃は

社 神 灣 臺



を命名彦少・命魂國大・命貴計巴大で社大神官るにあに方北の場車停北臺、いよが望展で煤高地土。るす祀奉を靈英の王親久能宮川自北故又り祀

街 市 北 臺



け設を道水上し築修を路道し正改を區市ちかてつな地領の國が我は市か東を内城は岡。たへのいとを備設的化文をゆらあどなるず通を道水下るず通に西らか(下左)門東の共りなと路道線三は跡壁城。ることと見ら(頁五三・二地等)。るえ見が府督總にり當突の路道

等を輸出する。臺北市は臺北盆地に位し、臺灣第一の大都市で、本島の政治・經濟・文化の中心をなす。北西の淡水河口には淡水がある。



臺北から南すると新竹市、臺中市、彰化市がある。更に南方の嘉義市附近は製糖業盛んで、東方の阿里山の木材を集散する。臺南市は支那領時代の首都で南部の大自然である。高雄市は基隆に次ぐ良港で築港新に成り、砂糖米等の積出が多い。その東方に屏東市、南端に近いところに恒春がある。

(2) 東部は交通不便で開拓がまだ進まないで、人口も少く、産業も振はない。都市では北の宜蘭平野の宜蘭、蘇澳、臺東平野の花蓮港、臺東がやゝ著れてゐる。

(3) 澎湖諸島は海蝕で分離した臺地狀の低い火山島から成り、その中、澎湖白沙漁翁の三島は内に澎湖灣を囲み、灣内の馬公には海軍の要港を設けて臺灣海峡を守る。

問 一、我が國の熱帯植民地としての臺灣を調べよ。
題 二、臺灣と樺太とを比べよ。

第十二章 朝鮮地方

内地の市郡(島)町村に當る。

※長き約八百軒、面積は本州に等しい(三頁)。

▲各地二、三八頁

朝鮮は我が國と古くから密接な關係があつたが明治四十三年我が國と併合した。京城に朝鮮總督駐在して政務を統轄し地方を十三道に分け、各道に知事を置き、道の下に府郡邑面がある。軍備は龍山に朝鮮軍司令部があつて龍山と羅南に二個師團を備へ、又鎮海に要港を置く。地理上、南部慶尙全羅忠清各南北道中部京畿江原黃海の三道北部平安咸鏡各南北道の三區に分たれる。

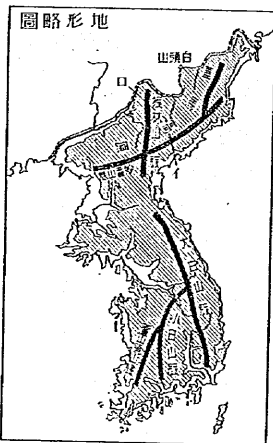
一、位置 朝鮮は日本海と黃海との間に突出する東亞の一大半島で、鴨綠江、豆滿江を境として大部分は滿洲國に、一部はソビエト聯邦に連る。二、地形 一帯に山がちである。滿洲との界には長白山脈が北東から南西に連り、中には半島の最高峯白頭火山が聳える。その南方に蓋馬



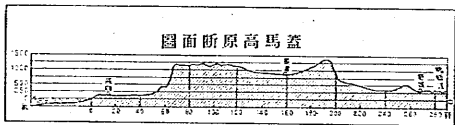
金剛山 朝鮮第一の名山で、花崗岩からなり、その節理(われ)にそつて侵蝕され、種々の奇景をあらはす。圖は海金剛の一部を示す。

(各地二、三八頁)

下図は左図のイロ線に沿うて作つた斷面圖で約一千米の蓋馬高原の狀況がよくわかるのである。この高原は妙香山脈から北の方鴨綠豆滿二江にひろがる大高原で西の方は表面やゝ不規則で高さ約六百米である。向大白山脈とそのつゞきの狼林山脈とは半島の主な分水界をなしてゐる。

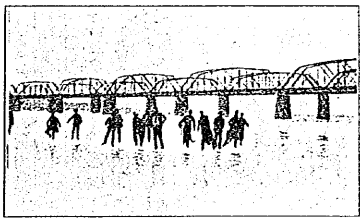


實習 主な河と分水界とを同示せよ。



高原がある。南部は大白山脈東岸に沿うて縦走し、北端に近く金剛山がある。川は、北境の鴨綠江、豆滿江の外、漢江、錦江、洛東江が何れも四百糎以上の長流である。中にも鴨綠江は、長さ約八百糎、我が國第一の長流で、流域に森林地を控へる。その他の諸川の沿岸には小平野所々に開け、農業が盛んで、交通も割合に便利である。

著しい出入はないが、西岸と南岸は出入や島嶼が甚だ多い。しかし西岸は遠浅で、潮汐の干満が大きいので、仁川港には閘門式船渠がつくられてゐる。



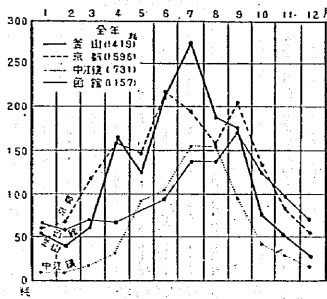
ケ三二冬はで北以部中の鮮朝 結氷の江漢のる來田が來往の馬人てつ凍が水河間の月突温らかい寒に様のは冬の鮮朝。るあて。るくつに内室を備設寒防ふいと(ルドンオ)

三氣候 南は海洋性氣候であるが、北するに従ひ次第にアジア大陸の影響をうけて、内陸性氣候となり、寒暑の差甚しく、一般に雨量少く、且冬は北部の河や海岸が凍る。

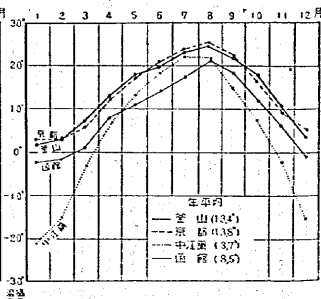
四、産業

農業は半島の主産業で、米を始め、大豆、麥、類煙草等の産多く、開城附近の人蔘、南部地方の綿も名高い。家畜は牛豚の飼養が第一で、皮革はその重要物産である。山地は多いが、林業は鴨綠江、豆滿江流域に

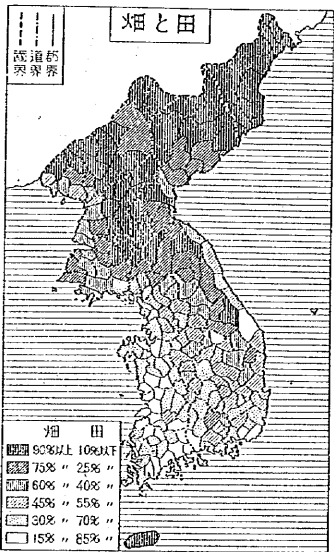
較比量水降



較比温氣

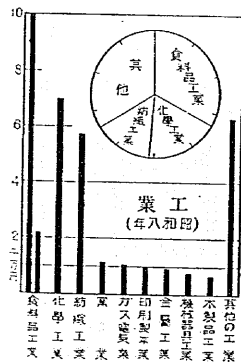
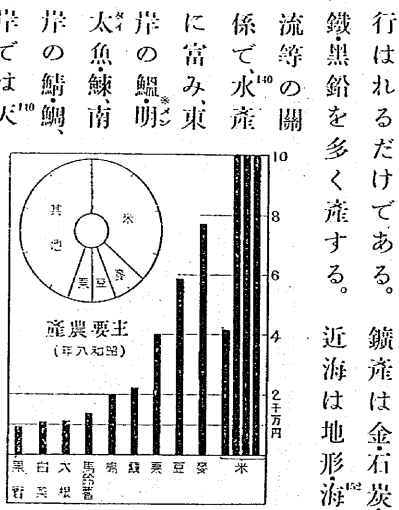
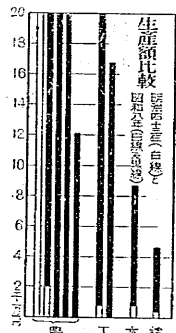


べ北をと地二の地内の度緯同と之と地二の端南北南の鮮朝候氣性洋海てくな差大と都京は山釜の方南。るあてのもた。るあて候氣性陸内とるべ比に館南は鎮江中の方北がるあて

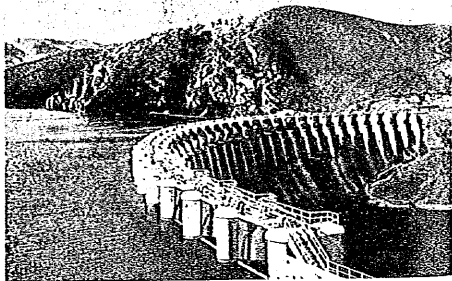


※本地図、四六頁
※本地図、四七頁

西岸の石首魚等を主とし、又西岸では天日製鹽が行はれる。工業は従来ごく幼稚であつたが、近年内地人の手によつて次第に



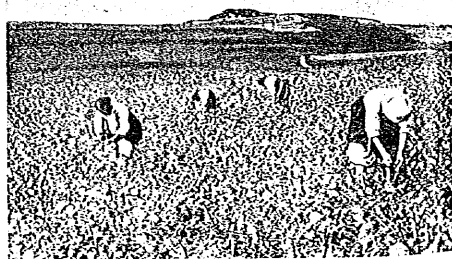
米の收穫 地形氣候の關係で南部中部には米の産は多いが北部には少い。昭和八年の産額一千八百餘萬石その内移輸出は約八百萬石に上る。左圖は農家の米收穫の状況である。



貯水池 灌漑工事がだんだん各地に出来て米の産出が多くなつた。右圖は全羅北道の全州の西方にある貯水池である。



人蔘畑 人蔘は古くより薬用として尊ばれてゐる。左圖は開城の人蔘畑を示す。蔘畑を並べて多くの屋根を作りその下で人蔘を育てる。人蔘は總督府の専賣品である。(本誌二・四四頁)



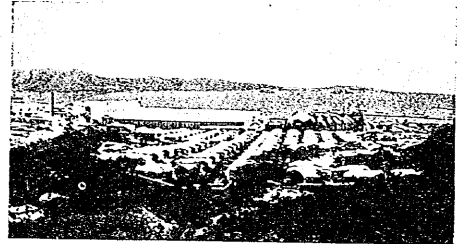
總 是成鏡南北道以外殆んど到るところに栽培されるやうになつたが全羅南道慶尙南北道及び平安南道が其の主産地である。右圖は綿を收穫してゐるところである。



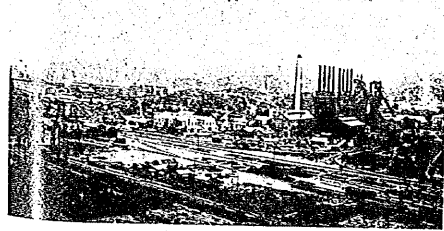
釜山の魚市場 釜山は漁業の中心にあるので魚類の集散が多い。右図の市場に集まるタヒ・サハラ・ヒラメ・アジ・サバ・ブリ・タチウオ等を鮮内内地満洲等に送る。



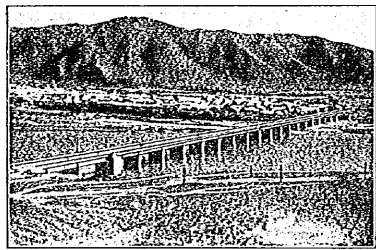
鹽田 鹽は人參・煙草・阿片と共に政府の專賣品である。左図は鎮南浦(平安道)西方の廣梁灣鹽田(天日製)で官營のものである。朝鮮では年々鹽の生産約三億斤に對し五億六千萬斤消費するので、不足分は滿洲・支那等から買ふ。



興南製肥料會社 興南は咸興(咸鏡南道)の南東海岸にある。この工場では、鴨綠江上流の赴戰江・長津江の水を日本海方面に落して得た電力を用ひ、水・水素・硫黄・硫磺・磷礦石を原料として人造肥料(硫酸アンモニウム)等を製出する。

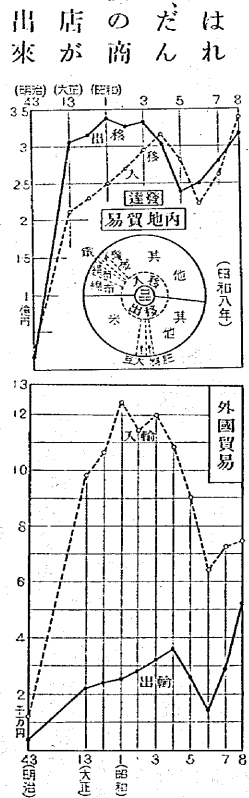


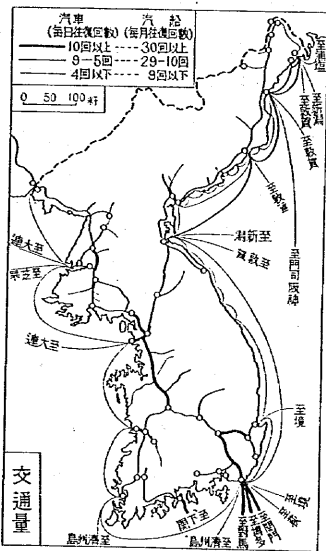
釜二浦製鐵所 釜二浦は平壤と鎮南浦の間にあつて大同江に臨む。左図はその製鐵所で黃海道に産する鐵礦を原料にする。



新式の工業が興つた。商業は各地の定日市でも行はれてゐるが、だんだん常設の商店が出來た。

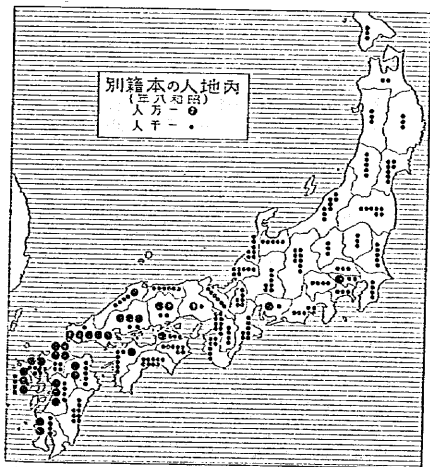
豆満江の鐵橋





朝鮮鐵道線等がある。主要道路も次第に改修され定期自動車も通じて交通の便がよくなつた。汽船は釜山仁川、鎮南浦、元山、清津、羅津、雄基等を中心とし沿岸各港を連ね、また内地、滿洲、支那、ウラジ

鐵道の安奉線に連絡する。又、京城より北東に連る京元線、咸鏡線、圖們線は、豆滿江の鐵橋で滿洲國の京圖線に連絡する。其の他、湖南線、慶全線、東海線

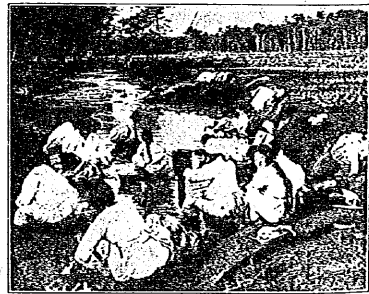


ボストックとの航通も行はれてゐる。六住民 住民は總數二千餘萬、密度は北東部に小さく、南西部に大きい。全半島を平均すると内地の半に過ぎない。固有の朝鮮人は容貌體格等内地人に

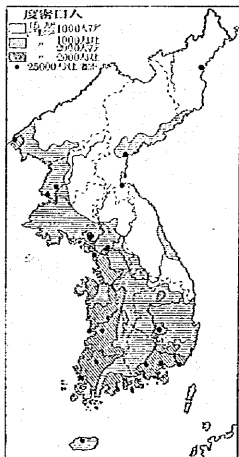
(族家の流上) 人 鮮 朝



よく似てゐる。教育も次第に面目を改め、學校の設備も漸く整つた。移住内地人は、その數五十餘萬多くは都市に住む。



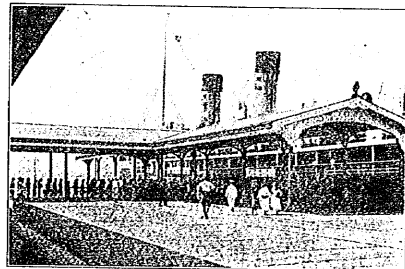
濯洗の人婦鮮朝



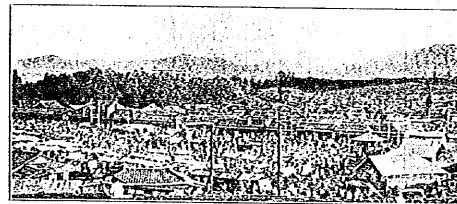
半で總一たいひに東南から西北がるれき分等二まほは積面の島つな合割の五・三と一は人口闊のと度密人口と形地。るゐて。よ見を係

七、處誌 (1) 南郡 慶尙全羅忠清各南北道、所謂三南の地で、氣候は半島

中最も海洋性で、土地割合に開け米綿等の産多く、人口密度も高い。南東端の釜山は内地との交通貿易上最も大切な半島第一の開港場で、貨客の出入が甚だ多い。鎮海灣内には鎮海馬山の良港がある。鎮海は海軍の要港である。大邱は洛東江流域の中心市場で、農産物の集散多く、春秋の大市に名高い。その東方の慶州は新羅の舊都で古蹟に富み、北西の大田は米作の一中心をなす。その北方の清州は忠清北道の中心、西方の扶餘は百濟の故地である。



釜山港（開釜連絡船）
（対地二、四七頁）

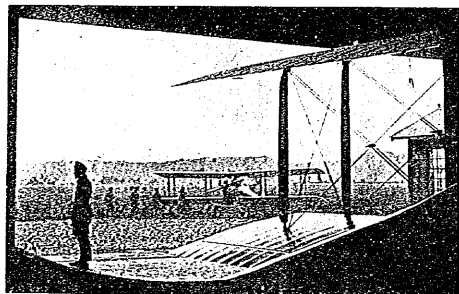


（頁〇五、二地本）市大の邱大



。るえ見が群墳古の内地盆。處た見らか西 州慶

の集散多く、春秋の大市に名高い。その東方の慶州は新羅の舊都で古蹟に富み、北西の大田は米作の一中心をなす。その北方の清州は忠清北道の中心、西方の扶餘は百濟の故地である。



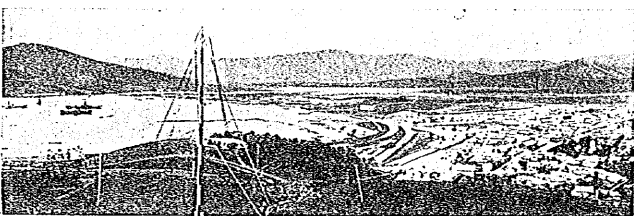
飛行場左）大同江の東岸にある飛行隊のもので旅客機も茲に着陸する。背景は大同江對岸の牡丹臺一帯の丘陵で、平壤市街の北端にあたる（対地二、四〇頁）。



。るゐでん関が堤波防を灣津清たれら守を方東に（方後右）島半抹高 港津清

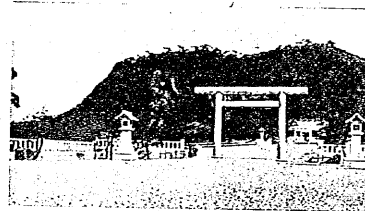


經港築の鐵滿に（方西）方右の川津裡たれき修改の央中 港津裡
。るえ見てつな重が島草小・島草大はに口灣。るゐてし行進が督



。るれち見が街市・道鐵港へ右らか左 港基雄

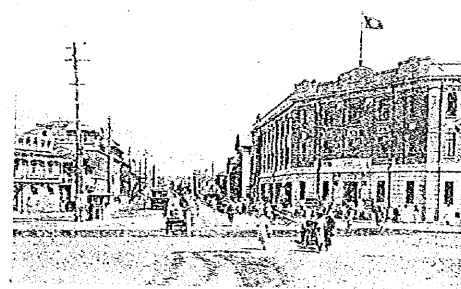
朝鮮神宮 京城の南山にある官幣大社で天照大神及び明治天皇を祀る。外苑からの眺めがよい。



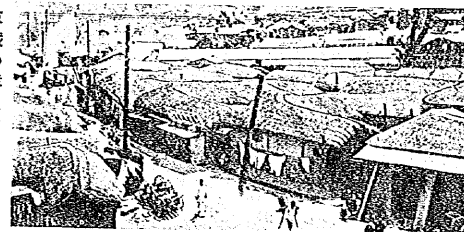
京城の全景 三角形の北岳山の麓に見えるは朝鮮總督府で、その前の通りを南すると圖の左下へ京城府廳と徳壽宮とが相對して居る。



京城の黄金街道 南大門通から車に見たところで右角の建物は日本生命保險會社のビルディングである(表二五・五二頁)。



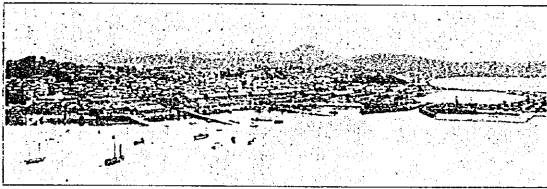
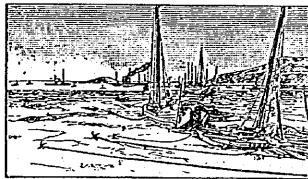
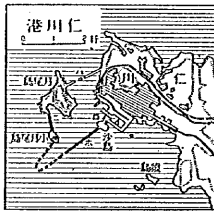
京城の鮮人街 露伴の家が狭い道の両側に並んでゐる。上の圖と比べて新舊市街の著しい對照を見よ。



※ 表地二、四三頁

西岸の群山木浦の二港は夫々小平野の門戸をなし米綿の積出多く、又近海漁業の中心をなす。全州と光州は夫々道廳の所在地である。

仁川港 朝鮮第二の貿易港であるが、潮汐の干満の差は十米以上に及ぶことがあつて我が國第一である。中國は干潮時の有様で、右は月尾島左は小月尾島、大船は六軒の沖で荷役をしなければならなかつたから、丁度三池港と同様に上圖の(イ)のやうな開門式のドック(面積三萬坪水深八米餘四千噸級の船三隻を横付け出来る)を設け、(ロ)の部分(ハ)をつて之を渡る。下圖は港の大觀である(表地二、四一頁四二頁参照)。



(2) 中部 京畿江原黃海三道の地である。江原道は概ね山地であるが、他の二道は平野所々にひらけ、殊に京畿道は久しく半島の中心をなしてゐる。京釜線に沿ふ水原には農事試験場高等農林學校があつて農事改良の中心である。京城は李朝五百年の舊都、朝鮮第一の大都市で、半島の政治文化交通商工業の大中心である。その一部の龍山には第二十師團司令部置かれ、工業も盛んである。

西方の仁川は半島第二の開港場で、**閘門式船渠**の築港が出来て、從來の不便を除いた。京城の北西の開城は高麗の舊都で、人蔘の産地として著はれてゐる。黄海道は鐵金の産に富み、兼二浦には製鐵所があり、海州には道廳がある。又、江原道の首都は春川である。

(3) 北部 (イ) 北西部は平安南北道の地で大同江流域が主要地をなす。平壤は流域の中心都市で、附近からは石炭を産し、水陸交通の要點に當り、商工業が盛んで、その門戸には鎮南浦の開港場がある。平安北道には雲山、三成等の金鑛がある。新義州は鴨綠江を隔てて滿洲の安東に對する開港場で、營林署の製材所がある。

(ロ) 北東部は咸鏡南北道の地で大部分は蓋馬高原に屬し、海岸附近が主要地をなす。元山は東岸中部の開港場で、その北には咸興、清津、羅南、羅津、雄基等がある。羅南は第十九師團司令部の所在地、清津、羅雄基の三港は滿洲の東の門戸をなす。

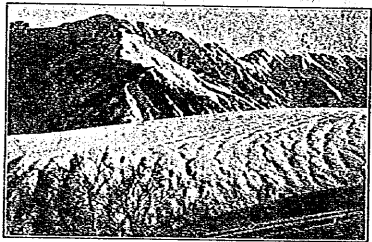
問題 植民地としての朝鮮の價值如何

第十三章 總說

第一節 地文

一、地形 日本列島及び朝鮮半島は山や丘陵が到る所に起伏し、河や平野の大きなものが少い。

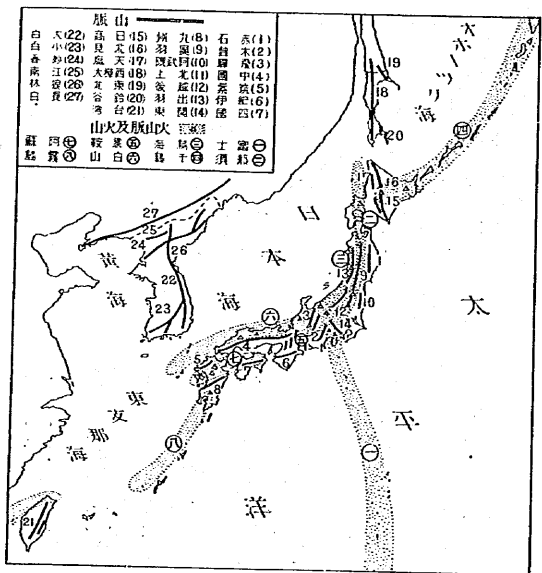
山脈と火山脈 日本列島を造る主な山脈は中央部に噴出する富士火山脈を界として北彎・南彎の二山系に分たれる。北彎は樺太から南に延び、北海道に蝦夷山脈を起して本州に入り、北上山脈・阿武隈山脈・奥羽山脈・越後山脈及び關東山脈等の低い山脈となる。南彎は外帶・内帶の二列から成り、九州山脈・四國山脈・紀伊山脈及び赤石山脈は外帶に屬し、筑紫山脈・中國山脈・飛驒山脈は内帶に屬する。是等の山脈中、飛驒山脈は最も高峻で、三千



(岳日大と原ヶ陀嶺)山立

米以上の高峰が少くない。

以上の山脈の外日本列島には火山の噴出頗る多く、縦横に通ずる



日本列島の火山及び山脈

數多の火山脈がある。中にも著しきは富士火山脈で、脈中の富士山は單式火山の標式的の形をなし、長い裾野をひいてゐる。この他北日本には千島那須島海の諸火山脈、南日本には白阿蘇霧島の諸火山脈がある。これ等の中には今尙活動するものもある。

我が國には火山活動以外に、地震多く、火山學、地震學の研究資料が豊富である。又温泉多く、療病等に用ひられる。

臺灣の主な山脈は臺灣山脈、朝鮮半島の主な山脈は大白山脈、妙香山脈等である。

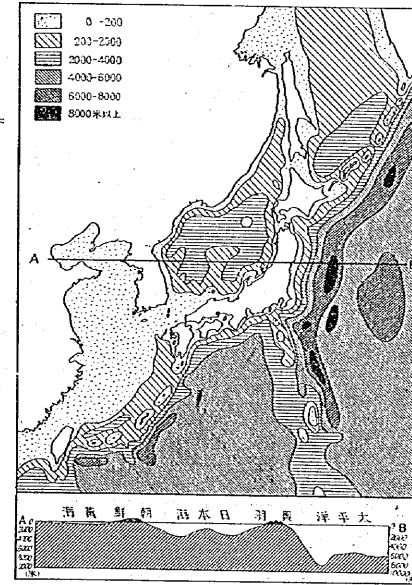
河と平野 何れも大なるものなく、且急流のため水運の便は少いが、發電灌漑に利用せられる。北日本中その主なものは石狩川とそれに養はれる石狩平野や、山脈の間を流れる北上阿武隈信濃等の諸川である。尙この地域の南部には我が國最大の關東平野があつて、利根川斜に之を貫流し、交通灌漑の利が多い。南日本には本曾淀筑後の諸川があつて、濃尾山城、大阪筑紫の諸平野を養ふ。

臺灣には西部に濁水溪等の流域に大平野がある。朝鮮には四百軒以上の川が六つもあるが、到るところ山がちで大平野はない。

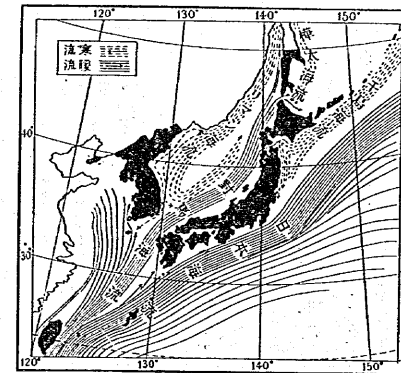
湖沼中、琵琶湖霞浦等は舟運漁業灌漑の利が少くない。

二海岸近海 我が國は島と半島とからなるから海岸線が頗る長い。

潮汐干満の差は各地一様でなく、仁川附近が最大で十米に及び、佐渡では三分の一米に過ぎない。



日本近海の深度

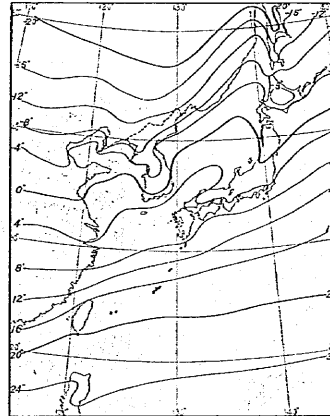


日本近海の海流

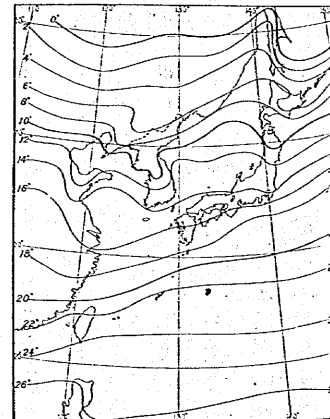
沿海には寒暖の二流がある。日本海流は一名黒潮といひ、その支流對馬海流と共に暖流に屬し、千島海流は親潮といひ、リマン樺太の兩海流と共に寒流に屬する。これ等の海流は氣候水産等に關係することが大きい。

三、氣候 臺灣の一部を除く外は溫帶に位し、氣候概して溫和である。

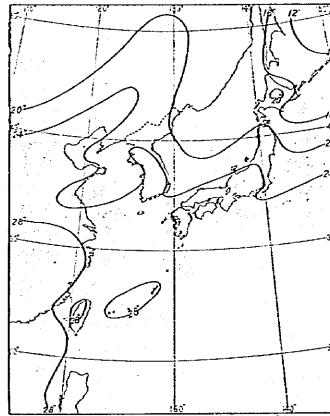
一月の等溫線



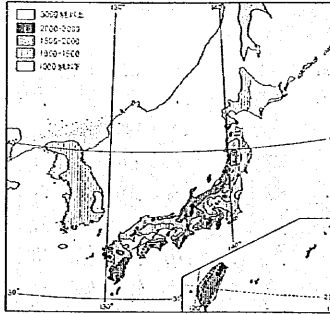
年の等溫線



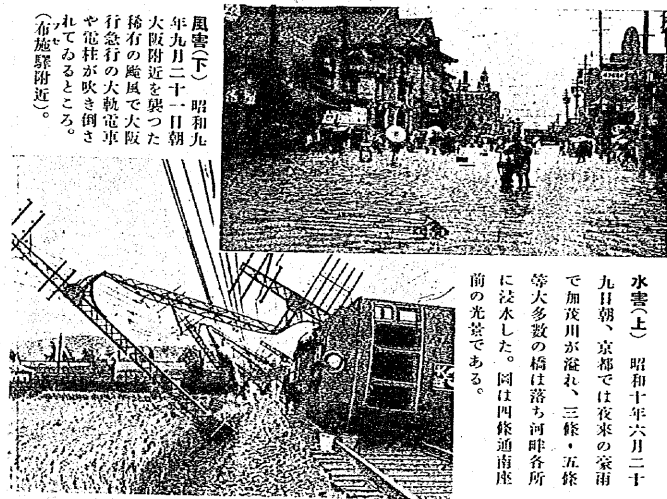
七月の等溫線



年の降水量



六〇頁の面積分布圖と此とよ
か係關の向風・流海は向。よ
よせ明説を圖のこら

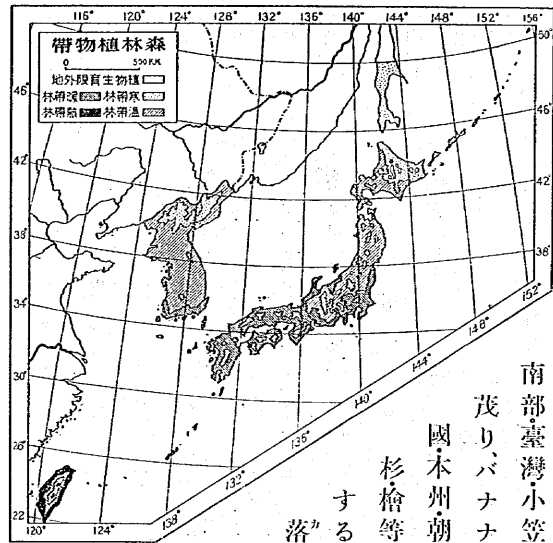


風害(下) 昭和九年九月二十一日朝
大阪附近を襲つた稀有の颱風で大阪行急行の大軌電車や電柱が吹き倒されてゐるところ。
(布施駅附近)

水害(上) 昭和十年六月二十九日朝、京都では夜來の豪雨で加茂川が溢れ、三條・五條等大多數の橋は落ち河畔各所に注水した。岡は四條通南座前の光景である。

しかし土地南北に擴がり、地形複雑なる上に、寒暖二流の影響をうけるから氣候は各地一樣でない。風は夏季偏南風が吹いて、太平洋岸に多くの雨を降らし、冬季は反對に偏北風多く、日本海岸地方に雪をもたらし、兩季節風の交代する初秋の候には、時々颱風襲ひ、豪雨を作つて災害を及ぼす。

四生物 我が國は生物の發育に適し、氣候、地形が多様であるから、その種類が甚だ多い。植物の分布を見ると、琉球列島の



頗る多い。

南部、臺灣、小笠原諸島には熱帶性の榕樹林、投樹、檳榔等茂り、バナナ、パイナップル等の果實を産する。九州、四國、本州、朝鮮には暖帶及び溫帶性の櫟、樟及び榲松、杉、檜等の樹木、蜜柑、梨、葡萄等の有用果實を産する。北海道樺太には寒帶性の蝦夷松、樅松、落葉松の森林がある。

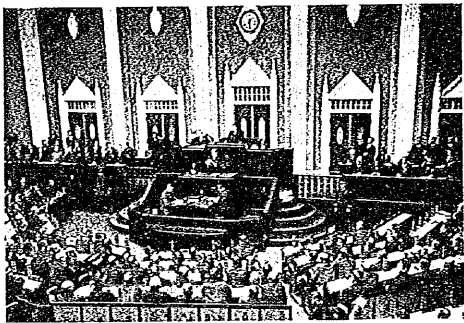
動物は植物の如くその變化著しくない。北海道、本州、朝鮮には馬、牛、豚の如き有用家畜飼はれ、臺灣には水牛を役とする。尙朝鮮には虎、北海道樺太には熊がある。外、北方近海には鰻、鮎、鰒等がある。近海は諸種の魚族に富み、水産が

第二節 人 文

一、住民 大和民族はアジア人種中の最優等種族で、國民の大部分を占め、忠君愛國の精神に富み、夙に支那、印度の文化を入れ近く西洋文化を輸入して、今やその文化はヨーロッパ種族に劣らない。この他朝鮮族、支那族、アイヌ族等があつて、言語、風習等を異にするが、次第に大和民族と同化するやうになつた。

人口は總數九千餘萬人、その内、内地に六千萬餘人、平均密度一方料に約百六十九人である。尙その増加が著しくて、年々八九十萬人に及ぶ。従つて移民の必要が大であるが、在外内地人は僅に七十餘萬人に過ぎない。

宗教中、佛教は最も弘く行はれ、神道、キリスト教を信ずるものこれに次ぐ。國民は敬神の念厚く、神社が甚だ多い。教育はその制度よく整ひ、初等、中等、高等教育の機關よく完備し、その普及、學藝の發達日



衆議院の議場

を逐うて盛んである。

二、政治 我が國は上に萬世一系の天皇を戴く立憲帝國で、國體の美なることは世界萬國にその比を見ない。

天皇は萬づの政を總べさせ給ひ、その下に立法、行政、司法の三機關が設けられてゐる。

立法部 立法部は貴族院と衆議院とから成る帝國議會で、主に法律、案及び歳計を審議する。

行政部 中央政府に内閣及び内務、外務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農林、商工、逓信、鐵道、拓務の十二省があ

る。内閣總理大臣は各省の大臣と共に内閣を組織し、政務を執る。

地方は三府、四十三縣、北海道、樺太、臺灣、朝鮮に分ち、府縣に知事、北海道、樺太に長官、臺灣及び朝鮮に總督を置いて、地方の政務を掌らしめる。又關東州租借地と南洋委任統治地とは各、長官を置く。

司法部 裁判所はその機關で、區裁判所、地方裁判所、控訴院、大審院の階級がある。臺灣、朝鮮、關東州、南洋には特別の司法制度がある。

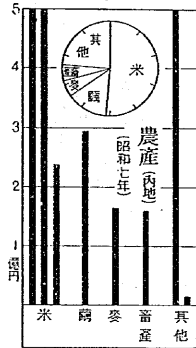
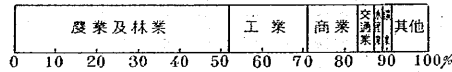
軍備 我が陸海軍は大元帥陛下の統率し給ふ所で、徴兵制度を布く。陸軍は内地に十四師團を配置し、別に東京に近衛師團を置く。又朝鮮には二個師團、臺灣、滿洲及び北支那には守備隊を駐屯せしめる。海軍は帝國領海を三區に分ち、各區に一個の軍港を設け、軍艦を配屬して警備せしめる。その他國防上重要な地には要塞、要港等の設備がある。

我が國は列國と對等の條約を結び、その數は五十餘國で概ね互に大使又は公使を派して國交を修める。又別に要地には領事を置いて、通商及び居留民の保護に當る。

財政は國勢の發達に従つて膨脹し、歳出は約二十二億圓になつてゐる。國債の額も少くない。

三産業 我が國は古來農を以て本とし、國民の過半は之に従事する。

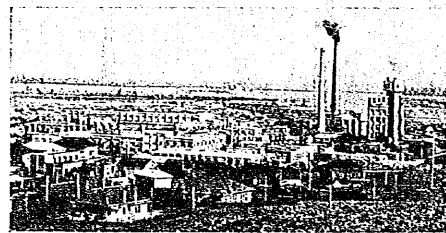
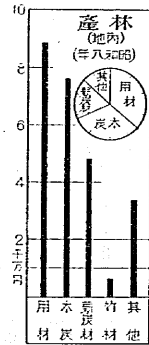
(地内) 割合の人口別業職



盛んである。従つて生絲、絹織物の産額多く、中にも生絲の輸出高は世界第一で、支那の上に位する。

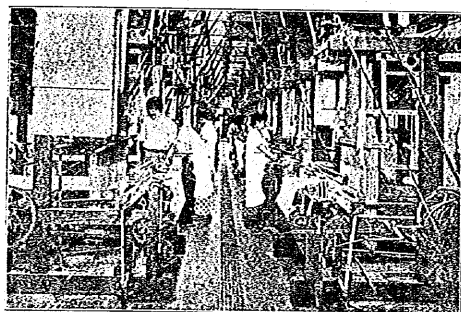
牧畜業は發達しないので、羊毛、皮革等は外國から多く買ふ。

我が國土の半は森林で、杉、檜、松類の産が多い。しかし、なほ多量の木材を輸入する。

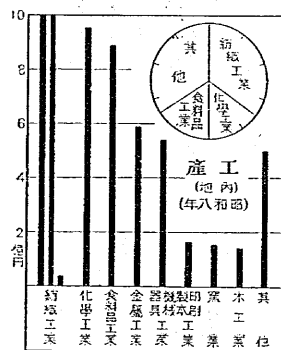


(取須重の太棒) 場工ブルバ

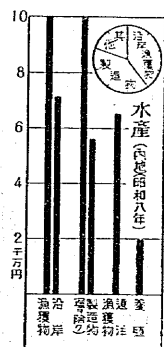
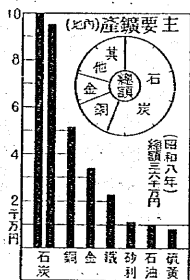
木材を原料とするパルプ及び製紙業は近年北海道樺太に發達した。水産業は甚だ有望で、漁區南北に擴がり、その生産額世界第一で、支那・南洋等に輸出する。



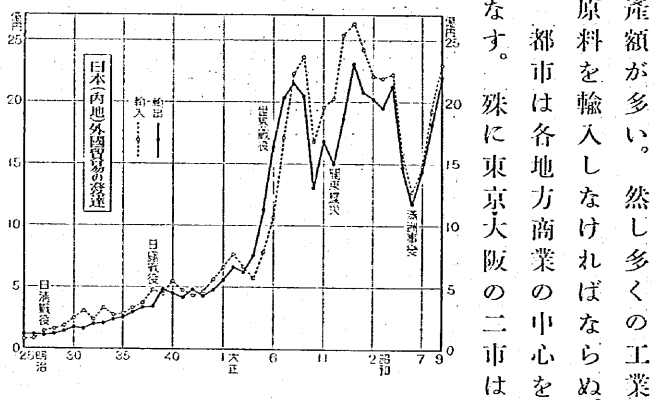
(生州縣馬群)場工織絹



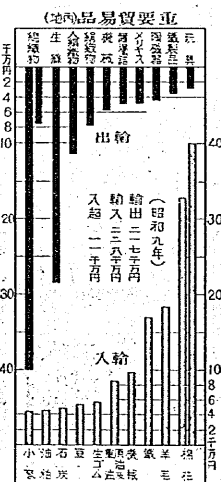
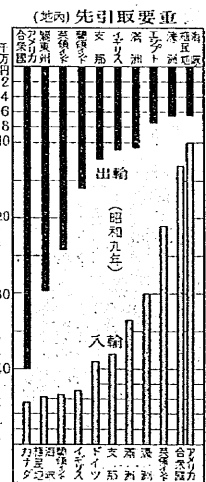
鑛産の第一は石炭で輸出もされる。しかし鐵鑛・石油の産出額が少なくて、多量に外國から買はねばならぬ。



工業は近時急速の進歩をなし、大規模の工場各地に起り、殊に東京・大阪・名古屋附近及び北九州は主な工業地帯で、製品の種類や



國內商業の二大中心で、名古屋も近時勃興して中部の中心となつてゐる。外國貿易は内地は四十餘の開港場で行はれ、貿易額年々増加し、輸出入總



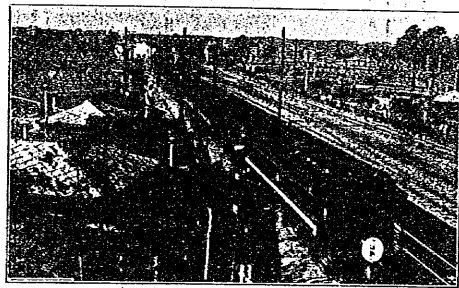
額は昭和九年には約四十五億圓に達したが、世界戰役後は著しい輸入超過である。そしてその輸出品の多くは製造品で、輸入品の多くは原料品である。

開港場中最も盛んなのは神戸・大阪・横濱で、輸出入額の凡そ八割を占める。

朝鮮の貿易額は約一億圓、臺灣の貿易額は約七千萬圓である。

四交通 内地の道路は國道及び府縣市町村道に分つて次第に改良せられ、自動車も到るところに通つてゐる。

鐵道の發達は近年著しく、内地の總延長二萬餘軒に及び、その大部分は國有である。この他朝鮮に四千軒、臺灣に一千五百餘軒、樺太に六百軒、南滿洲には千餘軒の鐵道が



(車列行急放る走を道海東)「めはつ、急特
(近附驛澤縣縣川奈神)

ある。又主要都市とその附近には大抵電車がある。

海運も近年長足の進歩をなし、汽船の總噸數四百餘萬噸、世界第三の海運國である。日本郵船會社、大阪商船會社等は沿岸航路は勿論、滿洲支那・シベリヤ・南洋・オーストラリヤ・印度・ヨーロッパ・アフリカ・南米・北米に航路を開いてゐる。

郵便電信も萬國聯合に加はる外、その機關よくと、のひ主要都市には電話の架設せられぬところなく、次第に長距離に通じ無線電信、無線電話は世界的に利用せられるやうになつた。

航空路も次第に開かれて、定期の旅客輸送も行はれるやうになつた。

訂五 女子新地理教科書 日本地理篇 終

附 錄

甲、舊道別と國名

畿 内	山城 大和 河内 和泉 播磨	
東 海 道	伊賀 伊勢 志摩 尾張 三河 遠江 駿河 甲斐 伊豆 相模 武藏 安房 上總 下總 常陸	
東 山 道	近江 美濃 飛騨 信濃 上野 下野 磐城 岩代 陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後	
北 陸 道	若狹 越前 加賀 能登 越中 越後 佐渡	
山 陽 道	播磨 美作 備前 備中 備後 安藝 周防 長門	
山 陰 道	丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲 石見 隱岐	
南 海 道	紀伊 淡路 阿波 讃岐 伊豫 土佐	
西 海 道	筑前 筑後 豐前 豐後 肥前 肥後 日向 大隅 薩摩 壹岐 對馬 琉球	
北 海 道	渡島 後志 石狩 天鹽 北見 釧路 日高 十勝 釧路 根室 千島	

乙、行政區劃・面積・人口・都市

概ね昭和九年十月一日現在

一、樺太地方

面積 三六〇九〇方里

人口 二九萬 人口密度(方里) 八人

都市(内地は市、●印は行政上の中心)

●豊原(三・三) 大泊(三・〇) 知取(二・〇)

恵須取(一・八) 落合(一・八) 眞岡(一・六)

敷香(一・六) 泊居(一・二) 本斗(一・〇)

支廳 豊原・大泊・本斗
眞岡・泊居・元泊
敷香

附 錄

附 録

二、北海道地方

石狩・後志・

檜山・渡島・膽振・

日高・空知・上川・

留萌・宗谷・網走・

十勝・釧路國・根室

支廳

札幌(一九・三)

小樽(一五・三)

室蘭(六・一)

釧路(五・九)

帶廣(三・四)

函館(二三・四)

旭川(九・一)

釧路(五・九)

帶廣(三・四)

三、奥羽地方

府 縣 名	管轄區域	面積 平方 里	人口 萬	人口密度 人
福 島 縣	岩代・磐城の大部分	一三七八	一五・六	●福島(四・九) 郡山(五・八) 若松(四・五)
宮 城 縣	陸奥の大部分	七二七四	一一・二	●仙台(三・七) 石巻(三・五)
岩 手 縣	陸奥の大部分・陸奥の一部分・陸奥の一部分	一五二三	一〇・四	●盛岡(六・九)
青 森 縣	陸奥の大部分	九六三一	九・三	●青森(九・一) 八戸(五・八) 弘前(四・六)
秋 田 縣	羽後・羽前の大部分・陸奥の一部分	一六六四	一〇・三	●秋田(六・一) 米澤(四・五) 鶴岡(三・六)
山 形 縣	羽前・羽後の一部分	九三二六	一一・二	●山形(七・二) 米澤(四・五) 鶴岡(三・六)

四、關東地方

東京府	武蔵一部分 伊豆七島・小笠原諸島	面積 三二二四平方 里 人口 一四九三萬 人口密度 四六三人
東京府	武蔵一部分 伊豆七島・小笠原諸島	面積 二二四五平方 里 人口 五六一四萬 人口密度 八王子(五・七)

五、中部地方

府 縣 名	管轄區域	面積 平方 里	人口 萬	人口密度 人
神奈川縣	武蔵の一部分・相模	二三五三	一七・八	●横浜(七・三) 横須賀(六・〇)
千 葉 縣	上總の大部分 下總・安房	五〇七九	一五・三	●千葉(五・五) 銚子(四・六) 市川(三・〇)
埼 玉 縣	武蔵の一部分	三八〇三	一五・一	●浦和(四・五) 川口(四・七) 熊谷(三・八)
群 馬 縣	上野	六三三六	一四・四	●前橋(九・四) 桐生(六・七) 高崎(六・四)
栃 木 縣	下野	六四三七	一四・八	●宇都宮(八・六) 足利(四・八)
茨 城 縣	常陸 下總の一部分	六〇九一	一五・五	●水戸(六・六)

人口 一二五二萬 人口密度 一八八人

附 録

六、近畿地方

府 縣 名	管轄區域	面積 平方 里	人口 萬	人口密度 人
靜 岡 縣	駿河・伊豆の大部分・遠江	七七七〇	一九・〇	●静岡(一・八) 濱松(二・三)
愛 知 縣	尾張・三河	五〇八一	二七・六	●名古屋(二・〇) 豊橋(一・五) 瀬戸(四・二)
岐 阜 縣	美濃・飛騨	一〇四九五	一一・一	●岐阜(一・七) 大垣(四・一)
山 梨 縣	甲斐	四四六六	六・六	●甲府(八・八)
長 野 縣	信濃	一三六二六	一七・九	●長野(八・〇) 松本(七・九) 上田(三・七)
新 潟 縣	越後・佐渡	一五五七八	二〇・〇	●新潟(三・八) 高田(六・二)
富 山 縣	越中	四二五七	八・〇	●富山(七・八) 高岡(五・七)
石 川 縣	加賀・能登	四一九八	七・六	●金沢(一六・五)
福 井 縣	越前・若狹	四〇一八	六・三	●福井(七・一)

面積 三二九八平方
人口 一一七七萬 人口密度 三五七人

附 録

滋賀縣	近江	四〇五一	七	①大津(六・七)
京都府	山城・丹波の大部分	四六二一	一六七	②京都(一〇五・三)
大阪府	攝津の大部分	一八一四	三九二	③大坂(二七・三) 堺(二・九)
兵庫縣	攝津の一部分・丹波の一部分	八三二三	二八〇	④岸和田(三八)
奈良縣	大和	三六八九	六一	⑤神戶(八五・四) 西宮(八・三) 姫路(七・七)
和歌山縣	紀伊の大部分	四七二三	八七	⑥尼崎(五・五) 明石(四・〇)
三重縣	伊勢・伊賀・志摩	五七六五	一二〇	⑦奈良(五・六)
山形縣	備前・美作・備中	七〇四六	一三二	⑧和歌山(一七・一) 海南(三・一) 新宮(三・〇)
廣島縣	安藝・備後	八四三七	二七五	⑨津(六・六) 宇治山田(五・六)
山口縣	周防・長門	六〇八二	一一七	⑩四日市(五・五) 松阪(三・五)
島根縣	出雲・石見・隱岐	六六一八	七五	⑪山口(三・四) 下関(二・六) 宇部(七・六)
鳥取縣	因幡・伯耆	三四八九	五〇	⑫萩(三・一)
徳島縣	阿波	四一四三	七四	⑬松江(四・七)
香川縣	讃岐	一八五九	七六	⑭島取(四・四) 米子(三・七)
愛媛縣	伊豫	五六六七	一一八	⑮人口 三四二萬 人口密度 一八二人
八、四國地方				⑯高松(八・六) 丸龜(三・〇)
七、中國地方				⑰松山(八・九) 宇和島(五・五) 今治(五・三)
九、九州地方				⑱八幡濱(三・〇)
高知縣	土佐	七・〇四	七四	⑲福岡(二・八) 八幡(三・〇) 倉敷(三・二)
福岡縣	筑前・筑後	四九四〇	二七一	⑳門司(一・五) 大牟田(二・五)
佐賀縣	肥前の一部分	二四四九	七〇	㉑小倉(一・〇) 久留米(九・二) 若松(七・三)
長崎縣	肥前の一部分	四〇七六	一一九	㉒戸畑(六・三) 飯塚(四・六) 直方(三・六)
熊本縣	肥後	七四三八	一四〇	㉓佐賀(四・九) 唐津(三・〇)
鹿兒島縣	薩摩・大隅	九一〇四	一六二	㉔長崎(二・七) 佐世保(一・五)
宮崎縣	日向	七三三九	八二	㉕熊本(一・八・六)
大分縣	豊後・豊前の大部分	六三三四	九七	㉖鹿兒島(一・七・七)
沖縄縣	琉球	二三八六	五九	㉗宮崎(六・九) 都城(四・〇) 延岡(三・六)
一〇、臺灣地方				㉘大分(六・〇) 別府(四・八) 中津(三・〇)
臺北	臺北	四五六六	一〇一	㉙那覇(六・五) 首里(二・〇)
新竹	新竹	四九九九	七二	㉚人口 五〇六萬 人口密度 一四一人
臺中	臺中	七三八三	一一三	㉛臺北(二・七・六) 基隆(八・一)
臺南	臺南	五四二一	一二八	㉜淡水(二・六) 宜蘭(二・六)
高雄	高雄	五七二三	六九	㉝新竹(五・二)
澎湖	澎湖	一二七	七	㉞臺中(六・五) 彰化(五・〇) 鹿港(三・九)
附 録				㉟臺南(一〇・六) 嘉義(六・七) 斗六(三・五)
				㊱高雄(七・六) 屏東(三・九)
				㊲馬公(二・二)

附 録

高知縣	土佐	七・〇四	七四	①高知(二・七)
福岡縣	筑前・筑後	四九四〇	二七一	②福岡(二・八) 八幡(三・〇) 倉敷(三・二)
佐賀縣	肥前の一部分	二四四九	七〇	③門司(一・五) 大牟田(二・五)
長崎縣	肥前の一部分	四〇七六	一一九	④小倉(一・〇) 久留米(九・二) 若松(七・三)
熊本縣	肥後	七四三八	一四〇	⑤戸畑(六・三) 飯塚(四・六) 直方(三・六)
鹿兒島縣	薩摩・大隅	九一〇四	一六二	⑥佐賀(四・九) 唐津(三・〇)
宮崎縣	日向	七三三九	八二	⑦長崎(二・七) 佐世保(一・五)
大分縣	豊後・豊前の大部分	六三三四	九七	⑧熊本(一・八・六)
沖縄縣	琉球	二三八六	五九	⑨鹿兒島(一・七・七)
一〇、臺灣地方				⑩宮崎(六・九) 都城(四・〇) 延岡(三・六)
臺北	臺北	四五六六	一〇一	⑪大分(六・〇) 別府(四・八) 中津(三・〇)
新竹	新竹	四九九九	七二	⑫那覇(六・五) 首里(二・〇)
臺中	臺中	七三八三	一一三	⑬人口 五〇六萬 人口密度 一四一人
臺南	臺南	五四二一	一二八	⑭臺北(二・七・六) 基隆(八・一)
高雄	高雄	五七二三	六九	⑮淡水(二・六) 宜蘭(二・六)
澎湖	澎湖	一二七	七	⑯新竹(五・二)
附 録				⑰臺中(六・五) 彰化(五・〇) 鹿港(三・九)
				⑱臺南(一〇・六) 嘉義(六・七) 斗六(三・五)
				⑲高雄(七・六) 屏東(三・九)
				⑳馬公(二・二)

368
447

